平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	資料整備事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020202
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小池岳史	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業	02 資料整備事業

予算事業名	資料整備事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	10	事業	08

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）		収蔵資料の内、劣化の激しい鉄器・木器・土製品を中心に保存処理を行い、保存処理終了後は考古館常設展示において公開する。 収蔵資料の写真撮影を行い、台帳化を進める。 市民学習用の図書資料の購入。
現状と背景（どうして）		収蔵資料の内、鉄器や木器・土製品は劣化が激しいため、貴重な資料から保存処理・修復を行う必要がある。 保存処理が必要な収蔵資料は発掘調査により増加しているが、保存処理・写真撮影を行っていない。
目的	対象 受益者（誰のために）	施設利用者
	対象 対象（直接働きかける）	寄贈・購入された図書 保存処理・修理が必要な収蔵資料
	意図（どんな状態にしたいか）	収蔵資料・図書資料で台帳化が行われていないものを台帳化する。 保存処理・修復を実施し展示できる状態にする。 展示公開の実施および貸出要望に応えられるようにする。
手段・方法（どうやって）		図書資料は受領次第台帳化する。 収蔵資料から学術的に重要で、劣化の激しいものを選択し台帳化を行い優先順位を決定する。 優先順位に基づいて保存処理を実施する。 保存処理したものを順次公開する。

評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	新規寄贈図書・購入図書資料の台帳	図書台帳化率	%	購入・寄贈図書資料/購入・寄贈図書台帳化率	100
	保存処理された資料	遺物保存処理率	%	保存処理実施点数/保存処理必要点数	100
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	新規寄贈図書・購入図書資料の台帳化率	台帳化率	%	新規図書数/新規図書台帳記入数	100
	保存処理された資料の公開率	保存処理された資料の公開率	%	保存処理済みの資料数／保存処理済資料展示回数	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	1,026,549	1,032,760	1,036,170	874,164	1,066,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	1,026,549	1,032,760	1,036,170	874,164	1,066,000
職員数	正規職員	人	0.05	0.05	0.10	0.10	0.10
	嘱託職員	人			0.10	0.10	0.10
	臨時職員	人	0.45	0.45	0.20	0.20	0.20
	合計	人	0.50	0.50	0.40	0.40	0.40
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	18.00	18.00	19.00	16.00	44.00
活動指標	図書台帳化率 目標	%	100	100	100	100	100
	図書台帳化率 実績	%	100	100	100	100	100
	図書台帳化率 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	遺物保存処理率 目標	%	100	100	100	100	100
	遺物保存処理率 実績	%	100	100	100	100	100
	遺物保存処理率 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標	台帳化率 目標	%	100	100	100	100	100
	台帳化率 実績	%	70	70	70	70	70
	台帳化率 達成率	%	70.00	70.00	70.00	70.00	70.00
	保存処理された資料の公開率 目標	%	100	100	100	100	100
	保存処理された資料の公開率 実績	%	20	30	30	30	50
	保存処理された資料の公開率 達成率	%	20.00	30.00	30.00	30.00	50.00

備考

市民プランの細施策において横断的な事務事業である。
H23から上記の活動指標・成果指標に変更。

事務事業名	資料整備事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020202
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小池岳史	連絡先	76-2270

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	宮坂英弐旧蔵資料の整理 保存処理の必要な考古資料の台帳化 土器の保存処理委託業務の仕様書作成	宮坂英弐旧蔵資料の整理 保存処理の必要な考古資料の台帳化	他業務との兼ね合いから進行が遅れ気味である。
第2期	宮坂英弐旧蔵資料の整理 保存処理の必要な考古資料の台帳化	宮坂英弐旧蔵資料の整理 保存処理の必要な考古資料の台帳化	他業務との兼ね合いから進行が遅れ気味である。
第3期	土器の保存処理委託業務の仕様書作成	土器の保存処理委託業務の仕様書作成	補修箇所の仕様(彩色、文様復元等)について、他機関の事例を参考にすることも必要か
第4期	土器の保存処理委託業務の業者選定、発注、中間検査、成果品納入 書籍の購入	土器の保存処理委託業務の業者選定、発注、中間検査、成果品納入 書籍の購入	3月中旬の事業完了を見込んでいたが、補修箇所の仕様に一部変更が生じ、納入が年度末となった。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

展示及び貸し出し頻度の高い土器を中心に、保存処理をどのように進めるか検討したい。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

評価年度：当年度

課題：図書資料の台帳化は目標通り進んでいるが、保存処理が必要な資料全体の状況把握と、整理を行わなければならない。
臨時職員の当業務を図書整理だけに限定している。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020202

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
保存処理・修復が必要な資料の把握・優先順位づけが業務の基礎であるが、効率が悪い。 臨時職員の業務状況を把握し、保存処理・修復台帳業務にあたる時間を確保できないか検討する必要がある。	・資料の状態を把握し保存処理を適切に実施することで、実物資料や写真資料の貸出要望に迅速に応えられるようにするために大事な事務である。 ・仕事量・業務分担の見直しにより効率的業務遂行が求めれらる。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
遺物保存処理・修復業務について、資料の重要性を鑑みて資料選定を行い、保存処理業者を早めに選定していく。 臨時職員が実施できる業務を明確にする。 保存処理遺物の常設展展示を早急に行う。	・保存処理が必要な資料の台帳化を進める。 ・仕事量・業務分担の見直しにより効率的業務遂行を図りたい。

最終評価年月日	平成30年5月13日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	文化財情報発信の充実による周知、啓発事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	07020109
担当部署	教育委員会	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　健　治	連絡先	76-2386

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	08 文化財の充実
			事務事業	05 一般事業

予算事業名	一般事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	11	事業	01

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	NPO縄文文化輝く会が主体となって行っている、考古学関係講演会の開催。 県天然記念物ミヤマシロチョウなどの希少高山蝶の保護パトロールを市民団体茅野ミヤマシロチョウの会に委託し、周知、啓蒙を行う。
現状と背景（どうして）	中央学会での成果に触れる機会が少ないため、講座を開催し好評を得ている。 ミヤマシロチョウを指定文化財と知らないことによる、捕獲などがあり減少の一途となっていたが、パトロールを継続することで周知化が図られてきている。
目的 対象 受益者（誰のために）	市民・考古学・歴史・自然に興味がある者
目的 対象 対象（直接働きかける）	NPO縄文文化輝く会に働きかけて 茅野ミヤマシロチョウの会に働きかけて
目的 意図（どんな状態にしたいか）	考古学に興味ある者の理解を深め、身近な縄文文化について再確認してもらう。 身近に貴重なミヤマシロチョウが生息していることを知ってもらい、保護・保存について理解を深めてもらう。
手段・方法（どうやって）	夏季に考古学や歴史民族等の関連学問を専門とする中央の研究者2名くらいに講演いただく。 茅野ミヤマシロチョウの会の学習会、観察会などで学び、その一つの活動として、生息地での啓発パトロールを行う。

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
講演会PR	案内状の発送数	通	NPO会員・地元の興味のある者	500
パトロール実数	パトロール日数	日	3人×20日	60

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
聴講者数	聴講者数	人	当日の聴講者数	80
指導しない日を増やす	指導しない日を増やす	%	1－（指導日数／パトロール実施日数）×100	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	499,000	390,260	467,800	468,800	498,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	499,000	390,260	467,800	468,800	498,000
職員数	正規職員	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	9.00	7.00	8.00	8.00	36.00
活動指標 案内状の発送数	目標	通	400	300	300	300	300
	実績		400	300	300	300	300
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
活動指標 パトロール日数	目標	日	60	60	60	60	60
	実績		60	100	60	60	60
	達成率	%	100.00	166.67	100.00	100.00	100.00
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標 聴講者数	目標	人	80	80	80	100	100
	実績		100	100	75	130	100
	達成率	%	125.00	125.00	93.75	130.00	100.00
成果指標 指導しない日を増やす	目標	%	100	100	100	100	100
	実績		100	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

備考	本事務事業は、一般事業費で実施されている内容であるため、事務事業評価は、本年度をもって終了し、平成30年度より一般事業と統合する。

事務事業名	文化財情報発信の充実による周知、啓発事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	07020109
担当部署	教育委員会	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　健　治	連絡先	76-2386

四半期ごとの管理

期	目　標	実　績	課　題
第1期	茅野ミヤマシロチョウの会との委託契約の締結。	茅野ミヤマシロチョウの会総会に出席。 茅野ミヤマシロチョウの会との委託契約の締結。	予定通りに茅野ミヤマシロチョウの会と委託契約を締結できた。
第2期	縄文文化輝く会と打ち合わせを行い、縄文文化講座を開催する。	縄文文化輝く会と打ち合わせを行い、8/27に縄文文化講座を開催し、予定を大きく上回る参加者を得た。	縄文文化の会との連絡調整。
第3期	茅野ミヤマシロチョウの会への委託金支払い。	実績報告を受け、現状の確認、次年度以降に取組みについて協議。	茅野ミヤマシロチョウの会からの請求が遅れ、委託金が支払えなかった。
第4期	委託金の支払い等、精算業務。	茅野ミヤマシロチョウの会への委託金支払い。	今後の取組方針の検討が必要。

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

契約事務など、順調に作業を進めることができた。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

契約事務など、順調に作業を進めることができた。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

ミヤマシロチョウは全滅の状況に瀕しており、今後の対応については極めて困難であるが、希少植物の保護などは事業の継続が必要である。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020103

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
講演内容を、より一般人が興味を引く話題性のあるものを取り上げるなど、企画内容を練る必要がある。 ミヤマシロチョウの監視活動は、パトロールだけでなく、幅広い啓もう、普及活動を展開していく必要がある。	文化財についての理解と関心を深め、身近な文化財について再認識してもらう機会とする。 地元で発見されたミヤマシロチョウを知ってもらい、生態系保護を含め理解を深めてもらう大切な施策である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

成果の方向性	細施策評価前 皆減	縮小	現状維持	拡大	細施策評価後 皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦				
現状維持		③	⑥ レ	⑨			レ	
縮小		④	⑧	⑩				
休廃止	①							

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
絶滅が危惧される文化財の保護監視活動を充実させることで、ミヤマシロチョウの生態やその観察を維持しなくてはならない。 文化財の重要性を周知し、関心を高めるために講演会の開催は重要な手立てとなり、これを継続することは重要である。	文化財を保護・保存していくためには、周知・啓もう活動事業は大事であり、できるだけ現状を維持したい。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	文化財保護団体育成支援事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	07020102
担当部署	教育委員会	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　健　治	連絡先	76-2386

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06	第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	08	文化財の充実
			事務事業	05	文化財保護団体育成支援事業

予算事業名	文化財保護団体育成支援事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	11	事業	02

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）		指定文化財保護・保全のために条例に基づき事業実施主体者に補助金を交付する。
現状と背景（どうして）		指定文化財保護・保全等の管理の一助として交付する。
目的	対象 受益者（誰のために）	指定文化財所有者・管理者
	対象（直接働きかける）	同上
	意図（どんな状態にしたいか）	指定文化財管理、修理事業を行い長く文化財を伝えていく。
手段・方法（どうやって）		指定文化財保有者または管理団体の活動に対し、補助金を交付する。

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	補助対象件数	補助対象率	%	補助対象件数/補助必要件数	100

	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	保護・保全の状態	補助対象事業達成率	%	補助対象件数/補助事業達成率	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	1,060,000	166,110	166,110	279,510	584,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	1,060,000	166,110	166,110	279,510	584,000
職員数	正規職員	人	0.05	0.05	0.25	0.10	0.10
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.05	0.05	0.25	0.10	0.10
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	19.00	3.00	3.00	5.00	24.00
活動指標	補助対象率 目標	%	100	100	100	100	100
	補助対象率 実績	%	100	100	100	100	100
	補助対象率 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績						
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
	－ 目標	－					
	－ 実績						
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	補助対象事業達成率 目標	%	100	100	100	100	100
	補助対象事業達成率 実績	%	100	100	100	100	100
	補助対象事業達成率 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績						
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－

備考：前年度事務事業評価シート名「文化財保護団体の育成と助成事業」（07020105）をこの事務事業評価シートに変更

事務事業名	文化財保護団体育成支援事業			事業期間	平成 ～ 年度	整理番号	07020102
担当部署	教育委員会	文化財課	文化財係	作成担当者名	小林 健治	連絡先	76-2386

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	各団体への補助金交付事務 「笹原のシダレヤナギ」樹木医診断実施	「御小屋之久保遺跡・栃窪岩陰遺跡」柏原遺跡保存会への補助金交付 「傘松」高部林野利用農業協同組合への補助金交付 「笹原のシダレヤナギ」樹木医診断実施	予定されている補助金交付団体へ申請の依頼をしたものの、申請がいまだ無し。
第2期	新しい補助金交付団体の情報収集	金沢区・笹原区・神之原区と指定文化財の保護事業について協議	指定文化財の現状把握
第3期	新しい補助金交付団体の事業内容確認	金沢区・笹原区・神之原区の保護事業を予算要求	指定文化財の現状把握
第4期	補助金実績報告書の確認及び補助金交付	実績報告の内容を精査し、補助金交付を全て完了	指定文化財の現状把握

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

特になし

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

補助金交付要綱に適合する必要な保護事業を予算要求し、すべて採択される。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題：指定文化財は、市内に所在する最も貴重な遺産と位置づけられるが、補助金の交付比率（20/100）が低い。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020105

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
補助箇所の順位付け等の工夫は必要であるが、定額で均一に補助を行うことで、適切な管理・保護が図られている。	指定文化財を後世に伝えて行くために、管理団体への補助金交付支援は大切な施策である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前 成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後 成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
指定文化財の現状を的確に把握し、文化財のき損等が起こらないようにしなければならない。	指定文化財の現状を的確に把握し、文化財のき損等が起こらないように保護保全のため文化財所有者・管理者に支援を続ける。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	史跡整備・管理事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	7020106
担当部署	教育委員会	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　健　治	連絡先	76-2386

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	08 文化財の充実
			事務事業	07 史跡整備・管理事務事業

予算事業名	史跡整備・管理費	会計コード	001	款	10	項	05	目	11	事業	06

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	公有地化を図った国史跡駒形遺跡27,020㎡、国史跡上之段遺跡23,531㎡の草刈り作業を実施、史跡の保存に努め、後世に残す。 整備された中ッ原縄文公園の清掃管理を行うほか、日常的な施設の保守、冬場の養生作業を行う。 また、市で管理する王経塚古墳と永明寺山古墳、中ッ原縄文公園の草刈りを行う。
現状と背景（どうして）	国史跡公有地の管理を行わないと荒廃化が進行し、周辺景観に悪影響を与える。 重要文化財土偶出土地保存公園の保護管理は、文化財保護の観点からも重要である。
目的　対象　受益者（誰のために）	公園利用者
目的　対象　対象（直接働きかける）	管理受託者
目的　意図（どんな状態にしたいか）	公有地を整然とした状態で維持したい。 常に整備、管理されたきれいな史跡公園を目指す。
手段・方法（どうやって）	公有地の草刈り作業を委託し、史跡を良好な状態に保守する。 史跡公園内の管理、植栽管理を行う。

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	草刈り実施面積	草刈り実施面積	㎡	草刈り委託面積	37,983
活動指標	公園清掃日数	清掃日数	日	9ケ月×4週×2日	72
活動指標					
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	草刈り管理されている面積	管理率	%	草刈り委託面積／指定地面積	100
成果指標	公園清掃割合	管理率	%	清掃実施日数／清掃委託日数	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	2,257,000	2,154,000	4,025,000	2,433,123	3,174,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	2,257,000	2,154,000	4,025,000	2,433,123	3,174,000
職員数	正規職員	人	0.20	0.20	0.30	0.25	0.25
	嘱託職員	人				0.05	0.05
	臨時職員	人					
	合計	人	0.20	0.20	0.30	0.30	0.30
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	40.00	38.00	72.00	44.00	94.00
活動指標 草刈り実施面積	目標	㎡	50,551	50,551	37,838	37,983	40,988
	実績		50,551	50,551	37,838	37,983	40,998
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.02
活動指標 清掃日数	目標	日	72	72	72	72	72
	実績		72	72	72	72	72
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
活動指標 ―	目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標 管理率	目標	%	100	100	100	100	100
	実績		100	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
成果指標 管理率	目標	%	100	100	100	100	100
	実績		100	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

備考：前年度事務事業評価シート名「史跡整備・管理事務」（07020107）をこの事務事業評価シートに変更

事務事業名	史跡整備・管理事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	7020106
担当部署	教育委員会	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　健　治	連絡先	76-2386

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	中ッ原縄文公園開園。 各種委託契約の締結。 各遺跡の草刈作業。	中ッ原縄文公園　4/7開園。 各種委託契約の締結完了。 各遺跡の草刈作業随時実施。	王経塚古墳・中ッ原縄文公園・永明寺山古墳・釜石古墳・一本槙古墳の草刈作業負担
第2期	各遺跡の草刈作業。	各遺跡の草刈作業。	他の業務との兼ね合いで、草刈実施日の設定が困難である。
第3期	高島藩主諏訪家墓所説明板設置。 中ッ原縄文公園閉園。 各種委託事業の竣工。	高島藩主諏訪家墓所説明板を諏訪市と統一仕様にて設置。 中ッ原縄文公園　12/4閉園。 各種委託事業を仕様通り竣工完了。	中ッ原縄文公園ジオラマの冬季養生方法の検討。
第4期	中ッ原縄文公園水道閉栓。 中ッ原縄文公園駐車場料金支払い。	中ッ原縄文公園の水道を閉栓することによって光熱水費を削減。 中ッ原縄文公園駐車場料金支払い完了。	特になし。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化
係の構成員の高齢化が著しく、自前草刈作業の負担が重くのしかかる。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）
知力・体力を必要とする業務であり、係構成員の世代交代が急務である。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題
公有地を適切に管理することは必要である。地元からも適切な草刈り管理の要望を受けている。
新しく整備した永明寺山古墳の草刈り等の事業が増えている。

記号の定義
Ａ：計画どおり事業を進めることが適当
Ｂ：事業の進め方に改善が必要
Ｃ：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
Ｄ：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	7020107

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
現状を維持し、今後も継続していくことが必要。	史跡地を整然とした状態で維持し、常に整備、管理されたきれいな史跡公園を目指すために大切な施策である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
現状維持で基本とするが、さらに草刈回数の増加等検討が必要。	平成31年度以降は、縄文の里史跡整備活用事業と同事業を統合し、本事業は廃止する方針である。

最終評価年月日	平成30年5月22日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	埋蔵文化財保存活用整備事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	7020107
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　深　志	連絡先	76-2386

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	08 文化財の充実
			事務事業	10 埋蔵文化財に関する周知、啓発事務事業
予算事業名	埋蔵文化財保存活用整備事業費			会計コード 001 款 10 項 05 目 11 事業 07
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	埋蔵文化財（土器・石器等）を公開・活用するために、再整理および台帳の作成を行う。埋蔵文化財を活用した小・中学校対象の体験学習会を開催し、埋蔵文化財に関する啓発を図るとともに、「市民総学芸員化」を進める。			
現状と背景（どうして）	収蔵庫に保管されている埋蔵文化財の整理が十分でないため、公開・活用に支障をきたしている。			
目的 対象 受益者（誰のために）	市民・埋蔵文化財に興味がある者			
目的 対象 対象（直接働きかける）	同上			
目的 意図（どんな状態にしたいか）	埋蔵文化財に直にふれる機会をとおし、地域の歴史を知り、学んでいただくとともに、埋蔵文化財を大切にする心を養っていただく。			
手段・方法（どうやって）	埋蔵文化財の公開・活用に係る準備作業を容易にするため、再整理と台帳化を進める。新たに復元された縄文土器等の写真撮影と保存場所の確保、台帳登録を行う。また、一例として、実物の縄文土器を手本に、土器作りの体験会を行う。			

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	埋蔵文化財の再整理	再整理した箱数	箱		100
活動指標	体験学習会の実施	埋蔵文化財に対する関心度	回		6
活動指標	収蔵資料の適正配置と写真撮影	台帳	個	収蔵し直し写真撮影した土器数／未整理土器数	1,000
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	埋蔵文化財の適切な収納と台帳化	資料の台帳化	%	パソコンへのデータ入力	100
成果指標	体験学習会の参加者数	市民総学芸員化	人	参加者数	120

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	1,987,376	1,993,232	1,713,455	1,969,505	2,070,000
財源内訳	国庫支出金	円	993,000	996,000	856,000	984,000	1,000,000
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	994,376	997,232	857,455	985,505	1,070,000
職員数	正規職員	人	0.20	0.20	0.45	0.15	0.15
	嘱託職員	人				0.10	0.10
	臨時職員	人					
	合計	人	0.20	0.20	0.45	0.25	0.25
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	35.00	36.00	31.00	35.00	63.00
活動指標	再整理した箱数 目標	箱	110	110	100	100	100
	実績	箱	96	100	100	100	100
	達成率	%	87.27	90.91	100.00	100.00	100.00
	埋蔵文化財に対する関心度 目標	回	6	6	6	6	6
	実績	回	6	6	6	6	6
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	収蔵資料の適正配置 目標	個				1,000	1,000
	実績	個				1,000	1,000
	達成率	%	―	―	―	100.00	100.00
成果指標	資料の台帳化 目標	%	100	100	100	100	100
	実績	%	100	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	市民総学芸員化 目標	人	120	120	120	120	120
	実績	人	110	51	22	20	120
	達成率	%	91.67	42.50	18.33	16.67	100.00

備考：前年度事務事業評価シート名「埋蔵文化財に関する周知、啓発事務事業」（07020110）をこの事務事業評価シートに変更

事務事業名	埋蔵文化財保存活用整備事業			事業期間	平成 ～ 年度	整理番号	7020107
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　深　志	連絡先	76-2386

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	収蔵資料の確認作業。	学校支援事業	遺跡発掘調査と埋蔵文化財保存活用整備調査を、同一の作業員が実施しているため、遺跡発掘調査の発生によって、埋蔵文化財保存活用整備調査が中断され、計画的な実施が困難な状況にある。
第2期	学校支援事業	学校支援事業	遺跡発掘調査と埋蔵文化財保存活用整備調査を、同一の作業員が実施しているため、遺跡発掘調査の発生によって、埋蔵文化財保存活用整備調査が中断され、計画的な実施が困難な状況にある。
第3期	学校支援事業	学校支援事業	遺跡発掘調査と埋蔵文化財保存活用整備調査を、同一の作業員が実施しているため、遺跡発掘調査の発生によって、埋蔵文化財保存活用整備調査が中断され、計画的な実施が困難な状況にある。
第4期	収蔵庫管理。	収蔵庫管理を集中的に行った。	遺跡発掘調査と埋蔵文化財保存活用整備調査を、同一の作業員が実施しているため、遺跡発掘調査の発生によって、埋蔵文化財保存活用整備調査が中断され、計画的な実施が困難な状況にある。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

発掘調査と作業員が重複するため、計画的にできない。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

例年通り

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

遺跡発掘調査と埋蔵文化財保存活用整備調査を、併行して実施できるよう、指導する職員の新たな作業員の確保が必要である。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	7020110

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
遺跡発掘調査と埋蔵文化財保存活用整備調査を、計画的に実施していることが困難な状況にあり、膨大な埋蔵文化財を死蔵させないよう、両事業のバランスを図らなければならない。	遺跡発掘調査と埋蔵文化財保存活用整備調査を、計画的に併行して実施していくための体制整備が必要である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
人員増をお願いしたい。	埋蔵文化財の台帳整理などを遅滞なく行うため人員確保が必要になる。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	市内遺跡発掘調査受託事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	07020103
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　深　志	連絡先	76-2386

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策 06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策 08 文化財の充実
			事務事業 11 埋蔵文化財発掘の実施と記録公開事務事業
予算事業名	市内遺跡発掘調査受託事業費		会計コード 001 款 10 項 05 目 11 事業 03
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	各種開発事業に伴い、失われてしまう遺跡を記録保存するために発掘調査を行う。調査成果は発掘調査報告書にまとめ、後世に伝えていく。あわせて、地域の歴史に直にふれていただくために現地説明会を開催する。		
現状と背景（どうして）	茅野市の歴史的財産である遺跡が失われるため、記録保存を図る必要がある。		
目的　対象　受益者（誰のために）	市民、遺跡に関心のある者		
目的　対象　対象（直接働きかける）	開発事業者		
目的　意図（どんな状態にしたいか）	事業者に発掘調査の協力を求め、その中で現地説明会を開催し、失われる遺跡を見学してもらう。あわせて、発掘調査報告書を刊行し、歴史を学ぶ一助に活用していただく。		
手段・方法（どうやって）	発掘現場の公開と、発掘報告書を作成する。		

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	開発事業者との遺跡の保護協議	開催回数	回	保護協議回数	10
活動指標					
活動指標					

	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	保護協議の割合	開催率	%	遺跡内開発件数/保護協議回数	100
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	954,650	238,140	918,250	70,104	2,003,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	954,650	238,140	918,250		2,003,000
	一般財源	円				70,104	
職員数	正規職員	人			0.30	0.25	0.25
	嘱託職員	人				0.10	0.10
	臨時職員	人					
	合計	人			0.30	0.35	0.35
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	17.00	4.00	16.00	1.00	75.00
活動指標	開催回数 目標	回	10	10	10	10	10
	開催回数 実績	回	2	0	1	1	1
	開催回数 達成率	%	20.00	0.00	10.00	10.00	10.00
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標	開催率 目標	%	100	100	100	100	100
	開催率 実績	%	100	100	100	100	100
	開催率 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―

備考　前年度事務事業評価シート名「市内遺跡緊急発掘調査事務」（07020111）をこの事務事業評価シートに変更

事務事業名	市内遺跡発掘調査受託事業			事業期間	平成 ～ 年度	整理番号	07020103
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　深　志	連絡先	76-2386

四半期ごとの管理

期	目　標	実　績	課　題
第1期	開発業者との保護協議	協議なし	事前に開発状況を把握する。
第2期	開発業者との保護協議	市道拡幅工事において頭殿沢上遺跡の拡大が確認され調査を行った。市費で対応。	事前に開発状況を把握する。
第3期	開発業者との保護協議	協議なし	事前に開発状況を把握する。
第4期	開発業者との保護協議	協議なし	事前に開発状況を把握する。

事　中　評　価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

人的に不足しており、発掘調査を次年度にせざるを得なかった。開発者の理解が得られたが、難しい場合もある。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

試掘調査の結果、辻屋遺跡の発掘調査を行うことになった。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度	当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

試掘調査の結果、発掘調査が必要となったが、人員が不足しており、発掘調査を次年度にせざるを得なかった。開発者の理解が得られたが、難しい場合もある。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	7020111

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
試掘調査の結果、発掘調査が必要となったが、人員が不足しており、発掘調査を次年度にせざるを得なかった。開発者の理解が得られたが、難しい場合もある。	辻屋遺跡は試掘調査の結果、発掘調査が必要となったが、人員が不足しており、発掘調査を次年度にせざるを得なかった。辻屋遺跡の調査は開発業者の理解が得られ調査を延期し実施できたが、埋蔵文化財保護について理解を得られない場合もある。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
人員増をお願いしたい。	遅滞なく発掘調査を行うため、埋蔵文化財行政を担当できる職員の確保が必要である。また、新たな発掘作業員の確保と養成も必要である。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	市内遺跡発掘等調査事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	07020104
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　深　志	連絡先	76-2386

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	08 文化財の充実
			事務事業	11 埋蔵文化財発掘の実施と記録公開事務事業

予算事業名	市内遺跡等発掘等調査事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	11	事業	04

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	遺跡を開発事業から守るためには、遺跡の範囲や内容（遺構密度・深度）を把握した上で調整を図る必要がある。そのために遺跡の一部を対象に確認調査を行う。また、個人住宅を遺跡内に建築する際に、発掘調査を行い、記録保存をする。
現状と背景（どうして）	開発事業によって遺跡の破壊が進んでいる。
目的　対象　受益者（誰のために）	開発事業者、遺跡に関心のある市民
目的　対象　対象（直接働きかける）	開発事業者
目的　意図（どんな状態にしたいか）	遺跡保護と開発事業の調整を図り、茅野市の財産である遺跡を現状のまま後世に伝える。
手段・方法（どうやって）	確認調査で得られた遺跡の情報と開発事業の計画をすり合わせ、遺跡に影響のない場所または深度で事業を行っていただくよう設計変更などの協力を求める。 個人住宅建築に際し、施工業者と協議を行い、できるだけ遺跡の破壊がないように調整を行い、やむを得ない場合は発掘調査を行う。

評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	開発事業者との遺跡の保護協議	開催回数	回	保護協議回数	3
活動指標	保護する対象面積	保護対象面積	㎡	開発事業面積	1,000
活動指標					
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	保護協議の割合	開催率	%	遺跡内開発件数/保護協議回数	100
成果指標	保護された遺跡面積	保護率	%	遺跡影響開発面積/遺跡保護面積	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	1,303,326	3,443,961	2,459,405	2,859,638	3,053,000
財源内訳	国庫支出金	円	1,303,000	1,721,000	1,229,000	1,429,000	1,500,000
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	326	1,722,961	1,230,405	1,430,638	1,553,000
職員数	正規職員	人	0.35	0.35	0.55	0.25	0.25
	嘱託職員	人				0.10	0.25
	臨時職員	人					
	合計	人	0.35	0.35	0.55	0.35	0.50
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	23.00	62.00	44.00	52.00	101.00
活動指標	開催回数 目標	回	15	7	7	7	7
	開催回数 実績	回	10	7	7	6	7
	開催回数 達成率	%	66.67	100.00	100.00	85.71	100.00
	保護対象面積 目標	㎡	5,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	保護対象面積 実績	㎡	535	300	381	1,788	
	保護対象面積 達成率	%	10.70	30.00	38.10	178.80	―
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標	開催率 目標	%	100	100	100	100	100
	開催率 実績	%	100	100	90	100	100
	開催率 達成率	%	100.00	100.00	90.00	100.00	100.00
	保護率 目標	%	100	100	100	100	100
	保護率 実績	%	100	100	100	100	100
	保護率 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

備考	前年度事務事業評価シート名「市内遺跡範囲確認調査事業」（07020112）をこの事務事業評価シートに変更

事務事業名	市内遺跡発掘等調査事業			事業期間	平成 ～ 年度	整理番号	07020104
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　深　志	連絡先	76-2386

四半期ごとの管理

期	目　標	実　績	課　題
第1期	開発業者及び個人との保護協議	開発業者及び個人との保護協議	工事立会で、日程が重なることがある。
第2期	開発業者及び個人との保護協議	開発業者及び個人との保護協議	工事立会で、日程が重なることがある。
第3期	開発業者及び個人との保護協議	開発業者及び個人との保護協議	工事立会で、日程が重なることがある。
第4期	開発業者及び個人との保護協議	開発業者及び個人との保護協議	工事立会で、日程が重なることがある。

事　中　評　価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

開発業者との連絡調整が、円滑にはかられている。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

例年通り

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度　当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

受託事業などと重なり、本事業を優先させているため、他の事業に影響が出る。人的な不足が問題。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020112

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
受託事業などと重なり、本事業を優先させているため、他の事業に影響が出る。人的な不足が問題。	受託事業などと重なり、本事業を優先させているため、他の事業に影響が出る。人的な不足が問題。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
人員増をお願いしたい。	永明小学校・中学校建設工事に伴う発掘調査として新規事業が今後予定される。遅滞なく発掘調査を行うため人員確保あるいは委託などの予算増が必要になる。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	縄文の里史跡整備活用事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	07020105
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　健　治	連絡先	76-2386

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	08 文化財の充実
			事務事業	08 縄文の里史跡整備活用事業
予算事業名	縄文の里史跡整備活用事業費			会計コード 001 款 10 項 05 目 11 事業 05
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	茅野市は「縄文プロジェクト」を策定し、縄文をいかしたまちづくりをすすめている。この中核として、国特別史跡「尖石遺跡」、国史跡「上之段遺跡」、国史跡「駒形遺跡」の保存があり、中ッ原縄文公園や棚畑遺跡等を含め、縄文の里として整備活用を推進していく。平成29年度は、国史跡「駒形遺跡」の追加指定地を購入し公有地化する。購入費の80%を国庫補助金として受ける。			
現状と背景（どうして）	『縄文の里史跡整備・活用基本構想』の具現化のため、平成26・27年度に国史跡に追加指定された駒形遺跡の民有地を公有地化する必要がある。			
目的 対象 受益者（誰のために）	史跡周辺地域住民、史跡を訪れる市民や、文化財保護活用に取り組む全国民			
目的 対象 対象（直接働きかける）	史跡周辺地域住民、史跡を訪れる市民や、文化財保護活用に取り組む全国民			
目的 意図（どんな状態にしたいか）	国史跡「駒形遺跡」を公有地化し、史跡の保存と活用を図る。			
手段・方法（どうやって）	①縄文プロジェクト実行市民会議　守る部会によって、『縄文の里史跡整備・活用基本構想』（2017.3）が策定され、平成29年4月、市長に提言されている。本年度は、この提言に基づき基本個別計画に位置付けていく。この基本個別計画に基づき、史跡・遺跡・文化財のネットワーク構築など、整備活用を推進する。 ②今年度は、追加指定地の地権者説明会を開催し、売買契約を締結し公有地化進める。併せて税務署と税務協議が必要となる。			

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
史跡追加指定地の地権者売買契約合意	地権者合意形成率	%	合意形成した地権者数/地権者数	100

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
民有地の公有地化	史跡追加指定地公有化率	%	公有地化面積/史跡追加指定地面積	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円				23,236,900	109
財源内訳	国庫支出金	円				18,580,000	
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円				4,656,900	109
職員数	正規職員	人				0.30	0.30
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人				0.30	0.30
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	－	－	－	419.00	41.00
活動指標 地権者合意形成率	目標	%				100	
	実績					100	
	達成率	%	－	－	－	100.00	－
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標 史跡追加指定地公有化率	目標	%				100	
	実績					100	
	達成率	%	－	－	－	100.00	－
成果指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－

備考：平成31年度以降は、「史跡整備・管理費」と同事業を統合する方針であり、そのため同事業のコストは増額となるが、総額は現状維持となる予定である。

事務事業名	縄文の里史跡整備活用事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	07020105
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　健　治	連絡先	76-2386

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	①地権者説明会の開催 ②税務署との税務協議開始	①地権者説明会 6月27日開催 ②税務協議6月13日、税務協議資料提出6月22日、課税特例通知7月5日	地権者説明会を終え、今後、地権者個々との売買合意形成が必要となる。
第2期	①地権者個々との合意形成 ②売買契約の締結 ③所有移転登記 ④代金支払	地権者9名全員と直接会い、売買契約の合意形成に至り、契約を締結する。所有移転登記及び代金支払完了。	今後、税務協議の事業完了報告、国庫補助金の実績報告書等の事務をスピーディにこなす必要がある。
第3期	①税務協議-事業完了報告 ②支払調書作成・郵送 ②国庫補助金実績報告書作成	①税務協議-事業完了報告提出 ②支払調書作成・郵送完了 ②国庫補助金実績報告書提出	国庫補助金実績報告書の指摘事項や追加資料の提出依頼をスピーディにこなす必要がある。
第4期	①国庫補助金実績報告書の指摘事項や追加資料の提出等依頼事項への対応	実績報告書に特段の指摘事項はなく、問題なく国庫補助金を受理できる予定である。	公有地化された史跡の管理と活用。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

『縄文の里史跡整備・活用基本計画』を今年度策定する予定である。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

『縄文の里史跡整備・活用基本計画』を具現化していくため、文化庁との協議が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④ レ	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度　当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

日本遺産認定の場合、より広域的な整備・活用の計画が必要となる。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	
前年度評価シート整理番号	

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
国史跡指定範囲の公有地化を完了させ、国史跡の保存が図られなければならない。	公有地化後の管理と整備・活用のスケジュールを策定し、具現化していかなければならない。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
『縄文の里史跡整備・活用基本計画』策定により、平成30年度以降は、同計画に基づき事業を展開していかなければならない。	平成29年度に策定『縄文の里史跡整備・活用基本計画』に基づき、今後は史跡整備と活用を進め、縄文と歴史遺産を活かしたまちづくり人づくりを推進していく。平成31年度は現状維持であるが、事業は拡大の方向にある。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	ツキノ木遺跡発掘調査事業			事業期間	平成 29 ～ 30 年度	整理番号	07020108
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　深　志	連絡先	76-2386

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	08 文化財の充実
			事務事業	11 埋蔵文化財発掘の実施と記録公開事務事業

予算事業名	ツキノ木遺跡発掘調査事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	11	事業	08

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	玉川広田地区で圃場整備事業が計画されているが、その地域内に遺跡が存在し、造成工事によって破壊されてしまうため、事前に発掘調査を行い、記録保存を行う。平成29年度に発掘調査を実施し、平成30年度は発掘調査報告書作成業務となる。 諏訪地方事務所農地整備課からの受託事業として行うが、費用のうち農家負担分８％については、その50%が国庫補助の対象となるため、残り50%については市費となる。
現状と背景（どうして）	発掘調査で検出した遺構や出土した遺物を記録保存し、書籍とすることで市民に公開しなければならない。
目的　対象　受益者（誰のために）	市民
目的　対象　対象（直接働きかける）	玉川広田地区のツキノ木遺跡。
目的　意図（どんな状態にしたいか）	造成工事によって破壊されてしまう埋蔵文化財を記録保存し、後世に伝える。
手段・方法（どうやって）	諏訪地方事務所農地整備課との保護協議により、農政部局の国の補助金の内示が下りる6月下旬に受託契約を締結し、発掘調査の着工は7月初旬となる見込み。個人住宅等の発掘調査や工事立会と掛け持ちになるため、発掘調査は長期間となる。 発掘調査報告書の作成は、平成30年度に行う予定。

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	発掘調査	契約件数	件	契約件数	1
活動指標					
活動指標					

	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	遺跡発掘調査報告書	報告書作成件数	件	報告書作成件数	1
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円				5,086,210	1,633,000
財源内訳	国庫支出金	円				62,000	64,000
	県支出金	円				4,701,696	1,472,000
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円				322,514	97,000
職員数	正規職員	人				0.40	0.20
	嘱託職員	人				0.10	0.10
	臨時職員	人					
	合計	人				0.50	0.30
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	－	－	－	92.00	61.00
活動指標	契約件数 目標	件				1	1
	契約件数 実績	件				1	1
	契約件数 達成率	%	－	－	－	100.00	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	報告書作成件数 目標	件					1
	報告書作成件数 実績	件					1
	報告書作成件数 達成率	%	－	－	－	－	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	ツキノ木遺跡発掘調査事業			事業期間	平成 29 ～ 30 年度	整理番号	07020108
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　深　志	連絡先	76-2386

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	保護協議 受託契約書の締結	保護協議 受託契約書の締結	
第2期	発掘調査	発掘調査	他の市内遺跡があり、中断することが多い。
第3期	発掘調査	発掘調査	他の市内遺跡があり、中断することが多い。
第4期	整理作業	整理作業	

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

他の市内遺跡があり、調査を中断することが多い。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

報告書作成業務の予算を要求している。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③ レ	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

市内遺跡の調査の影響で、計画的な作業の進行が見込めない。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	
前年度評価シート整理番号	

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
市内遺跡の調査の影響で、計画的な作業の進行が見込めない。	市内の別の遺跡調査も行わなくてはならず、計画的な作業の進行が見込めない。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
計画的に作業を進めるため、人員増が必要。	計画的に作業を進めるため、人員増が必要。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	尖石史跡公園整備事業			事業期間	平成 10 ～ 年度	整理番号	07020205
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	正 木 美 香	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業	04 尖石遺跡整備事業
予算事業名	尖石史跡公園整備事業			会計コード 001 款 10 項 05 目 10 事業 04
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	平成27年度に策定した特別史跡「尖石石器時代遺跡」保存管理計画に基づき、史跡を適切に保存管理し、次世代に継承するとともに、縄文プロジェクトの核としてまちづくり・ひとづくりに資する整備活用を市民参加を得ておこなう。考古館と青少年自然の森、森林計画地と一体となった運営をおこなう。			
現状と背景（どうして）	史跡指定地は全体の94%の公有地化が終了した。平成2年度から国庫補助事業による史跡整備事業を開始し、平成20年度に完了した。今後の史跡整備については、保存管理計画に基づき、市民参加による史跡整備事業を実施していく。			
目的 対象 受益者（誰のために）	市民と観光客。			
目的 対象 対象（直接働きかける）	市民。尖石遺跡。			
目的 意図（どんな状態にしたいか）	市民や観光客が、八ヶ岳山麓の縄文文化とこれを支えた豊かな自然を体感・体験できる公園とする。 市民や観光客が、史跡を安心・安全に利用できるよう管理する。 市民に特別史跡の重要性を理解してもらう。			
手段・方法（どうやって）	史跡の保存管理、整備活用に資する作業（特定外来生物の駆除等）を市民参加により実施する。 史跡公園内の支障木の間伐や支障枝の枝払いをおこなう。 史跡整備やメンテナンスの方向性を示すため有識者会議を開催する。			

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	支障枝の枝払いと支障木の間伐	進捗度	%	完成率	100
活動指標	市民参加による史跡の整備作業	市民参加率	%	整備作業への市民参加回数/整備作業回数	100
活動指標	史跡公園の巡回点検	実施回数	%	実施回数/12ヶ月	100
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	利用者数の増加	利用者数増加率	%	今年度入館者数／前年度入館者数	102
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	883,900	1,577,100	2,800,520	1,325,783	2,848,000
財源内訳	国庫支出金	円	58,000	788,000	1,177,000		
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	825,900	789,100	1,623,520	1,325,783	2,848,000
職員数	正規職員	人	0.74	0.78	0.70	0.70	0.70
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.74	0.78	0.70	0.70	0.70
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	16.00	28.00	50.00	24.00	147.00
活動指標	進捗度 目標	%	100	100	100	100	100
	進捗度 実績	%	10	100	100	100	100
	進捗度 達成率	%	10.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	市民参加率 目標	%	100	100	100	100	100
	市民参加率 実績	%	100	100	100	100	100
	市民参加率 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	実施回数 目標	%	100	100	100	100	100
	実施回数 実績	%	10	100	100	100	100
	実施回数 達成率	%	10.00	100.00	100.00	100.00	100.00
成果指標	利用者数増加率 目標	%	100	100	100	102	102
	利用者数増加率 実績	%	100	100	100	111	102
	利用者数増加率 達成率	%	100.00	100.00	100.00	108.82	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
備考	平成２９年度成果指標の算出方法変更						

事務事業名	尖石史跡公園整備事業			事業期間	平成 10 ～ 年度	整理番号	07020205
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	正　木　美　香	連絡先	76-2270

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	・有識者会議の開催 ・支障枝払い委託準備 ・市民参加による史跡の整備作業 ・史跡公園の巡回点検	・有識者会議の開催4月26日 ・支障枝払い委託 ・市民参加による史跡の整備作業 ・尖石遺跡範囲確認調査地権者事前説明会	・与助尾根遺跡南側斜面の崩落 ・改修した木橋への砂の流入と園路の崩壊 ・危険木の増加 ・駐車場用地の不足
第2期	・与助尾根遺跡南側斜面の崩落防止方法確認 ・有識者会議の開催 ・尖石遺跡範囲確認調査等の文化庁協議 ・危険木の伐採・史跡公園の巡回点検	・与助尾根遺跡南側斜面の崩落防止のテスト開始 ・有識者会議の開催7月8日 ・尖石遺跡整備事業文化庁協議6月22日 ・危険木伐採・史跡公園の巡回点検	・与助尾根遺跡南側斜面の崩落 ・尖石遺跡範囲確認調査 ・木橋への砂の流入 ・支障枝の増加
第3期	・課題に対する実施計画及び予算要求 ・有識者会議の開催 ・復元住居のメンテナンス ・尖石遺跡範囲確認調査	・課題に対する実施計画及び予算要求 ・有識者会議の開催11月15日 ・復元住居のメンテナンス ・尖石遺跡範囲確認調査の実施	・課題に対する実施計画及び予算要求 ・範囲確認調査結果の地元報告と次年度計画の了承 ・実施計画の文化庁協議
第4期	・文化庁協議 ・地元代表者懇談会 ・総括報告書準備	・文化庁協議2月22日 ・地元代表報告会3月3日 ・総括報告書用資料写真募集1月25日	・与助尾根遺跡南側斜面崩落の養生結果 ・H30年度確認調査範囲と農地法との兼ね合い ・園路、復元家屋の経年劣化への手当て ・支障枝、落下木の増加

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

保存管理計画に基づき、史跡の保存管理事業を進めることが求められている。・園路の縄文舗装がえぐれるように痛んでいる。木橋を改修した折に、木橋の劣化の原因として園路からの砂の流入を指摘された。・与助尾根遺跡南側斜面崩落の確認をした際、穴や住居址に伴う可能性がある小穴が確認された。これらの遺構が消失しないよう、崩落を止める手段を講じることが求められた。・尖石遺跡範囲の確定と、イベント時の駐車場用地等多目的広場用地確保。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

・保存管理計画進行のための史跡整備有識者会議の開催
・支障枝の枝払い
・尖石遺跡範囲確認調査費
・史跡整備に係る基本整備計画策定費

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

・平成12年度整備を行った木橋の前後の「縄文舗装」園路が経年劣化のため、ひび割れて歩きにくいだけでなく砂が流れ、改修したばかりの木橋に悪影響を与えている。
・与助尾根遺跡の復元家屋のうち２棟が、日当たりや風通しが悪い環境にあるため、屋根・柱等腐食し入場観覧できない状況にあり、現状では廃屋状況の展示として内部に入れない状況にある。
・与助尾根遺跡の南側斜面が崩落し、縄文時代の遺構が失われつつあり、史跡毀損届を提出している。
・保存管理計画にも位置づけられている、尖石遺跡西側隣接地の多目的広場用地の確保と、遺跡の範囲確定が急務となっている。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07040205

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
・公園内の危険木の伐採を行い、より安全に公園を利用してもらえるようになった。 ・市民参加による周辺の環境整備により、より遺跡保護に関心を持っていただけるようになった。 ・整備委員会の実施により今後の史跡整備の方向性を導き出すことができるようになった。	・史跡を適正に管理し、維持し守ることは大切なことで、保護・保存を考えた史跡の適切な管理は必要なことである。 ・施設等の経年劣化による交換や、修理は経常的に必要である。 ・保存管理計画に基づいた具体的な史跡保全は、史跡を守るために重要な取組である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				レ
現状維持				
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策	細施策評価前	細施策評価後
	・有識者会議を開催し、史跡整備（メンテナンス）の方向性を示し、これに基づき、文化庁協議や実施計画等を通じ、整備計画の立案を目指す。 ・範囲確認調査により尖石遺跡の範囲を確定し、尖石遺跡西側隣接地（民有地）を公有地化を進め、史跡の活用を補うための多目的広場の整備を目指す。	・平成12年の整備から17年が経過し、老朽化や修理個所が目立ってきている現状や、遺跡の状況を踏まえ、第2次の史跡整備（メンテナンス）の方向性を有識者会議の議論、文化庁指導に基づき、できることから着実に行っていく。 ・尖石遺跡西側隣接地の公有地化を進め、史跡の活用を補い、さまざまな野外活動を展開することができる多目的広場の整備を通じ、縄文を意識したまちづくりを推進する。

最終評価年月日	平成30年5月13日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	守矢史料館施設管理事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08020307
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	柳　川　英　司	連絡先	73-0300

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	09 神長官守矢史料館の充実
			事務事業	01 維持管理運営事業

予算事業名	守矢史料館施設管理事業費　会計コード 001 款 10 項 05 目 09 事業 03
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	史料館の維持管理、特に守矢史料の保管管理と守矢史料館周辺の借地3,900㎡に植栽されている樹木の管理と、館前庭の芝管理に関わる事業。
現状と背景（どうして）	守矢史料館に収蔵されている古文書の保護・保存を図るために、収蔵庫等の燻蒸を行うことで古文書を虫害から守る。史料館周辺の植栽管理を行うことで、管理地の整備ができ荒廃化が避けられる。
目的　対象　受益者（誰のために）	来館利用者
目的　対象　対象（直接働きかける）	史料館に収蔵されている資料を対象。管理受託者に働きかける。
目的　意図（どんな状態にしたいか）	寄託されている古文書の防虫、防カビを行う。借地を整然とした状態で維持したい。
手段・方法（どうやって）	くん蒸作業を行い、古文書とその周辺の殺虫、殺カビを行う。周辺の植栽管理は、業者に委託し、保全していく。

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	燻蒸面積	燻蒸面積	㎡	年間薫蒸面積	70
活動指標	整備実施面積	整備実施面積	㎡	借地面積	3,900
活動指標					
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	実施された割合	燻蒸面積率	%	年間薫蒸面積／展示室・収蔵庫面積	100
成果指標	実施された割合	周辺整備率	%	当年度整備面積／前年度整備面積	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	1,474,000	3,665,000	2,693,000	2,475,707	2,623,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	1,474,000	3,665,000	2,693,000	2,475,707	2,623,000
職員数	正規職員	人	0.03	0.03	0.03	0.25	0.20
	嘱託職員	人	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
	臨時職員	人	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
	合計	人	0.15	0.15	0.15	0.37	0.32
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	26.00	65.00	48.00	45.00	79.00
活動指標 燻蒸面積	目標	㎡	70	70	70	70	70
	実績		38	38	38	38	38
	達成率	%	54.29	54.29	54.29	54.29	54.29
活動指標 整備実施面積	目標	㎡	3,900	3,900	3,900	3,900	3,900
	実績		3,900	3,900	3,900	3,900	3,900
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
活動指標 ―	目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標 燻蒸面積率	目標	%	100	100	100	100	100
	実績		54	54	54	54	54
	達成率	%	54.00	54.00	54.00	54.00	54.00
成果指標 周辺整備率	目標	%	100	100	100	100	100
	実績		100	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

備考

・平成27年度から、守矢史料館管理運営費(10-5-4-7)の目が、総合博物館費(10-5-4)から神長官守矢史料館費（10-5-6）に分離された。
・平成27年度から、平成26年度の守矢史料館管理運営費（10-5-4-7）から守矢史料館施設管理費（10-5-6-2）に変更された。。

事務事業名	守矢史料館施設管理事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08020307
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	柳　川　英　司	連絡先	73-0300

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	・燻蒸業者と早期に契約を締結する。 ・庭木手入れ及び周辺養生を早期に契約を締結する。 ・シルバー人材センターと早期に契約を締結し、5月～6月中に第1回目の草刈りを行う。	・燻蒸は5月10日に契約を締結した。 ・草刈は5月18日に契約を締結した。 ・6月10・11日に草刈を行った。	・庭木手入れ及び周辺養生の契約は、第1期内には契約は締結できなかった。
第2期	・7月3日から5日に展示室のくん蒸作業を行う。 ・造営業者と早期に契約を締結する。 ・草刈を第2期中に3回草刈を行う。 ・庭木手入れを行う。	・7月3日から5日に展示室のくん蒸作業を行った。 ・7月14日に庭木手入れ及び周辺養生の契約を行った。 ・8月6日・7日に草刈を行った。 ・7 月20日・21日・24日に庭木手入れを行った。	・担当者が守矢史料館に常駐していないため、状況がわからず、3回を予定していたが、1回しか草刈ができなかった。
第3期	・11月末までに、草刈を1回行う。		・担当者が守矢史料館に常駐していないため、状況がわからず、契約期間内に5回を予定していたが、2回しか草刈ができなかった。
第4期	雪掻きを行う	館職員で数回雪掻きを行う。	降雪日と降雪量が少なく、博物館から応援に行くタイミングが難しかった。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

・天候不順により草の生育状況が一定ではなく、草刈を行うタイミングが難しい。
・担当者が守矢史料館より離れており、繁忙期にはなかなか状況を確認しづらい。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

頻繁に守矢史料館に行き、草の繁茂状況を見る。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

・草刈りのタイミングが難しく、かなり伸びてしまってからの草刈りを行うことが多かった。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020307

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
・守矢史料館に収蔵している古文書は、重要な文化財であるため、虫害から守るため、くん蒸を行わなければならない。 ・守矢史料館は、周辺の守矢家の家屋、庭園とともに、歴史的景観となっており、保全しなければならない。	・守矢史料館に収蔵している古文書は、重要な文化財であるため、虫害から守るため、くん蒸を行わなければならない。 ・守矢史料館は、周辺の守矢家の家屋、庭園とともに、歴史的景観となっており、保全しなければならない。
前年度改革・改善策の実施状況：実施済	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

細施策評価前

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

改革・改善策

・早めの草刈り対応。

細施策評価後

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

・収蔵庫の文書等の保存管理のため燻蒸や防カビ対策を行う。また、早めの草刈の実施等周辺整備等適切な管理を行い、来館者を増やし館の価値を高める。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	守矢史料館展示事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08020308
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	柳　川　英　司	連絡先	73-0300

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	09 神長官守矢史料館の充実
			事務事業	02 常設展・企画展開催事業

予算事業名	守矢史料館展示事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	09	事業	03

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）		守矢史料館収蔵資料に関わる企画展を開催し、幅広い人に守矢文書を周知する。
現状と背景（どうして）		守矢文書は通常、保存の観点から収蔵したまま、現品の写真展示となっている。そこでテーマを設けてそれに沿った企画展を開催し、守矢文書の重要性を認識してもらう。
目的	対象 受益者（誰のために）	来館者
	対象 対象（直接働きかける）	史料館収蔵資料
	意図（どんな状態にしたいか）	多数の入館者を得たい。
手段・方法（どうやって）		企画展の回数を年3回行い、企画展ごとに、ポスター・チラシを作成し、また、インターネットなどで告知し、企画展ならびに守矢文書の内容について告知し、展示する。

評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	企画展を何回開催したか	企画展回数	回	開催回数	2
	企画展来館者数	企画展来館者数	人	企画展中の来館者数	7,633
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	企画展来館者数前年度比	企画展来館者数割合	%	今年度企画展中の来館者数／前年度の企画展中の来館者数	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	243,258	137,000	167,000	117,288	166,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	243,258	137,000	167,000	117,288	166,000
職員数	正規職員	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	4.00	2.00	3.00	2.00	30.00
活動指標	企画展回数 目標	回	2	2	2	2	2
	企画展回数 実績	回	3	3	3	4	3
	企画展回数 達成率	%	150.00	150.00	150.00	200.00	150.00
	企画展来館者数 目標	人					
	企画展来館者数 実績	人	3,916	4,765	7,883	7,633	7,700
	企画展来館者数 達成率	%	―	―	―	―	―
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標	企画展来館者数割合 目標	%	100	100	100	100	100
	企画展来館者数割合 実績	%	75	122	165	96	100
	企画展来館者数割合 達成率	%	75.00	122.00	165.00	96.00	100.00
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―

備考
- 平成27年度から、守矢史料館一般経費（10-5-4-6）の目が、総合博物館費(10-5-4)から神長官守矢史料館費（10-5-6）に分離された。
- 平成27年度から、平成26年度の守矢史料館一般経費（10-5-4-6）から守矢史料館展示事業費（10-5-6-3）を分離し、新設した。

事務事業名	守矢史料館展示事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08020308
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	柳　川　英　司	連絡先	73-0300

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	企画展「諏訪上社と江戸幕府・大名」を開催する。	・4月22日から7月2日まで企画展「諏訪上社と江戸幕府・大名」を開催し、入館者が期間中2,228人だった。	・企画展に関するイベントが少なかった。
第2期	企画展「茅野市の中世遺跡」を開催する。	・8月5日から10月9日まで企画展「茅野市の中世遺跡」を開催し、9月末までに、期間中入館者が2,543人だった。	・企画展に関するイベントが少なかった。
第3期	・企画展「諏訪高島藩主廟所国史跡指定記念『古文書などからみる頼岳寺高島藩主廟所と諏訪氏』」 ・「守矢史料館周辺を歩く」を開催する。	・企画展「茅野市の中世遺跡」の10月1日から9日までの入館者は、392人だった。 ・企画展「諏訪高島藩主廟所国史跡指定記念『古文書などからみる頼岳寺高島藩主廟所と諏訪氏』」の入館者は1,855人だった。 ・11月3日に守矢史料館周辺を歩くを開催した。	・11月25日にバスハイクを行うが、ルート決めが難しいところが多く、今回行けない場所があった。 ・バスハイクで昼食をとる場所がなかった。 ・ギャラリートークを2回開催したが、参加人数が合わせて6人と非常に少なかった。集客方法を考えていかなければならない。 ・守矢史料館周辺を歩くは、内容がマンネリ化している。
第4期	企画展「戌年の古文書」を開催し、集客を図る。	・企画展「戌年の古文書」の期間中入館者は、615名だった。	・ギャラリートークを2回開催したが、参加人数が合わせて16人と非常に少なかった。これは寒さが影響していると思われるが、集客方法を考えていかなければならない。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

・担当者が、八ヶ岳総合博物館の企画展と並行して企画展を行っているため、企画展期間中のイベントを開催することに限界がある。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

・企画展期間中のイベントを増やしていきたい。

今後の方向性

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

・企画展に関連するイベントを行い、より来館者を増加させたい。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020308

総合評価

細施策評価前

・守矢史料館に収蔵している守矢文書は、茅野市だけではなく、国内においても非常に貴重な文化財である。貴重な文化財を保全し、また重要性を周知するために、企画展やイベントを行う必要がある。

前年度改革・改善策の実施状況：実施済

細施策評価後

・守矢史料館に収蔵している守矢文書は、茅野市だけではなく、国内においても非常に貴重な文化財である。貴重な文化財を保全し、また重要性を周知するために、企画展やイベントを行う必要がある。

前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

改革・改善策

企画展やイベントを行う。

貴重な収蔵物を多くの皆さんに知っていただけるよう、企画展やイベントを実施し来館者を増やす。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	博物館施設管理事業			事業期間	平成 元 ～ 年度	整理番号	08020301
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	両角英彦	連絡先	73-0300

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	10 八ヶ岳総合博物館の充実
			事務事業	01 施設維持・管理・運営事業

予算事業名	博物館施設管理費	会計コード	001	款	10	項	05	目	08	事業	03

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	博物館施設の維持管理をすると共に機材などのメンテナンスを行い、内外の美観保持にも配慮しながら来館者に親しまれる運営を行う。
現状と背景（どうして）	耐用年数を超えた機械類などの修繕及び取替えや、管理上美観を損なう草木の手入れを行い、施設の維持を実施していく。
目的 対象 受益者（誰のために）	市内外からの来館者。
目的 対象 対象（直接働きかける）	来館者及び設備管理委託業者
目的 意図（どんな状態にしたいか）	対象となる来館者が施設を十分な状態で使用できる環境を維持していく。 来館者に気持ち良く施設を利用してもらう。
手段・方法（どうやって）	○設備管理・清掃業務委託 ○芝管理委託 ○設備維持管理工事の実施 ○電気保安業務委託 ○展示室保守点検委託 ○日常点検

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
前庭の芝刈り込み回数	実施回数	回	年間目標実施回数	3

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
使いやすく、清潔で安全な施設	非苦情発生比率	%	１－（当年度苦情発生件数÷年間開館日数）×100	100
劣化による機械トラブルの発生回数	トラブル発生回数	回	年間発生回数	0

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	16,498,014	15,043,272	14,196,565	19,483,624	30,495,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					6,030,000
	一般財源	円	16,498,014	15,043,272	14,196,565	19,483,624	24,465,000
職員数	正規職員	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.25
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.25
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)		人	11,001	12,150	13,455	16,520	
単位コスト (a)/(b)		円	1,500	1,238	1,055	1,179	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	294.00	269.00	255.00	351.00	584.00
活動指標	実施回数 目標	回	3	3	3	4	4
	実績	回	3	3	3	4	4
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	－ 目標	－					
	実績	－					
	達成率	%	－	－	－	－	－
	－ 目標	－					
	実績	－					
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	非苦情発生比率 目標	%	100	100	100	100	100
	実績	%	100	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	トラブル発生回数 目標	回	0	0	0	0	0
	実績	回	1	0	0	0	0
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

備考

事務事業名	博物館施設管理事業			事業期間	平成 元 ～ 年度	整理番号	08020301
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	両 角 英 彦	連絡先	73-0300

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	設備管理・清掃業務の年間計画確認と発注 警備業務の年間計画確認と発注 芝管理業務の年間計画確認と発注	・設備管理・警備・芝管理について、年間計画を立て、契約を交わした。 ・日常的な定期点検を実施した。	・委託業務の仕様の見直しが必要 ・エントランスホールなどに雨漏りがある。職員通用口上の部材の脱落の危険性がある。
第2期	設備管理・清掃業務の適切な実施 照明器具・誘導灯などの点検と交換 適切な館内温度管理	・設備管理業者と打ち合わせ、委託業務を適切に実施した。 ・電力の引込柱が被雷し、空調設備等の取替工事を実施した。 ・温度管理に留意し、燃料費・電気料の縮減に努めた。 ・管理課の調査の結果、防水等改修の緊急性があり、管理課が実施計画を上げることになった。	・経費縮減の方法の検討
第3期	設備管理・清掃業務の適切な実施 照明器具・誘導灯などの点検と交換 適切な館内温度管理	・設備管理業者と打ち合わせ、委託業務を適切に実施した。 ・照明器具・誘導灯を点検し、必要により速やかに交換した。 ・経費縮減のため、昼休みの時間帯や来館者が少なくなる時間帯の可能な空調系統は、休止することとした。	・経費縮減の方法の検討 ・施設設備の老朽化に伴い、修繕等が必要になっている。
第4期	設備管理・清掃業務の適切な実施 展示ジオラマメンテナンスの委託発注 照明器具・誘導灯などの点検と交換 適切な館内温度管理	・展示ジオラマのメンテナンスを実施し、展示環境の維持に努めた。 ・非常用放送設備が故障し、取替工事を実施した。職員通用口の階段が破損し、修繕工事を実施した。 ・経費縮減のため、朝礼の際、委託業者と、その日使用する部屋と時間帯を確認し合い、空調機の熱源と送風機の入切を設定し直すこととした。	・経費縮減の方法の検討 ・建物東側通用口・アスファルト舗装の凸凹、敷地外周柵の状況を確認する必要がある。 ・長期計画（内部）の内容について、状況を確認する。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

7/7に施設設備が被雷し、空調の自動調整がきかくなくなり、電気使用量が前年に比べ増えた。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

o 改革・改善策 … 可能な空調系統は、昼休みや来館者が少なくなる時間帯には、職員が冷房を休止する対策をとっている。
o 新年度の実施計画 … ハロン消火設備交換工事（平成30年度）、冷温水発生機交換工事 2機（平成33年度以降、複数年度で実施）

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

博物館は、昭和63年に開館し、29年が経過している。
施設・設備の老朽化に伴い、修繕や交換などの経費が必要になっている。
空調の経費の縮減の方法を、引き続き検討していく。

記号の定義
A：計画どおり事業を進めることが適当
B：事業の進め方に改善が必要
C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020301

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
施設・設備が老朽化しているため、メンテナンスに気を配り、施設管理業者等からの連絡に迅速に対応する。 空調の経費（燃料費・電気料）の縮減の方法を検討していく。	施設・設備が老朽化しているため、日常的な定期点検の結果や施設管理業者等からの連絡に迅速に対応する。 空調の経費（燃料費・電気料）の縮減の方法を検討していく。
前年度改革・改善策の実施状況：一部実施	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③ レ	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持		レ		
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
・施設・設備が老朽化しており、多額の修繕料がかからないよう、施設管理業者と連絡を取りあっていく。 空調の経費縮減のため、各系統の使用状況に応じて、熱源と送風機の入切を設定し直す。 ・平成30年度に計画の工事の終了後は、平成31年度以降に建物東側通用口・アスファルト舗装の凸凹、敷地外周柵の改修が必要である。	・施設・設備が老朽化しており、多額の修繕料がかからないよう、施設管理業者と連絡を取りあっていく。 空調の経費縮減のため、各系統の使用状況に応じて、熱源と送風機の入切を設定し直す。 ・平成30年度に計画の工事の終了後は、平成31年度以降に建物東側通用口・アスファルト舗装の凸凹、敷地外周柵の改修が必要である。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両 角 勝 元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	資料収集・保管事業			事業期間	平成 21 ～ 年度	整理番号	08020302
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当名	柳 川 英 司	連絡先	73-0300

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	10 八ヶ岳総合博物館の充実
			事務事業	03 資料の収集・保管事業

予算事業名	資料収集・保管事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	08	事業	04

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）		自然や歴史・民俗などの資料を収集・保管し活用する。
現状と背景（どうして）		地域の自然や文化が自然環境の変化や開発、生活の習慣の変化により失われていく。
目的	対象 受益者（誰のために）	市民全体
	対象 対象（直接働きかける）	市内を中心とした自然や歴史などの文化財
	意図（どんな状態にしたいか）	次世代へ資料や文化を引き継ぐ。
手段・方法（どうやって）		・博物館職員が、資料の収集・保管を日常業務として行う。

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	どのくらい資料を収集したか	所有資料数	点	年度末における所有資料の総数	120,000
	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	収蔵資料の台帳化	台帳化率	%	所有資料数÷台帳化数×100	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	140,616	161,462	2,903,258	152,386	3,267,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	140,616	161,462	2,903,258	152,386	3,267,000
職員数	正規職員	人	0.10	0.10	0.10	0.15	0.15
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人	0.05	0.05	0.05	0.10	0.10
	合計	人	0.15	0.15	0.15	0.25	0.25
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	3.00	3.00	52.00	3.00	83.00
活動指標 所有資料数	目標	点	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
	実績		2,908	3,711	7,800	10,344	10,000
	達成率	%	2.42	3.09	6.50	8.62	8.33
活動指標 ―	目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―
活動指標 ―	目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標 台帳化率	目標	%	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
	実績		2,940	3,711	7,800	10,344	10,000
	達成率	%	2.45	3.09	6.50	8.62	8.33
成果指標 ―	目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―

備考

隔年で展示室・収蔵庫の燻蒸を実施するため、事業費に増額がある。
平成20年から台帳化率に変更する。
市民プランの細施策において横断的な事務事業である。対象細施策の政策体系番号 03050103

事務事業名	資料収集・保管事業			事業期間	平成 21 ～ 年度	整理番号	08020302
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	柳 川 英 司	連絡先	73-0300

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	・矢崎家文書の整理を行う。 ・送付されてくる図書類の整理を行う。 o蝶の標本の防虫剤の交換を行う。	・矢崎家文書については、4・5月に183点の古文書の整理を行った。 ・図書は101冊の整理を行った。 o標本69箱の防虫剤を交換した。	・古文書の整理については、整理できる担当者が1人のため、企画展の準備でほとんど整理を行うことができなかった。
第2期	・矢崎家文書の整理を行う。 ・送付されてくる図書類の整理を行う。	図書は46冊の整理を行った。	・企画展準備のため、矢崎家文書の整理作業は全くできなかった。
第3期	・矢崎家文書の整理を行う。 ・送付されてくる図書類の整理を行う。	・図書は47冊の整理を行った。 ・10月6日に諏訪市出身の地震学者　諏訪彰氏の資料を受け入れた。	・企画展準備のため、矢崎家文書の整理作業は全くできなかった。
第4期	・矢崎家文書の整理を行う。 ・送付されてくる図書類の整理を行う。 ・諏訪彰氏資料の整理を行う。	・図書は38冊の整理を行った。 ・諏訪彰氏の図書は受け入れてから2,129点の整理を行った。	・企画展準備のため、矢崎家文書の整理作業は全くできなかったが、全体では、少しずつ整理が進んでいるので、継続して取り組む必要がある。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

・古文書の整理については、整理ができる担当者が1人しかおらず、半年間、企画展準備にかかわっていたために、ほとんど整理を行うことができなかった。
o予算計上がなかったが、蝶の標本箱の防虫剤の交換作業をする必要が生じた。羽根などを痛めることがあるので、扱い慣れた方に依頼する必要があった。その方々には謝礼をお支払いすべきところだが、お話をする中で、必要ないということになった。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

・古文書整理を行うには、現在行っている業務の一部見直しが必要となる。
o改革・改善策　…　防虫剤の交換作業は、毎年、行う必要がある。相手方の好意を受け止め、今後も同様に行っていきたい。
o新年度の実施計画　…　燻蒸業務委託（収蔵庫、特別展示室・文芸館、第1展示室）

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度　当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

・古文書類については、現状で解読できる担当者が1名だけで、他の業務を並行して行っていく中で、整理作業を行っていくのは、なかなか困難な状況にある。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020302

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
・収蔵している資料は、茅野市にとっていずれも重要な資料である。貴重な資料を整理し、展示などをし、活用できるようにする。	・収蔵している資料は、茅野市にとっていずれも重要な資料である。貴重な資料を整理し、展示などをし、活用できるようにする。
前年度改革・改善策の実施状況：一部実施	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

成果の方向性	細施策評価前 皆減	縮小	現状維持	拡大	細施策評価後 皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦				
現状維持		③ レ	⑥	⑨		レ		
縮小		④	⑧	⑩				
休廃止	①							

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
・毎日ノルマをもって資料整理を進める。 ・平成30年度に計画の燻蒸の終了により、平成31年度はコストは縮小となる。	・毎日ノルマをもって資料整理を進める。 ・平成30年度に計画の燻蒸の終了により、平成31年度のコストは縮小となる。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	特別展等事業			事業期間	平成 1 ～ 年度	整理番号	08020306
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	両角英彦	連絡先	73-0300

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	10 八ヶ岳総合博物館の充実
			事務事業	04 常設展・特別展・講演会・研究会・講習会開催事業

予算事業名	特別展等事業	会計コード	001	款	10	項	05	目	08	事業	08

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	教育普及・展示会は博物館の使命の一つである。市民に多くの教育機会を提供し、魅力的な展示会を開催していく。 本事務事業は、従来5つに分かれていた下記の事務事業評価を統合したものである。 ①「常設展・特別展開催事業」②「講演会・研究会・講習会開催事業」③「こども科学クラブ事業」④「学校支援事業」⑤「観望会事業」
現状と背景（どうして）	常設展示だけでは、多くの市民が集う活発な博物館にはならない、多くの教育機会を提供し、展示会を開催することで博物館は活性化していく。
目的 対象 受益者（誰のために）	市民全体及び来館者。
目的 対象 対象（直接働きかける）	同上
目的 意図（どんな状態にしたいか）	向学心を持つ市民に対し多くの学習の場を提供し、様々な市民を知的に刺激する展示会を開き、最終的に来館者を増加させる。
手段・方法（どうやって）	資料を展示し、チラシ・パンフレットを作成し広報をする。また、図録を作成する。

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	計画した事業の品質を損なうことなく実施していく。	事業実施率	%	品質を損なうことなく実施できた事業数÷計画事業数	100
活動指標					
活動指標					

	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	入館者数を増加させる。	入館者数増加率	%	当年度入館者数÷前年度入館者数	105
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	1,098,968	922,961	1,077,538	1,105,297	776,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	416,000	377,700	437,000	431,000	
	一般財源	円	682,968	545,261	640,538	674,297	776,000
職員数	正規職員	人	0.30	0.30	0.60	0.55	0.45
	嘱託職員	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
	臨時職員	人	0.25	0.30	0.20	1.35	1.25
	合計	人	0.65	0.70	0.90	2.00	1.80
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	20.00	16.00	19.00	20.00	122.00
活動指標	事業実施率 目標	%	100	100	100	100	100
	事業実施率 実績	%	100	100	100	100	100
	事業実施率 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	― 目標	―					
	― 実績						
	― 達成率	%	―	―	―	―	―
	― 目標	―					
	― 実績						
	― 達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標	入館者数増加率 目標	%	105	105	105	105	120
	入館者数増加率 実績	%	108	110	111	123	120
	入館者数増加率 達成率	%	102.86	104.76	105.39	117.02	100.00
	― 目標						
	― 実績						
	― 達成率	%	―	―	―	―	―

備考

事務事業名	特別展等事業			事業期間	平成 1 ～ 年度	整理番号	08020306
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	両角英彦	連絡先	73-0300

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	・企画展「博物館の絵画」の開催 ・企画展「星景写真展」の開催 ・講演会、自然観察会、星空観察会、古文書関係事業、裂き織、各種講座などの立上げと開催	・企画展「博物館の絵画」、期間中来館者2,420人 ・企画展「星景写真展」、期間中来館者1,408人 ・計画した事業を全て実施することができた。	事業の内容は、社会の動向に着目し、市民ニーズを的確に捉え、実施していく必要がある。
第2期	・企画展「茅野市の中世遺跡」の開催 ・講演会、自然観察会、星空観察会、古文書関係事業、裂き織、各種講座などの開催	・企画展「茅野市の中世遺跡」、期間中来館者4,208人 ・計画した事業を全て実施することができた。	哺乳類の研究者の企画展示の来年度実施を検討する。
第3期	・「研究・創意工夫展」の開催 ・講演会、自然観察会、星空観察会、古文書関係事業、裂き織、各種講座などの開催	・「研究・創意工夫展」、期間中来館者1,727人 ・計画した事業を全て実施することができた。 ・「昼間の星を見る会」を始めることになった。	事業の内容は、社会の動向に着目し、市民ニーズを的確に捉え、実施していく必要がある。埋もれた地域の自然や文化を掘り起こし、調査し、提示していくことが必要である。広報の対象や方法の検討が必要である。
第4期	・企画展「小平奈緒選手の軌跡」の開催 ・「博物館活動発表展」の開催 ・講演会、自然観察会、星空観察会、古文書関係事業、裂き織、各種講座などの開催	・企画展「小平奈緒選手の軌跡」、当初予定会期中来館者1,373人 ・「博物館活動発表展」、期間中来館者1,108人 ・計画した事業を全て実施することができた。	企画展「小平奈緒選手の軌跡」は、同選手が平昌オリンピックで金・銀メダルを獲得したことから、会期の延長をすることになった。 また、継続展示を検討することになった。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

今後の方向性 — 成果の方向性 / コスト投入の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題：企画展の内容を充実させるためには、早期計画が必要である。
市民ニーズを的確に捉え、企画展を始め各種事業を実施し、多くの学習機会を提供していく必要がある。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020306

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
・調査研究の成果の企画展示のほか、各種事業を実施し、有効かつ広範なＰＲを行い、来館者増を図っていく。 ・小平選手の偉業を伝えるよう、企画展示を継続していく。 ・平成30年度の事業は、開館30周年記念事業への移行があり、例年に比べ縮小となっている。	・調査研究の成果の企画展示のほか、各種事業を実施し、有効かつ広範なＰＲを行い、来館者増を図っていく。 ・小平選手の偉業を伝えるよう、企画展示を継続していく。 ・平成30年度の事業は、開館30周年記念事業への移行があり、例年に比べ縮小となっている。
前年度改革・改善策の実施状況：実施済	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性 — 成果の方向性 / コスト投入の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				レ
現状維持				
縮小				
休廃止				

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
・社会の動向に着目し、市民ニーズを的確に捉え、事業の内容を充実させていく。 以前実施し、要望のある講座などを再登場させる。 ・平成31年度の事業は、開館30周年記念事業への移行分が戻り、記念事業を契機に新たなメニューなどを加えることから、拡大・拡充とする。	・社会の動向に着目し、市民ニーズを的確に捉え、事業の内容を充実させていく。 以前実施し、要望のある講座などを再登場させる。 ・平成31年度の事業は、平成30年度の開館30周年記念事業に伴い移行した事業が戻ることと、記念事業を契機に新たなメニューなどを加えることから、拡大・拡充とする。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	八ヶ嶽岳麓文芸館事業			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	08020303
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	柳 川 英 司	連絡先	73-0300

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	10 八ヶ岳総合博物館の充実
			事務事業	05 八ヶ嶽岳麓文芸館整備活用事業

予算事業名	八ヶ嶽岳麓文芸館事業費　会計コード 001 款 10 項 05 目 08 事業 05
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	博物館内に併設された施設で、岳麓地域に関わるものを中心に今昔の歌人、俳人、文人達の文化資料を展示し、多くの方に郷土の文芸を紹介している。 個人所有の文化資料の調査、研究及び保存に関する事業も行う。
現状と背景（どうして）	昔に学び、文芸を尊び、今につながる館として平成１２年１０月に設置された。
目的 対象 受益者（誰のために）	茅野市民及び博物館来館者
目的 対象 対象（直接働きかける）	同上
目的 意図（どんな状態にしたいか）	文化資料を展示し、より多くの方に郷土の文芸を紹介するとともに、市内に現存する文化資料の調査・研究を行う。
手段・方法（どうやって）	展示資料の一部を、新しい資料に展示替えしていくことにより、多くの資料を紹介していく。 また、文化資料の調査・研究を行う。

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
文芸館の展示替えを行う	展示替え実施回数	回	年間展示替え数	3

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
年間入館者数を増加させる	年間入館者数	人	文芸館を含む総合博物館年間総入館者数	15,000

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	750,875	282,273	141,748	129,251	74,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	750,875	282,273	141,748	129,251	74,000
職員数	正規職員	人	0.06	0.10	0.10	0.10	0.05
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人	0.52	0.10	0.10		
	合計	人	0.58	0.20	0.20	0.10	0.05
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	13.00	5.00	3.00	2.00	8.00
活動指標 展示替え実施回数	目標	回	5	5	5	3	3
	実績		3	5	5	2	3
	達成率	%	60.00	100.00	100.00	66.67	100.00
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標 年間入館者数	目標	人	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
	実績		11,001	12,150	13,445	16,520	15,000
	達成率	%	73.34	81.00	89.63	110.13	100.00
成果指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－

備考：市民プランの細施策において横断的な事務事業である。対象細施策の政策体系番号 03061401

事務事業名	八ヶ嶽岳麓文芸館事業			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	08020303
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	柳 川 英 司	連絡先	73-0300

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	・企画展「博物館の絵画」を開催する。 ・企画展「博物館の絵画」に関連して、講演会を行う。	企画展「博物館の絵画」、期間中来館者2,420人	・企画展名を「博物館の絵画」としたため、文芸館の企画展であることがわかりづらかった。 ・講師の都合もあったが、講演会に4人しか参加者がおらず、告知の仕方が難しかった。
第2期	企画展「星景写真」期間中と企画展「茅野市の中世遺跡」の間の期間に常設展示を行う。	なし	企画展「茅野市の中世遺跡」の準備のため、展示する場所が十分確保できなかった。
第3期	正月の展示のために、正月にちなんだ文芸的な展示を行う。	正月や冬季スポーツにちなんだ俳句や絵画を展示した。	正月に関する文芸資料をあまり収蔵していないので、今後の展示を行うことが難しい。
第4期	なし	企画展「がんばれ小平奈緒選手」開催のため、文芸展示なし。	展示に耐えられる展示ケースが文芸館以外になく、他に展示スペースがないところから、他の企画展開催時には、文芸館の展示ができない。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

企画展の開催と、文芸館常設展示を同時に行うことは、準備スペースや人的な問題で難しい。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

文芸に関連しない展示も積極的に文芸館の展示ケースを活用して行っていきたいが、その間の常設展の方法を考えていく。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題：博物館として積極的に企画展を開催していかなければならないが、展示ケースの施錠や移動など、展示ができる場所は、現在岳麓文芸館となっている場所しかない。また、岳麓文芸館は、もともと企画展示室だったので、企画展示を行う場所としては適当である。しかし、岳麓文芸館となっているので、文芸館の展示を維持しながら企画展を行うことは難しい。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020303

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
・岳麓文芸館は、島木赤彦を初めとする、八ヶ岳山麓地域の和歌や俳句などの文芸活動について、紹介・展示する館である。これらを紹介するために、年間5回の展示替えを目指す。 ・平成30年度の八ヶ嶽岳麓文芸館事業は、開館30周年記念事業への移行があり、例年に較べ縮小となっている。	・岳麓文芸館は、島木赤彦を初めとする、八ヶ岳山麓地域の和歌や俳句などの文芸活動について、紹介・展示する館である。これらを紹介するために、年間5回の展示替えを目指す。 ・平成30年度の八ヶ嶽岳麓文芸館事業は、開館30周年記念事業への移行があり、例年に較べ縮小となっている。
前年度改革・改善策の実施状況：実施済	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				レ
現状維持				
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
・岳麓文芸館の展示替えを行う。 ・平成31年度の事業は、開館30周年記念事業への移行分が戻り、平成29年度規模に拡大・拡充となる。	・岳麓文芸館の展示替えを行う。 ・平成31年度は、平成30年度の開館30周年記念事業に伴い移行した事業が戻り、平成29年度規模になり拡大・拡充となる。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	市民研究員養成事業費			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08020304
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	渡　辺　真　由　子	連絡先	73-0300

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策 06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策 10 八ヶ岳総合博物館の充実
			事務事業 06 ボランティア組織育成事業
予算事業名	市民研究員養成事業		会計コード 001 款 10 項 05 目 08 事業 06
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	収集・保管・調査・研究活動を考えながら、一層の市民参加を促したい。		
現状と背景（どうして）	博物館には寄贈された多くの民俗資料や蔵書があり、その有効活用が求められている。 また、博物館活動を一層活発にしたい。		
目的 対象 受益者（誰のために）	博物館を利用する一般市民。		
目的 対象 対象（直接働きかける）	博物館を利用する一般市民。 博物館のテーマである茅野市の自然、文化、歴史、産業、民俗に関心のある一般市民。		
目的 意図（どんな状態にしたいか）	市民の博物館活動を支援し、それを広げていく。		
手段・方法（どうやって）	市民研究員を養成する講座を開催し、講演会への出席、調査実習活動に参加し、課程を修了すると、市民研究員認定証を交付する。		

評価指標の作成

活動指標：行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
市民研究員養成講座	参加者数	人		30

成果指標：成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
研究目標	研究テーマ	個		10

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	535,219	1,141,156	474,051	583,014	672,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	535,219	1,141,156	474,051	583,014	672,000
職員数	正規職員	人	0.10	0.10	0.30	0.30	0.30
	嘱託職員	人	0.40	0.40	0.40	0.30	0.30
	臨時職員	人	0.05	0.20	0.20	0.30	0.30
	合計	人	0.55	0.70	0.90	0.90	0.90
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	10.00	20.00	8.00	11.00	77.00
活動指標 参加者数	目標	人	30	30	30	70	70
	実績		48	60	58	72	70
	達成率	%	160.00	200.00	193.33	102.86	100.00
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標 研究テーマ	目標	個	10	10	10	10	10
	実績		5	4	5	5	6
	達成率	%	50.00	40.00	50.00	50.00	60.00
成果指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－

備考：市民プランの細施策において横断的な事務事業である。対象細施策の政策体系番号 03040201 03050101

事務事業名	市民研究員養成事業費			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08020304
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	渡辺真由子	連絡先	73-0300

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	各グループ月1回程度の定期的な活動を計画・実施し、都度、市民研究員通信を発行する。その他の学習機会(自然科学館見学会・自然観察会・講演会等)を企画・実施する。	植物G5回、キノコG3回、シダG3回、天文G6回、実験工作G7回 自然科学館見学会6/3	研究員が自ら学習するだけでなく、指導者のサポートとして活動する機会が増えている。自主性を重んじているものの、これに対応するメンバーが固定化しないよう、また一人一人の負担にならないよう配慮する必要がある。
第2期	各グループ月1回程度の定期的な活動を計画・実施し、都度、市民研究員通信を発行する。その他の学習機会(自然科学館見学会・自然観察会・講演会等)を企画・実施する。	植物G5回、キノコG3回、シダG3回、天文G7回、実験工作G10回、天文講演会6/25、高山植物観察会7/15、霧ヶ峰観察会7/22、キノコ観察会8/27、キノコ展9/17-18、シダ観察会9/24	研究員が自ら学習するだけでなく、指導者のサポートとして活動する機会が増えている。自主性を重んじているものの、これに対応するメンバーが固定化しないよう、また一人一人の負担にならないよう配慮する必要がある。
第3期	各グループ月1回程度の定期的な活動を計画・実施し、都度、市民研究員通信を発行する。その他の学習機会(自然科学館見学会・自然観察会・講演会等)を企画・実施する。	植物G5回、キノコG3回、シダG3回、天文G12回、実験工作G9回 シダ観察会10/29、植物講演会11/5、サイエンスフェスタ11/26	研究員が自ら学習するだけでなく、指導者のサポートとして活動する機会が増えている。自主性を重んじているものの、これに対応するメンバーが固定化しないよう、また一人一人の負担にならないよう配慮する必要がある。
第4期	各グループ月1回程度の定期的な活動を計画・実施し、都度、市民研究員通信を発行する。その他の学習機会(自然科学館見学会・自然観察会・講演会等)を企画・実施する。	植物G5回、キノコG3回、シダG3回、天文G10回、実験工作G7回 活動発表展3/18	研究員が自ら学習するだけでなく、指導者のサポートとして活動する機会が増えている。自主性を重んじているものの、これに対応するメンバーが固定化しないよう、また一人一人の負担にならないよう配慮する必要がある。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

定期的な活動の他にも自主的な活動が増えてきている。メンバー同士の交流も盛んになり、グループ内での連絡を用いて十分取れるようになっている。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

自主的な学習や調査活動を研究テーマと結びつけ、公開・発表する機会(活動発表展・紀要などへの寄稿)をつくる必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度	当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

博物館本来の使命である収集・保管・調査・研究活動に即した活動が望まれる。特に、現在は自然系グループの活動のみだが、博物館としては歴史・民俗に係る調査研究活動も必要である。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020304

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
博物館本来の使命である収集・保管・調査・研究活動への市民参加を促したい。 平成30年度から、歴史・民俗系の調査・研究活動のため、新たに語り伝承グループの活動を開始する。	博物館本来の使命である収集・保管・調査・研究活動への市民参加を促したい。 平成30年度から、歴史・民俗系の調査・研究活動のため、新たに語り伝承グループの活動を開始する。
前年度改革・改善策の実施状況：その他	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
収集・保管・調査・研究活動にも関わる市民参加を一層促し、活動の状況や成果を紹介していきたい。	収集・保管・調査・研究活動にも関わる市民参加を一層促し、成果を紹介するなど活用して活動の価値を高めていきたい。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	展示替え・科学教育振興事業			事業期間	平成 21 ～ 年度	整理番号	08020305
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	両角英彦	連絡先	73-0300

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	10 八ヶ岳総合博物館の充実
			事務事業	07 展示替え・科学教育の振興事業

予算事業名	展示替え・科学教育振興事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	08	事業	07

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	平成25年9月5日「茅野市八ヶ岳総合博物館の展示の更新及び茅野市における科学教育の振興についての基本計画の策定について」が博物館協議会から答申された。この答申の事業計画を実現するため、平成26年度、企画運営会議を発足し、中長期事業計画の策定や、具体的方法の検討を行い、できるところから取組みを行っている。
現状と背景（どうして）	八ヶ岳総合博物館は昭和63年に開館し、四半世紀が経過している。この間の科学研究の進展や自然の様相の変化により、現在の展示内容を替えていく必要が生じている。今後の方針について茅野市博物館協議会おいて平成23年～25年の3年にわたり検討され、平成25年9月5日に答申がされている。これが平成25年12月17日の政策調整会議により、再検討とされた。
目的 対象 受益者（誰のために）	市民
目的 対象 対象（直接働きかける）	市民
目的 意図（どんな状態にしたいか）	今後求められる展示を検討し、科学教育の振興の役割を持つ博物館とする。市民の活動がさらに拡充できるような施設とする。
手段・方法（どうやって）	博物館専門委員による企画運営会議にて検討、検証、協議を進める。

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
検討の機会	企画運営会議回数	回		2

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
運用計画	モバイルプラネタリウム運用計画書	冊		1

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	184,457	261,000	2,877,863	1,335,536	1,427,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	184,457	261,000	2,877,863	1,335,536	1,427,000
職員数	正規職員	人	0.25	0.25	0.55	0.50	0.40
	嘱託職員	人	0.50	0.50	0.50	0.35	0.30
	臨時職員	人		0.40	0.30	0.30	0.25
	合計	人	0.75	1.15	1.35	1.15	0.95
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	3.00	5.00	52.00	24.00	103.00
活動指標	企画運営会議回数 目標	回	6	15	4	2	2
	実績		7	11	3	3	2
	達成率	%	116.67	73.33	75.00	150.00	100.00
	― 目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―
	― 目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標	モバイルプラネタリウム運用計画書 目標	冊	1	1	1	1	1
	実績		1	1	1	1	1
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	― 目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―

備考

事務事業名	展示替え・科学教育振興事業			事業期間	平成 21 ～ 年度	整理番号	08020305
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	両角英彦	連絡先	73-0300

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	①モバイルプラネタリウムの出張範囲を郡内まで拡大して利用促進(出前) ②科学実験工作室の器材の拡充整備 ③展示動画解説の利用促進 ④開館30周年記念事業の内容検討	①市外出前の応否は、講師依頼申請を受け、判断することにした。校長会、市内全小学校、地区公民館職員に説明。出前の回数は、市外小学校(1)、公民館(1)だった。 ②必要な器材をリストアップ(4種)し、3種を購入した。 ③貸出用タブレットを用意した。 ④企画運営会議に素々案を示し、意見交換した。	①まずは、市内の小学校等からの依頼を増やすこととする。 ②残る1種は、年度末の予算の執行状況で購入を検討する。 ⑤通路に収納棚を設置したが、市民研究員の活動により、収納棚のスペースが少なくなっている。
第2期	①モバイルプラネタリウムの出前投影の利用促進 ②科学実験工作室の利用促進と教材開発 ③展示動画解説の利用促進 ④開館30周年記念事業計画作成、実施計画提出	①出前の回数は、市内小学校(4)、公民館等(4)だった。 ②子どもクラブ、市民研究員講座等で利用した。科学工作の講師が教材を開発した。 ③QRコードの利用案内を窓口に設置した。展示動画の利用を見かけた。 ④企画運営会議に素案を示し、記念事業計画の大筋の了承を得た。事業計画を定め、実施計画を提出した。	①小学校等の年間事業計画は、この時期、既に決まっているところがほとんどである。第1期に行った説明の効果は、来年度に表れるものと判断した。 ⑥八ヶ岳火山列を研究した地質学者・河内晋平氏の業績紹介コーナーの設置(展示替え)が必要になっている。
第3期	①モバイルプラネタリウムの出前投影の利用促進 ②科学実験工作室の利用促進と教材開発 ③展示動画解説の利用促進 ④各事業計画書作成	①出前の回数は、市内小学校(4)、市外小学校(2)、CC等(4)だった。 ②講座等で利用した。機材・残る1種を購入した。 ③利用案内を券売機脇に設置した。 ④実施計画を経て、予算要求した。	
第4期	①モバイルプラネタリウムの出前投影の利用促進 ②科学実験工作室の利用促進と教材開発 ③展示動画解説の利用促進 ④各事業計画書作成	①出前の回数は、市内小学校(3)、市外小学校(1)、CC等(3)だった。 ②講座等で利用した。 ③広報で、QRコードの利用案内をした。 ④各事業担当が事業計画の調整を進めた。	①CCでの土日・祝日の出前の要望があることから、可能か検討する。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

市民研究員の活動の成果により、自然系資料(シダ、植物など)が多数、収集されている。この収納場所として、平成28年度に、通路に収納棚を設置することができたが、前記収集により、この収納棚の収納スペースが少なくなっている。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

・自然系資料収蔵庫設置工事
・開館30周年記念事業

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題：平成25年度の答申の理念に基づき、市民研究員の養成など、できるところから着手してきたが、自然系資料の収蔵庫の整備が必要となっている。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020305

総合評価

細施策評価前

・モバイルプラネタリウムの出前は、まずは、市内の小学校等からの依頼を増やすこととする。
　視聴者は館内・出前共に増えている。要望があることから、ＣＣでの土日・祝日の出前を検討する。
・展示動画解説の利用案内を、引き続き、広報等で行っていく。
・河内晋平コーナーの設置（展示替え）、くん蒸室の自然系資料収蔵庫への改修が必要になっている。
・開館30周年記念事業は、多くの市民に博物館を知ってもらい、利用者増を図る機会として取り組む。

前年度改革・改善策の実施状況：実施済

細施策評価後

・モバイルプラネタリウムの出前は、まずは、市内の小学校等からの依頼を増やすこととした。
　視聴者は館内・出前共に増えている。要望があることから、ＣＣでの土日・祝日の出前を検討する。
・展示動画解説の利用案内を、引き続き、広報等で行っていく。
・河内晋平コーナーの設置（展示替え）、くん蒸室の自然系資料収蔵庫への改修が必要になっている。
・開館30周年記念事業は、多くの市民に博物館を知ってもらい、利用者増を図る機会として取り組む。

前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				レ
現状維持				
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

・博物館活動充実の取組みや開館30周年記念事業を機会に、利用促進と博物館活動の一層の活性化を図る。
・平成31年度は、くん蒸室の自然系資料収蔵庫への改修が必要となっていることから、拡大・拡充とする。

・博物館活動充実の取組や開館30周年記念事業を機会に、利用促進と博物館活動の一層の活性化を図る。
・平成31年度は、くん蒸室の自然系資料収蔵庫への改修が必要となっていることから、拡大・拡充とする。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	考古館運営事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020211
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小 池 岳 史	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業	01 維持管理運営事業

予算事業名	考古館運営費	会計コード	001	款	10	項	05	目	10	事業	02

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	尖石縄文考古館は、特別史跡「尖石石器時代遺跡」を保存・管理すると共に、2つの国宝「土偶」をはじめ縄文時代の考古資料を収集・収蔵、調査・研究、展示し、子どもから大人まで楽しめる縄文体験学習などの教育普及活動をおこなう施設である。当事業は茅野市の「宝」である「縄文」をまもり、今にいかし、後世に継承するための中核的な役割を果たす尖石縄文考古館の運営に係るものである。
現状と背景（どうして）	茅野市の「宝」である「縄文」をまもり、今にいかし、後世に継承するため、また、「縄文」を意識したまちづくりと人づくり、「縄文」を活かした観光と地域活性化を図ると共に、縄文文化の価値や魅力を国内外へ発信するため。
目的 対象 受益者（誰のために）	茅野市の縄文文化や歴史に関心のある市民および一般愛好者。観光客。
目的 対象 対象（直接働きかける）	施設
目的 意図（どんな状態にしたいか）	縄文文化の価値や魅力を広く発信し、「縄文」を意識したまちづくり、人づくりを進める。
手段・方法（どうやって）	考古館と史跡公園で開催されるさまざまなイベント情報を、報道等を通じて広く発信する。 出版物、関連商品の販売、縄文体験学習を通じて、縄文の価値や魅力を発信する。

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	報道関係者等への情報発信	情報発信件数	件	月３件×１２月	36
活動指標					
活動指標					
	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	入館者数の増	入館者数の増	%	Ｈ２９年度/Ｈ２８年度	102
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)		円		15,420,000	16,017,492	16,236,302	15,832,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円		728,000	1,388,000	917,200	
	一般財源	円		14,692,000	14,629,492	15,319,102	15,832,000
職員数	正規職員	人		2.45	0.65	0.65	
	嘱託職員	人			0.70	0.70	
	臨時職員	人		0.53	1.40	1.40	
	合計	人		2.98	2.75	2.75	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	－	275.00	287.00	292.00	286.00
活動指標	情報発信件数 目標	件		36	36	36	36
	情報発信件数 実績	件		36	47	61	45
	情報発信件数 達成率	%	－	100.00	130.56	169.44	125.00
	－ 目標	－					
	－ 実績						
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
	－ 目標	－					
	－ 実績						
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	入館者数の増 目標	%		104	103	102	102
	入館者数の増 実績	%		83	97	111	102
	入館者数の増 達成率	%	－	79.81	93.99	108.82	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績						
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	考古館運営事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020211
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小 池 岳 史	連絡先	76-2270

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	考古館リーフレット増し刷り契約、納品 『尖石』増し刷り契約、納品 『尖石発掘記』増し刷り契約、納品 「仮面の女神」ピンバッチの発注、納品 「縄文検定初級・中級・上級認定証」増し刷り入札、発注、納品	考古館リーフレット増し刷り契約、納品 『尖石』増し刷り契約、納品 『尖石発掘記』増し刷り契約、納品 「仮面の女神」ピンバッチの発注、納品 「縄文検定初級・中級・上級認定証」増し刷り入札、発注、納品	考古館リーフレットは特定業者が版をもっており、随意契約で製作している。1部当たりの単価が安くないので、紙の厚さを薄くして、質を落とさず単価が抑えられるか、業者と協議したい。
第2期	スズメバチの巣の駆除	スズメバチの巣の駆除	ソフトボール大程度の巣であれば、職員でも駆除が可能であるため、施設周辺の見回りを強化して、早期発見に努める。
第3期	商標登録出願準備	商標登録出願準備	
第4期	商標登録出願の見積もり合わせと業者決定、契約 印刷機更新の見積もり合わせと業者決定、契約	商標登録出願の見積もり合わせと業者決定、契約 印刷機更新の見積もり合わせと業者決定、契約	

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

スズメバチの営巣が多く、発見と処理に苦慮した。同じ場所に巣をかける習性があるようなので、そうした場所を中心に見回りを強化し、早期発見に努める。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

来館者の増加に伴い、リーフレットの印刷部数を増やす必要がある。紙の厚さを1ランク下げ、今年度と同額程度の予算で部数を増やすこととしたい。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

出版物や縄文関連商品の在庫管理が十分といえないので、在庫数と管理表が整合するか、月1回は確認することとしたい。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020202

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
文化財保護法によると、国宝「土偶」（縄文のビーナス・仮面の女神）、国特別史跡「尖石石器時代遺跡」の所有者である茅野市は、これらを「管理しなければならない」とされている。これらの価値が損なわれないよう、引き続き適切な運営に努める。また、出版物や縄文関連商品の販売、報道関係者へのイベント等の情報発信により、市民や観光客に茅野市の「縄文」の価値や魅力を広く発信する。	茅野市の「宝」である縄文時代の遺跡や遺物を適切な環境下で保存し、後世に伝えるとともに、縄文の価値や魅力を広く発信して、まちづくりや人づくり、観光や地域活性化に活かしていくための重要な施策である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

成果の方向性	細施策評価前 皆減	縮小	現状維持	拡大	細施策評価後 皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦				
現状維持		③	⑥ レ	⑨			レ	
縮小		④	⑧	⑩				
休廃止	①							

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
出版物（展示図録）の一部改訂、縄文関連商品の新規開発と、新たなメディア（ビーナネットＣｈｉｎｏ）を通じてイベントの情報発信をおこない、「縄文」を意識したまちづくりと人づくり、観光や地域活性化を図る。	新しい情報の発信に努め、さらなる「縄文」を意識したまちづくりと人づくり、観光や地域活性化を図る。

最終評価年月日	平成30年5月16日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	縄文教室事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020204
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	山　科　哲	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06	第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	11	尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業	03	常設展・特別展・講演会・研究会・講習会開催事業

予算事業名	縄文教室事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	10	事業	05

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	小学生から大人まで、実際に土偶・土器などを制作する体験学習や講座・特別展示などを通じて、縄文文化や遺跡の大切さについて理解していただく市民向けの学習メニュー。
現状と背景（どうして）	茅野市には国宝土偶をはじめ多数の優れた縄文時代の遺物、それらを出土した縄文時代遺跡の宝庫である。また、尖石遺跡の発掘などが早くから注目されて行われ、縄文文化研究にも大きな足跡を残してきた地である。
目的　対象　受益者（誰のために）	茅野市の縄文文化や歴史に関心のある市民及び一般愛好者。
目的　対象　対象（直接働きかける）	同上
目的　意図（どんな状態にしたいか）	多くの方々に参加していただき、縄文王国茅野としての郷土のすばらしい縄文文化や遺跡の大切さについて理解していただける人を増やす。
手段・方法（どうやって）	縄文時代の技術や文化を楽しく体験・学習できるメニューによる教室を開催する。 また、より深く縄文時代・縄文文化を理解してもらうため、大学教員等による講義を開催する。

評価指標の作成

活動指標：行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
縄文教室・縄文ゼミナール等の講座開催数	開催数	回	開催数	13

成果指標：成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
縄文教室・縄文ゼミナール等の講座参加者の増	講座参加者の増	%	Ｈ２９年度/Ｈ２８度	110

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	423,794	440,000	465,568	354,165	495,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円			72,800	82,300	
	一般財源	円	423,794	440,000	392,768	271,865	495,000
職員数	正規職員	人	0.20	0.20	0.30	0.30	
	嘱託職員	人			0.20	0.20	
	臨時職員	人	1.25	1.25	0.40	0.40	
	合計	人	1.45	1.45	0.90	0.90	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	8.00	8.00	8.00	6.00	9.00
活動指標：開催数	目標	回	13	13	13	13	15
	実績		14	17	18	22	15
	達成率	%	107.69	130.77	138.46	169.23	100.00
活動指標：－	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
活動指標：－	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標：講座参加者の増	目標	%	400	400	400	598	600
	実績		688	632	499	668	600
	達成率	%	172.00	158.00	124.75	111.71	100.00
成果指標：－	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	縄文教室事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020204
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	山 科 哲	連絡先	76-2270

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	縄文教室第1回・第2回	縄文教室第1回・第2回	告知用のチラシ等の作成と配布ができなかった。
第2期	縄文教室第3回・第4回 縄文ゼミナール第1回・第2回・第3回 縄文を楽しむ教室第1回・第2回・第3回 ナイトミュージアム子ども向け1回・大人向け1回	縄文教室第3回・第4回 縄文ゼミナール第1回・第2回・第3回 縄文を楽しむ教室第1回・第2回・第3回 ナイトミュージアム子ども向け1回・大人向け1回	講座の準備が遅れ気味になった
第3期	縄文教室第5回・第6回 縄文ゼミナール第4回・第5回 縄文文化大学講座 縄文を楽しむ教室第4回・第5回	縄文教室第5回・第6回 縄文ゼミナール第4回・第5回 縄文文化大学講座 縄文を楽しむ教室第4回・第5回	冬期の講座参加者数が少ないので、増えるような魅力的な講座内容の検討と、増やすような効果的な告知方法の検討
第4期	縄文ゼミナール第6回・第7回（特別篇）	縄文ゼミナール第6回・第7回（特別篇）	体験型講座を設定できなかった

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

体験型講座への申込者数が多すぎる場合がある。同じ内容の講座を複数回開催することも考えていく必要がある。
また、講演会の内容も縄文文化の知識が得られるようなものにしていく。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

体験型講座内容の再検討と、「市民総学芸員化」を推進できる講演内容の検討

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

体験型講座の縄文教室や講演スタイルの縄文ゼミナール等を行い参加者には好評を博している。初心者でも短時間で体験できる「縄文を楽しむ教室」も、ナイトミュージアムも3年目となり、定着してきた。しかし、参加者にバラつきがあり、開催時期と講座内容の検討も必要である。
これまで同様、縄文プロジェクト構想にうたわれている「市民総学芸員化」目指して、より「縄文文化」を理解してもらえるよう効果的に取り組んでいく必要がある。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020204

総合評価

細施策評価前

多くの参加者にめぐまれ好評を博した一方で、申込者が少ない回があった。講座内容の再吟味、より早く広い範囲への告知が必要。
さらに多くの方に参加してもらえるよう、また幅広い年齢層が参加できる講座内容にするよう努めていく。

前年度改革・改善策の実施状況

細施策評価後

縄文プロジェクト構想にうたわれている「市民総学芸員化」を目指すため、世界に誇る茅野市の縄文文化のすばらしさを市民の皆様が知り、理解していただくための大事な施策である。

前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前

参加者アンケートを参考にしながら企画を立てる。
また、参加者を増やすための募集方法を企画する。
人気のある講座の定員増を検討する。

細施策評価後

参加者アンケートを参考にしながら企画を立てる。また、一貫したテーマに沿った内容にするなど工夫し、郷土の縄文文化に理解と関心をもつ市民を一人でも多く育てる努力をする。

最終評価年月日	平成30年5月13日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	特別展事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020203
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	山　科　哲	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業	03 常設展・特別展・講演会・研究会・講習会開催事業

予算事業名	特別展事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	10	事業	11

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	常設展示では紹介しきれない収蔵資料や特定のテーマに特化した展覧会を開催して、より深く縄文文化を理解してもらう。
現状と背景（どうして）	茅野市には国宝土偶をはじめ多数の優れた縄文時代の遺物、それらを出土した縄文時代遺跡の宝庫である。また、尖石遺跡の発掘などが早くから注目されて行われ、縄文文化研究にも大きな足跡を残してきた地である。
目的　対象　受益者（誰のために）	茅野市の縄文文化や歴史に関心のある市民及び市内外の一般愛好者。
目的　対象　対象（直接働きかける）	収蔵資料、縄文時代遺跡
目的　意図（どんな状態にしたいか）	多くの方々に参加していただき、縄文王国茅野としての郷土のすばらしい縄文文化や遺跡の大切さについて理解していただける人を増やす。
手段・方法（どうやって）	茅野市内の縄文文化をよりよく理解してもらうため、主に市内の遺跡を対象として深く掘り下げた特別展を開催する。

評価指標の作成

活動指標：行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
特別展の開催	開催数	回	開催数	1
ロビーミニ展示を含む企画展の開催	開催数	回	開催数	3

成果指標：成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
特別展の開催	開催数	%	Ｈ２９年度/Ｈ２８年度	100
ロビーミニ展示を含む企画展の開催	開催数	%	開催数/開催予定数	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	392,000	38,074	34,776	67,910	120,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	392,000	38,074	34,776	67,910	120,000
職員数	正規職員	人	0.20	0.20	0.30	0.30	
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人	1.00	1.00			
	合計	人	1.20	1.20	0.30	0.30	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	7.00	1.00	1.00	1.00	2.00
活動指標	開催数 目標	回	1	1	1	1	1
	開催数 実績	回	2	4	1	1	1
	開催数 達成率	%	200.00	400.00	100.00	100.00	100.00
	開催数 目標	回			3	3	3
	開催数 実績	回			2	2	3
	開催数 達成率	%	―	―	66.67	66.67	100.00
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標	開催数 目標	%	1	1	1	1	1
	開催数 実績	%	2	4	1	1	1
	開催数 達成率	%	200.00	400.00	100.00	100.00	100.00
	開催数 目標	%			3	3	3
	開催数 実績	%			2	2	3
	開催数 達成率	%	―	―	66.67	66.67	100.00

備考

事務事業名	特別展事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020203
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	山　科　哲	連絡先	76-2270

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	4月中旬までに企画展示資料の決定 4月下旬に企画展開始 6月中に特別展内容及び展示資料の決定	4月中旬までに企画展示資料の決定 4月下旬に企画展開始 6月中に特別展内容及び展示資料の決定 企画展の展示解説	告知が開催ギリギリのタイミングになった
第2期	7月上旬までに展示パネルの原稿作成と印刷 7月15日に特別展開始	7月上旬までに展示パネルの原稿作成と印刷 7月15日に特別展開始	7月15日に開始はできたものの、予定の内容をすべて展示できず、完成したのは7月20日だった
第3期	ロビーミニ展示の企画及び展示作成 特別展終了後の展示復旧	ロビーミニ展示の企画及び展示作成 特別展終了後の一部展示復旧	ロビーミニ展示の開始が2週間ほど遅れた
第4期	ロビーミニ展示の企画及び展示作成 特別展終了後の展示復旧	特別展終了後の展示復旧	ロビーミニ展示ができなかった

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

展示資料の所在確認の調査が足りなかった。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

普段展示していない資料の公開ということで多くの来館者に好評であり、次年度も同様の内容で継続したい。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

２体の国宝と３つの国指定史跡が広く市民に知られているが、それ以外の縄文時代遺跡が市内の各地にあることを提示できた。また、企画展では、他館を含め普段取り上げる機会がほとんどない資料の展示により、縄文時代の子育て等を考える展示を実施した。ロビーミニ展示では市内中学生の縄文科の取組の成果を展示した。
告知のタイミングがギリギリになったこと、ギャラリートークや展示解説会を2回程度しか開催できなかったことは反省材料である。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020203

総合評価

細施策評価前

多くの来館者にめぐまれ、好評を博した。特に企画展はホームページへのアクセス件数も多く、来館者アンケートでも高評価だった。

前年度改革・改善策の実施状況

細施策評価後

縄文プロジェクト構想にうたわれている「市民総学芸員化」を目指すため、世界に誇る茅野市の縄文文化のすばらしさを市民の皆様が知り、理解していただくための大事な施策である。

前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

入館者数の増加に結び付くよう、特別展に関連したイベントの企画、また効果的な告知方法を考える。
また、特別展示室を使用した企画展を開催し、入館者数の増加を図る。

参加者を増やすための企画をして魅力ある特別展、企画展を開催し、考古館の入館者の増加を目指す。

最終評価年月日	平成30年5月13日	最終評価責任者	文化財課	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	尖石縄文文化賞事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020206
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	尖石縄文考古館	作成担当者名	山　科　哲	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業	05 縄文文化賞事業
予算事業名	尖石縄文文化賞事業費			会計コード 001 款 10 項 05 目 10 事業 06
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	国指定特別史跡尖石遺跡の発掘と集落研究に情熱を注いだ名誉市民故宮坂英弌の業績を記念し、縄文時代の研究のさらなる発展を願って茅野市が制定した考古学賞であり、研究に功績のあった者を表彰する。			
現状と背景（どうして）	名誉市民故宮坂英弌の尖石遺跡の調査・研究は、日本の縄文遺跡とその研究者の表徴である。その尖石遺跡は、史跡の国宝と言われる国の特別史跡である。また、考古館では、我が国最初の縄文時代の国宝である「縄文のビーナス」を展示している。こうした経歴を持つ尖石縄文考古館を、縄文研究の拠点とすべく、全国に向け情報発信している。			
目的 対象 受益者（誰のために）	全国の縄文時代研究者、及び団体。			
目的 対象 対象（直接働きかける）	同上			
目的 意図（どんな状態にしたいか）	縄文王国茅野、及び尖石縄文考古館を全国に知らしめ縄文文化研究の発展に寄与することで、「縄文プロジェクト構想」に示されたまちづくりの基礎を築き、市民に周知する。			
手段・方法（どうやって）	縄文まつりに授賞式を行う。また、前年度受賞者による講座を授賞式と同日に開催する。 全国の大学、博物館、埋蔵文化財センターへの募集告知、各地の動向を把握している研究者への推薦依頼を行う。			

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	募集要項を関係機関へ配布する	募集要項の配布件数	件	大学165、埋蔵文化財センター101、歴史系博物館168	433
活動指標	推薦依頼を行う	推薦依頼者数	人	各県、各地域の研究者数	33
活動指標	受賞者による市民向け講座を開催する	講座開催回数	%	前年度受賞者数/講座開催回数	100
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	応募者数の増加を目指す	応募件数	件	平成28年度と同数以上	2
成果指標	推薦依頼者から被推薦者を受ける	被推薦者数	件	平成28年度と同数以上	3

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	1,424,966	1,773,000	1,283,520	1,426,451	1,700,000
財源内訳	国庫支出金	円					
財源内訳	県支出金	円					
財源内訳	地方債	円					
財源内訳	その他特定財源	円			100,000	100,000	
財源内訳	一般財源	円	1,424,966	1,773,000	1,183,520	1,326,451	1,700,000
職員数	正規職員	人	0.40	0.40	0.50	0.50	
職員数	嘱託職員	人					
職員数	臨時職員	人					
職員数	合計	人	0.40	0.40	0.50	0.50	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	25.00	32.00	23.00	26.00	31.00
活動指標	募集要項の配布件数	目標 件	433	433	433	433	433
活動指標	募集要項の配布件数	実績 件	433	433	433	433	433
活動指標	募集要項の配布件数	達成率 %	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
活動指標	推薦依頼者数	目標 人	34	33	33	33	35
活動指標	推薦依頼者数	実績 人	33	33	33	35	35
活動指標	推薦依頼者数	達成率 %	97.06	100.00	100.00	106.06	100.00
活動指標	講座開催回数	目標 %	1	1	1	1	1
活動指標	講座開催回数	実績 %	1	1	1	1	1
活動指標	講座開催回数	達成率 %	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
成果指標	応募件数	目標 件	1	1	2	1	2
成果指標	応募件数	実績 件	1	2	1	2	2
成果指標	応募件数	達成率 %	100.00	200.00	50.00	200.00	100.00
成果指標	被推薦者数	目標 件	2	6	3	11	10
成果指標	被推薦者数	実績 件	6	3	11	10	10
成果指標	被推薦者数	達成率 %	300.00	50.00	366.67	90.91	100.00

備考

事務事業名	尖石縄文文化賞事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020206
担当部署	教育委員会　生涯学習部	文化財課	尖石縄文考古館	作成担当者名	山　科　哲	連絡先	76-2270

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	委員委嘱、後援依頼、広告掲載依頼、推薦依頼、 ホームページ上での募集開始	委員委嘱、後援依頼、広告掲載依頼、推薦依頼、ホームページ上での募集開始	応募者をより多く募るため、推薦依頼とホームページ上での募集開始を早くする
第2期	選考委員会の開催、市長答申、授賞式開催準備（賞状･トロフィー製作、招待者への案内状送付、パンフレット原稿の作成と印刷）	選考委員会の開催、市長答申、授賞式開催準備（賞状･トロフィー製作、招待者への案内状送付、パンフレット原稿の作成と印刷）	多くの招待者に参加してもらえるように招待状の送付を早める
第3期	授賞式の開催、後援者への報告及び助成金請求、推薦依頼者への報告	授賞式の開催、後援者への報告及び助成金請求、推薦依頼者への報告	講演者への報告と助成金請求事務をよりスムーズにする
第4期	助成金の申請、選考委員の選定、広告掲載依頼	助成金の申請、選考委員の選定、広告掲載依頼	次年度のスムーズな運営を念頭に、選考委員選定後に大まかなスケジュールを共有する

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

ホームページ上での募集がより一層広く浸透している。応募表の研究業績記入欄が不足するほど研究業績を持つ応募者も増えており、応募表の様式や応募方法をそれらに対応できるようにする必要がある。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

応募方法について、メール等による電子的な応募を検討

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度	当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題：自薦応募、推薦の合計数は前年度と同数であった。どちらも増えるよう、さらに広く効果的な告知を心がけ、応募しやすい方法も検討する。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020206

総合評価

細施策評価前

より効果的な推薦を得るため、さらに比較的若手の研究者に推薦を依頼していく。また、賞の認知度が一層高まっているなかで、より効果的な広告媒体を検討する。

前年度改革・改善策の実施状況

細施策評価後

縄文の里茅野、及び尖石縄文考古館を全国に知らしめ、縄文文化研究の発展に寄与することで「縄文プロジェクト構想」によるまちづくりの基礎をなす施策として重要である。

前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前

現状の状況で、有効に運営を行っていきたい。

細施策評価後

より多くの応募があるように、文化賞の周知方法を検討する。

最終評価年月日	平成30年5月13日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	青少年自然の森管理運営事務			事業期間	平成 4 ～ 年度	整理番号	07020207
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小池岳史	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策 06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策 11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業 06 青少年自然の森維持管理事業
予算事業名	青少年自然の森管理運営費		会計コード 001 款 10 項 05 目 03 事業 15
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	青少年自然の森は、青少年が豊かな自然の中で「生きる力や知恵」を育むためのさまざまな原体験をおこなう施設である。来場者に施設を安全かつ快適に利用してもらえるよう維持管理するための事務事業である。		
現状と背景（どうして）	人間性豊かな青少年の育成と教育研修が求められている。		
目的 対象 受益者（誰のために）	来場者		
目的 対象 対象（直接働きかける）	施設		
目的 意図（どんな状態にしたいか）	来場者が安全かつ快適に利用できる環境を整える。		
手段・方法（どうやって）	施設と周辺環境の日常点検、消防機器や電気設備等の定期点検をおこない、改善すべき箇所の早期把握に努め、必要に応じて改修等をおこなう。		

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
施設内外の安全状況確認	施設状況点検率	%	施設内部と外部の状況確認実施回数/開場日	100

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
事故・クレーム件数の削減	事故・クレーム抑制率	%	１－事故・クレーム件数/来場者数	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	3,491,560	3,275,422	3,692,719	4,158,037	3,714,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	2,673,100	2,430,104	2,576,116	3,742,000	3,698,000
	一般財源	円	818,460	845,318	1,116,603	1,549,479	16,000
職員数	正規職員	人			0.20	0.20	
	嘱託職員	人	1.00	1.00	1.00	0.75	
	臨時職員	人	0.50	0.50	0.50	0.50	
	合計	人	1.50	1.50	1.70	1.45	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	62.00	59.00	66.00	75.00	67.00
活動指標 施設状況点検率	目標	%	100	100	100	100	100
	実績		100	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標 事故・クレーム抑制率	目標	%	100	100	100	100	100
	実績		100	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
成果指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	青少年自然の森管理運営事務			事業期間	平成 4 ～ 年度	整理番号	07020207
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小 池 岳 史	連絡先	76-2270

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	宿泊棟(5棟)換気棟設置工事の業者選定、契約、実施 宿泊棟(2棟)天井改修置工事の業者選定、契約、実施 支障木等の確認・伐採 貸出物品の補修・点検 施設の日常的な定期点検の実施 経年劣化によるアスレチック器具等の点検	宿泊棟(5棟)換気棟設置工事の実施 宿泊棟(2棟)天井改修置工事の実施 支障木等の確認 貸出物品の補修・点検 施設の日常的な定期点検の実施 経年劣化によるアスレチック器具等の点検	換気棟の設置と防湿材の敷直しにより、宿泊棟天井の結露対策をおこなったが、雨漏りの可能性も指摘されている。施設の現状把握が課題である。
第2期	支障木等の確認、樹木の枝払い スズメバチの巣の確認と駆除 各施設の現状把握の実施	支障木等の確認、樹木の枝払い スズメバチの巣の確認と駆除 各施設の現状把握の実施	支障木・枯れ木の点検を強化しているが、見落としてしまった樹木がある。複数の目で確認する必要がある。 目視不可能な木の上部にスズメバチの巣があり、この木に振動を与えてしまい、小学生が刺された。目視できない巣の確認が課題である。
第3期	支障木等の確認、樹木の枝払い 各施設の現状把握の実施	支障木等の伐採及び処理、樹木の枝払い 各施設の現状把握の実施	樹木の管理 宿泊棟根太の防蟻処理を早急におこなう。
第4期	支障木の伐採及び処理 物品(掃除機)の購入手続き 宿泊棟根太の防蟻処理の実施	支障木の伐採及び処理 物品(掃除機)の購入	樹木の管理、施設の長寿命化対策 宿泊棟根太の防蟻処理を早急におこなう。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

来場者からスズメバチの巣の確認報告が相次ぎ、駆除が後手になってしまった。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

施設内の清掃回数を増やし、屋根の洗浄作業(コケ落とし)を加えるなど、管理委託業務を見直し予算に反映した。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度	当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

宿泊棟や研修棟等の長寿命化を図るには、不具合のある箇所を早期に発見し、適切な修繕等をおこなう必要がある。管理委託業者による日常・定期点検に加え、専門業者による悉皆調査が必要と考える。
考古館係による考古館と一体となる管理運営をおこなっているが、来場者の減少を食い止めるためにも、より魅力ある施設となるよう管理運営方法を抜本的に見直す時期にきているように思われる。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020206

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
建設から25年が経過しており、至る所に不具合がみられる。来場者が安全かつ快適に利用できるよう計画的に改修等をおこなう必要がある。	施設の長寿命化を図るとともに、来場者が安全かつ快適に利用できるよう修繕等を計画的におこなう。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
改修等を計画的におこない安全かつ快適な環境を整える。物品については、古い物から順次交換していく。	安全かつ快適な環境を保持するために、日々の点検を怠りなく実施する。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	縄文プロジェクト推進事業			事業期間	平成 22 ～ 年度	整理番号	02030104
担当部署	企画部	地域戦略課	地域創生係	作成担当者名	大 蔵 健 司	連絡先	233

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業	07 縄文プロジェクト推進事業

予算事業名	縄文プロジェクト推進事業	会計コード	001	款	02	項	01	目	07	事業	04

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	縄文プロジェクトを推進し、市民や来訪者に対し縄文文化への関心や理解を高め、縄文を活用したまちづくりを行う。 また、茅野市の宝である「縄文」をシティプロモーションの重要なコンテンツとして位置づけ、「八ヶ岳JOMONライフフェスティバル」などの事業も随時行っていく。
現状と背景（どうして）	当市には、縄文時代の国宝や特別史跡があるが、この資産を十分に活用できておらず、また市民の方の関心も決して高いとは言い切れない状態である。特徴的な日本文化としての「縄文」を発信するには、1自治体の発信では限界があり、ネットワーク化が求められている。
目的 対象 受益者（誰のために）	市民、事業者
目的 対象 対象（直接働きかける）	市民、事業者、関係部署、来街者
目的 意図（どんな状態にしたいか）	縄文プロジェクト構想を見直してより具体的な基本計画を立て、それに基づき縄文を活用した（根づかせる）事業を展開する。それにより、茅野市の知名度向上と、市民の方の縄文文化に対する関心や理解を高める。
手段・方法（どうやって）	・縄文プロジェクト実行市民会議を開催し、推進事業の連絡・調整を行う。 ・縄文を活用したイベントや事業を行う。 ・縄文ふるさと応援団の会員拡充と縄文プロジェクトHP等の発信を行う。 ・縄文に関連した商品が一つでも多く開発されるように補助金により支援を行う。 ・縄文による他市町村とのネットワークを構築していく。

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	縄文プロジェクト実行市民会議の開催	市民会議の開催	回		
活動指標	縄文ふるさと応援団会員の拡充	縄文ふるさと応援団会員延数	回	縄文を広める応援団の登録延べ人数	2,000
活動指標	縄文関連商品開発支援事業による補助金の交付	補助金交付件数	件	縄文関連商品の開発平均件数	2
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	市民の認知度	関心度	%	市民アンケートでまちづくりに縄文が活用されていると思う市民の割合	100
成果指標	縄文プロジェクトへの関心	プロジェクトHP年間アクセス数	回	縄文プロジェクトHPへのアクセスを通じて関心度を拡げていく（5000/月×12か月）	60,000

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	3,387,218	3,242,735	1,298,992	16,161,609	2,474,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	3,387,218	3,242,735	1,298,992	16,161,609	2,474,000
職員数	正規職員	人					
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人					
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	60.00	58.00	23.00	291.00	45.00
活動指標 市民会議の開催	目標	回					
	実績		8	2	2	2	2
	達成率	%	―	―	―	―	―
活動指標 縄文ふるさと応援団会員延数	目標	回	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	実績		582	914	1,146	1,246	1,346
	達成率	%	29.10	45.70	57.30	62.30	67.30
活動指標 補助金交付件数	目標	件	2	2	2	2	2
	実績		1	5	1	0	2
	達成率	%	50.00	250.00	50.00	0.00	100.00
成果指標 関心度	目標	%	100	100	100	100	100
	実績		48	57	49	57	57
	達成率	%	47.70	56.70	48.80	57.00	57.00
成果指標 プロジェクトHP年間アクセス数	目標	回	-	60,000	60,000	60,000	60,000
	実績			13,922	62,620	93,543	130,000
	達成率	%	―	23.20	104.37	155.91	216.67

備考：縄文プロジェクトHPを平成27年12月21日に開設した。平成30年3月31日までの延アクセス件数は、170,085件
縄文関連商品開発支援事業補助金の活用件数はゼロであったが、八ヶ岳JOMONライフフェスティバル関連で、ひまわり作業所において、多くの商品開発が展開された。

事務事業名	縄文プロジェクト推進事業			事業期間	平成 22 ～ 年度	整理番号	02030104
担当部署	企画部	地域戦略課	地域創生係	作成担当者名	大 蔵 健 司	連絡先	233

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	・縄文プロジェクト実行市民会議のコーディネート ・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの実施に向けた準備と情報発信 ・県及び関係自治体と連携した日本遺産「縄文」の取り組みの推進	・八ヶ岳JOMONライフフェスティバル実行委員会の開催、各部会の開催 ・ラッピングバスの走行開始 ・女神のクールビズ2017開始(29.6.3～9.30)	・縄文プロジェクトの関心度の向上 ・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの開催
第2期	・縄文プロジェクト実行市民会議の開催 ・縄文プロジェクト実行市民会議各部会の開催 ・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの準備と運営	・第6回縄文プロジェクト実行市民会議の開催 ・縄文文化発信サポーターズ総会 ・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの開催 ・縄文LINEスタンプの開発	・縄文プロジェクトの関心度の向上 ・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの周知・運営
第3期	・縄文プロジェクト実行市民会議の開催 ・縄文プロジェクト実行市民会議各部会の開催 ・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの準備と運営	・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの開催（来場者数29,425人） ・八ヶ岳JOMONライフフェスティバル実行委員会の開催、各部会の開催	・縄文プロジェクト関心度の向上 ・次回八ヶ岳JOMONライフフェスティバル開催に向けた課題の掘り起し
第4期	・縄文プロジェクト実行市民会議の開催 ・縄文プロジェクト実行市民会議各部会の開催 ・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの検証	・第7回縄文プロジェクト実行市民会議の開催 ・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルのロビー展の開催 ・縄文科学習発表会	・縄文プロジェクト関心度の向上 ・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルに向けた体制整備

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

・縄文プロジェクトの確実かつステップアップ。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

・定着してきた女神のクールビズの市民、事業者向けた横展開
・縄文文化発信サポーターズと連動した都内での縄文PR
・日本遺産認定に向け、関係14市町村と組織する協議会の設立及び運営

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

・縄文プロジェクトの関心度の向上
・女神のクールビズのプロモーション戦略
・次回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルの開催に向けた、体制づくり。
・縄文文化発信サポーターズなど、他市町村と連携した縄文文化の発信。

記号の定義
A：計画どおり事業を進めることが適当
B：事業の進め方に改善が必要
C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	01090101

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
・第0回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルを開催し、フェス期間中は29,425人の来場があり、「縄文」を“楽しむ”需要はある。2020年の第1回開催に向け、第0回を検証し、新たな企画や体制づくりの整備を行う。 ・縄文文化発信サポーターズに参画し、東京オリンピックに向け、オールジャパンで縄文文化を世界的に発信していく。 ・日本遺産登録に向けた関係市町村との連携を強化していく。 ・縄文科学習発表会や縄文かるたなど縄文プロジェクト実行市民会議の成果もあがっているので、引き続き推進していく。	・第0回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルを開催し、フェス期間中は29,425人の来場があり、「縄文」を“楽しむ”需要はある。2020年の第1回開催に向け、第0回を検証し、新たな企画や体制づくりの整備を行う。 ・縄文文化発信サポーターズに参画し、東京オリンピックに向け、オールジャパンで縄文文化を世界的に発信していく。 ・日本遺産認定に伴い、関係市町村が面で観光客を受け入れる体制整備とそのための組織の設立を目指す。 ・縄文科学習発表会や縄文かるたなど縄文プロジェクト実行市民会議
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				レ
現状維持				
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルは、3年に一度のトリエンナーレ方式とするが、プレ告知などの予算計上をしていきたい。 ・全国的に「縄文」への関心が高まってきていることから、日本遺産や縄文文化発信サポーターズなどの組織を有効的に活用しネットワークを築いていく。 ・日本遺産認定に向けた関係市町村で組織する協議会を設立していく。 ・縄文関連商品や掲出物等に利用できる3Dデータ制作への予算確保を	・八ヶ岳JOMONライフフェスティバルは、3年に一度のトリエンナーレ方式とするが、プレ告知などの予算計上をしていきたい。 ・全国的に「縄文」への関心が高まってきていることから、日本遺産や縄文文化発信サポーターズなどの組織を有効的に活用しネットワークを築いていく。 ・日本遺産認定に伴い国の交付金を受けるため、協議会を設立する。協議会への負担金が新たに発生する。 ・縄文関連商品や掲出物等に利用できる3Dデータ制作への予算確保を

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	地域戦略課長	岩 崎 研 二

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	関係団体支援等事務			事業期間	平成　～　年度	整理番号	07020210
担当部署	教育委員会事務局	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　池　岳　史	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策 06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策 11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業 09 ー
予算事業名	関係団体支援等事業費		会計コード 001 款 10 項 05 目 10 事業 09
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	国指定史跡、考古館、博物館等を有する県内外の市町村や団体と連携し、縄文時代の遺跡と遺物の保護と活用に資する情報の収集と共有を図ると共に、縄文文化の価値と重要性を市民をはじめ全国の人々に発信するため、各市町村と各施設を束ねる関係団体の運営に係る費用の一部を負担する。 イベント（縄文まつり）を、市民主導の実行委員会で開催し縄文文化の情報を発信する。		
現状と背景（どうして）	縄文文化の価値と重要性が、市民及び全国の人々に十分浸透していない。		
目的 対象 受益者（誰のために）	市民、全国の人		
目的 対象 対象（直接働きかける）	市民、全国の人、関係団体		
目的 意図（どんな状態にしたいか）	縄文文化の価値と重要性を知ってもらい、広く発信してもらう。		
手段・方法（どうやって）	関係団体主催の会議やイベントを通じ、縄文文化の価値と重要性を発信する。		

評価指標の作成

活動指標：行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
関係団体主催の会議出席回数	出席回数	回	会議への出席数	3

成果指標：成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
考古館入館者数の増	入館者数	%	Ｈ２９年度/Ｈ２８年度	102

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)		円		3,081,000	81,000	81,000	3,581,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円		3,081,000	81,000	81,000	3,581,000
職員数	正規職員	人		0.10	0.05		
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人		0.10	0.05	0.05	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	ー	ー	ー	ー	ー
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	ー	55.00	1.00	1.00	65.00
活動指標 出席回数	目標	回		15	3	3	3
	実績			10	3	3	3
	達成率	%	ー	66.67	100.00	100.00	100.00
活動指標	目標						
	実績						
	達成率	%	ー	ー	ー	ー	ー
活動指標 ー	目標	ー					
	実績						
	達成率	%	ー	ー	ー	ー	ー
成果指標 入館者数	目標	%		4,000	103	102	102
	実績			3,500	97	111	102
	達成率	%	ー	87.50	94.17	108.82	100.00
成果指標 ー	目標	ー					
	実績						
	達成率	%	ー	ー	ー	ー	ー

備考

事務事業名	関係団体支援等事務			事業期間	平成 ～ 年度	整理番号	07020210
担当部署	教育委員会事務局	文化財課	文化財係	作成担当者名	小池岳史	連絡先	76-2270

k

期	目標	実績	課題
第1期	負担金の納入 日本博物館協会「国際博物館の日」の事業参加 史跡整備等長野県市町村協議会への出席	日本博物館協会「国際博物館の日」無料開館 長野県博物館協議会負担金納入 全国史跡整備市町村協議会加盟市町村負担金納入 の本博物館協会負担金納入 史跡整備等長野県市町村協議会総会へ出席	「国際博物館の日」にちなみ無料開館としたが、平日であったことも影響して、入館者の増加につながらなかった。館の特徴をいかした企画展示ができればよい。
第2期	負担金の納入	全国史跡整備市町村協議会北信越地区負担金納入	
第3期	全国史跡整備市町村協議会臨時大会への出席	全国史跡整備市町村協議会臨時大会へ出席	
第4期	負担金の納入 諏訪郡市博物館等連絡協議会への出席	諏訪郡市博物館等連絡協議会負担金納入 訪郡市博物館等連絡協議会へ出席	集客(経済効果)重視の私立の館との連携

j

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

「国際博物館の日」に縄文にちなんだ事業をおこなう。
平成29年度は茅野市尖石5000年祭縄文まつりが、第0回八ヶ岳縄文ライフフェスティバルの一環で開催されたため、縄文まつり実行委員会負担金は、計上されなかったが、平成30年度は従来どおり実行委員会負担金を関係団体支援事業に計上し、尚且つ内容充実のために増額した。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度 当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

広域に組織された関係団体に加盟しているものの、考古館業務との兼ね合いから、会議やイベントのすべてに参加することができず、有効に利活用できていない。
「国際博物館の日」を無料開館とするだけでなく、縄文にちなんだ事業の実施を検討する。

記号の定義
A：計画どおり事業を進めることが適当
B：事業の進め方に改善が必要
C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020209

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
会議を通じ、他市町村や他施設の職員から、保護、活用、発信に関わる様々な情報を得ることができた。考古館業務と日程調整を図り、積極的に会議等に参加したい。	他市町村や他施設における保護と活用の動向を知り、当市の縄文時代の遺跡・遺物の適切な保護と効果的な活用を図ると共に、縄文文化の価値と重要性を広く発信するための大切な施策である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
関係団体と連絡を取り合い、会議等の開催日の早期把握に努め、考古館業務と日程を調整して、積極的に会議等に参加する。 「国際博物館の日」に縄文にちなんだ講座又は講演を行う。	会議等に積極的に参加して、他市町村や他施設との連携強化を図る。 縄文にちなんだ講座又は講演をおこない、縄文文化の価値と重要性を発信する。 イベント（縄文まつり）により、多くの方に参加いただき、縄文文化の情報を発信する。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	縄文を識る推進事業			事業期間	平成 28 ～ 年度	整理番号	07020209
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小 池 岳 史	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策 06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策 11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業 10 ー
予算事業名	縄文を識る推進事業費		会計コード 001 款 10 項 05 目 10 事業 10
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	縄文プロジェクト実行市民会議で確認された「縄文人の生き方を識り、現代社会の課題解決につなげる」とする、「縄文」を識る部会の方針に基づき実施する。「縄文」をる識る部会員（市民）がおこなうさまざまな取組を通じ、茅野市の「縄文」の価値や魅力を伝え、市民総学芸員化を推進する。		
現状と背景（どうして）	茅野市には、国宝「土偶」（縄文のビーナス、仮面の女神）、国宝級の価値がある特別史跡「尖石石器時代遺跡」をはじめ、世界に誇る縄文時代の「宝」があるが、その存在や価値が市民に十分浸透していない。そのために、縄文をいかした特色あるまちづくり、人づくりを十分に展開することができていない。		
目的 対象 受益者（誰のために）	市民		
目的 対象 対象（直接働きかける）	市民		
目的 意図（どんな状態にしたいか）	茅野市の縄文の価値を正しく理解し、当市の「宝」として説明できる市民を育成する。		
手段・方法（どうやって）	『茅野市縄文かるた』による第1回茅野市縄文かるた大会の開催。 市内保育園・幼稚園での『茅野市縄文かるた』の対面販売の実施。 『茅野市縄文ガイドブック』を使った縄文遺跡めぐりの実施。 縄文風小屋づくり体験会の実施。		

評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	縄文かるた大会	実施回数	回	1回	100
活動指標	縄文遺跡めぐり	実施回数	回	1回	100
活動指標	縄文風小屋づくり体験会	実施回数	回	3回	100
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	考古館来館者数の増加	来館者数増加率	%	来館者数／前年度来館者数	102
成果指標	縄文検定受験者数の増加	受験者数増加率	%	受験者数／前年度受験者数	101

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円			2,649,862	1,645,114	236,000
財源内訳	国庫支出金	円					
財源内訳	県支出金	円					
財源内訳	地方債	円					
財源内訳	その他特定財源	円				1,240,200	
財源内訳	一般財源	円			2,649,862	404,914	236,000
職員数	正規職員	人			0.20	0.20	
職員数	嘱託職員	人					
職員数	臨時職員	人					
職員数	合計	人			0.20	0.20	0.20
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	ー	ー	ー	ー	ー
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	ー	ー	48.00	30.00	4.00
活動指標 実施回数	目標	回			100	1	1
活動指標 実施回数	実績	回			100	1	1
活動指標 実施回数	達成率	%	ー	ー	100.00	100.00	100.00
活動指標 実施回数	目標	回			100	1	1
活動指標 実施回数	実績	回			100	1	1
活動指標 実施回数	達成率	%	ー	ー	100.00	100.00	100.00
活動指標 実施回数	目標	回			2	3	8
活動指標 実施回数	実績	回			2	3	8
活動指標 実施回数	達成率	%	ー	ー	100.00	100.00	100.00
成果指標 来館者数増加率	目標	%			103	102	102
成果指標 来館者数増加率	実績	%			97	111	102
成果指標 来館者数増加率	達成率	%	ー	ー	94.17	108.82	100.00
成果指標 受験者数増加率	目標	%			105	101	101
成果指標 受験者数増加率	実績	%			53	109	101
成果指標 受験者数増加率	達成率	%	ー	ー	50.48	107.92	100.00

備考

事務事業名	縄文を識る推進事業			事業期間	平成 28 ～ 年度	整理番号	07020209
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小 池 岳 史	連絡先	76-2270

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	縄文かるた大会景品・賞品の製作委託業務の準備 縄文風小屋づくり体験会の募集案内作成と予行演習 市内保育園・幼稚園での『茅野市縄文かるた』の対面販売の実施（9園）	縄文かるた大会景品・賞品の製作委託業務の準備 縄文風小屋づくり体験会の募集案内作成と予行演習 市内保育園・幼稚園での『茅野市縄文かるた』の対面販売の実施（9園）	イラストレーターとの連絡調整不足により、かるた大会の景品・賞品のデザイン案ができていない。
第2期	縄文かるた大会景品・賞品の製作委託業務の発注と製作 縄文風小屋づくり体験会の募集案内作成と予行演習 市内保育園・幼稚園での『茅野市縄文かるた』の対面販売の実施（10園）	縄文かるた大会景品・賞品の製作委託業務の発注 縄文風小屋づくり体験会の募集案内作成と予行演習 市内保育園・幼稚園での『茅野市縄文かるた』の対面販売の実施（10園）	小屋づくりの参加者が少ない。対象範囲を広げ、申し込み不要とするなどの見直しが必要と思われる。 かるた大会の景品・賞品の製作が10月にずれ込む。
第3期	縄文かるた大会景品・賞品の製作 縄文かるた大会の実施 縄文遺跡めぐりの実施 カヤ刈りの実施	縄文かるた大会景品・賞品の製作 縄文かるた大会の実施 縄文遺跡めぐりの実施 カヤ刈りの実施	小学校高学年以上のかるた大会参加者が少ない。
第4期	来年度事業の検討会の実施 縄文かるた大会賞品・景品の考古館売店での販売 縄文かるた大会賞品・景品の追加製作	来年度事業の検討会の実施 縄文かるた大会賞品・景品の考古館売店での販売 縄文かるた大会賞品・景品の追加製作	事業が定番化しており、新たな取組が必要との意見が出た。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

3事業（小屋づくり、かるた大会、遺跡めぐり）を継続するが、参加者の増加を図るために内容と進め方を見直す。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度 当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック					4					4					4	

課題

小中学校の「縄文科」、幼稚園と保育園、公民館の活動等において発行物が十分に利活用されていないように思われる。
関心の低い市民に対する発行物の活用方法を検討する。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020210

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
「縄文」を識る部会員が小中学校等に出向き、発行物の活用を補助するなどの新たな事業の展開が望まれる。 さまざまなイベントで発行物の活用を検討し、関心の低い市民に対し、縄文文化の価値や魅力を発信する。	市民（「縄文」を識る部会員）による市民総学芸員化を推進するための大切な施策である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策	細施策評価前	細施策評価後
	「縄文」を識る部会員（市民）の高齢化が進み、世代交代や新たな部会員の補充を検討すべき時期にきている。来年度の小屋づくり体験会、かるた大会を通じ、部会員の確保に努める。3事業の内容や進め方を見直すとともに、新規事業の展開と部会員の関わり方を検討する。	推進体制の強化、既存事業の内容と進め方の見直し、新規事業の展開と部会員の関わり方を検討し、市民総学芸員化をさらに進めていく。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	尖石ボランティア事務			事業期間	平成 24 ～ 年度	整理番号	07020208
担当部署	教育委員会生涯学習部	文化財課尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小 池 岳 史	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業	08 尖石ボランティア事業
予算事業名	尖石ボランティア事業費			会計コード 001 款 10 項 05 目 10 事業 07
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	尖石縄文考古館で市民参加による博物館活動の場とするための事業。尖石縄文考古館の事業をサポートする尖石ボランティアと、考古館を活動の場として自主的な活動を行う尖石サークルの2種類の活動を行っている。尖石ボランティアは史跡公園の環境整備、考古館でのイベント開催、講座講師を無償で務めている。尖石サークルは、会員を増加させながら活発に活動している。サークル会員も、尖石縄文考古館の講座講師を無償で務めている。考古館職員とボランティア会員、サークル会員の意見交換のために、尖石サロンと題して話し合いの場を設けている。			
現状と背景（どうして）	尖石縄文考古館の運営に市民感覚をいかすため。茅野市の財産である文化財を市民とともに守り、その価値を知ってもらうため。			
目的 対象 受益者（誰のために）	市民、考古館観覧者、公園利用者			
目的 対象 対象（直接働きかける）	同上			
目的 意図（どんな状態にしたいか）	市民総学芸員化とともに、市民が講師、および考古館・茅野市に残る縄文文化の素晴らしさを伝える発信者となってもらう。市民参加による博物館・史跡公園をづくりを推進し、博物館運営、史跡公園づくりを茅野市のまちづくりの活動として認知されるようにする。			
手段・方法（どうやって）	ボランティア活動に学習の要素を加え、茅野市の自然、文化を楽しみ学びながら活動できるボランティア活動プログラムを立てる。 尖石縄文検定合格者に、学習・解説・史跡整備等の実施を通知し、ボランティアによる検定合格後の活動の場を提供する。			

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	ボランティア事業開催ごとの参加率	ボランティア事業参加率	%	ボランティア活動参加者/ボランティア会員数	100
活動指標	尖石サロン開催数ごとの会員参加率	サロン参加率	%	ボランティア、サークル会員出席者数/総会員数	100
活動指標					
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	ボランティア会員数の増加	ボランティア会員増加率	%	今年度会員数/前年度会員数　46/33	139
成果指標	サークル活動の活性化	サークル会員増加率	%	今年度サークル会員数/前年度サークル会員数	107

実施状況（DO）

項目			単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)			円	41,398	24,098	43,954	18,438	22,000
財源内訳	国庫支出金		円					
財源内訳	県支出金		円					
財源内訳	地方債		円					
財源内訳	その他特定財源		円					
財源内訳	一般財源		円	41,398	24,098	43,954	18,438	22,000
職員数	正規職員		人	0.20	0.10	0.20	0.20	0.20
職員数	嘱託職員		人	0.15	0.15			
職員数	臨時職員		人	0.15	0.15			
職員数	合計		人	0.50	0.40	0.20	0.20	0.20
対象（者）数								
延利用（者）数 (b)								
単位コスト (a)/(b)			円	－	－	－	－	－
受益者負担額			円					
市民一人当たりのコスト			円	1.00	0.00	1.00	0.00	28.00
活動指標	ボランティア事業参加率	目標	%	100	100	100	100	100
活動指標	ボランティア事業参加率	実績	%	90	90	45	93	90
活動指標	ボランティア事業参加率	達成率	%	90.00	90.00	45.00	93.00	90.00
活動指標	サロン参加率	目標	%	100	100	100	100	100
活動指標	サロン参加率	実績	%	50	50	26	11	25
活動指標	サロン参加率	達成率	%	50.00	50.00	26.00	11.00	25.00
活動指標	－	目標	－					
活動指標	－	実績	－					
活動指標	－	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	ボランティア会員増加率	目標	%	120	120	120	120	120
成果指標	ボランティア会員増加率	実績	%	110	110	59	139	120
成果指標	ボランティア会員増加率	達成率	%	91.67	91.67	49.17	115.83	100.00
成果指標	サークル会員増加率	目標	%	120	120	120	120	120
成果指標	サークル会員増加率	実績	%	120	110	98	107	120
成果指標	サークル会員増加率	達成率	%	100.00	91.67	81.67	89.17	100.00

備考

事務事業名	尖石ボランティア事務			事業期間	平成 24 ～ 年度	整理番号	07020208
担当部署	教育委員会生涯学習部	文化財課尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小 池 岳 史	連絡先	76-2270

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	史跡公園と周辺の清掃　エゴマ栽培準備・種蒔き・苗移植　特定外来生物の駆除　展示解説の実施　縄文教室への協力	史跡公園と周辺の清掃　エゴマ栽培準備・種蒔き・苗移植　特定外来生物の駆除　展示解説の実施　縄文教室への協力	特定外来生物の生育範囲の現状把握が十分行われていないため、駆除範囲が限られている。
第2期	エゴマの支柱立て、畑の除草、 展示解説の実施	エゴマの支柱立て、畑の除草、 展示解説の実施	ボランティアによる展示解説の充実と後継者の育成を図るため、学習会を開催が必要となる。
第3期	エゴマの収穫・おはぎの振る舞い　展示解説の実施　縄文ライフフェスティバル・縄文まつり各イベントへの協力(講師役)　学習会の実施　尖石サロンの実施	エゴマの収穫・おはぎの振る舞い　展示解説の実施　縄文ライフフェスティバル・縄文まつり各イベントへの協力(講師役)　尖石サロンの実施	ボランティアによる展示解説の充実と後継者の育成を図るため、学習会を開催する。
第4期	展示解説の実施　尖石サロンの実施	展示解説の実施　尖石サロンの実施	会員が高齢化、新住民化している。今後を考え、幅広い年齢層の旧住民を取り込む必要がある。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

活動をけん引してきた会員が高齢化し、「第2世代」へ引き継ぐ時期に来ている。スムーズに世代交代ができるか大きな課題である。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性				判定	有効性				判定	効率性				判定	総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		A
チェック					4					4					4	

課題

ボランティア会員が高齢化し、別荘永住者の参加者が多く、地元市民の参加が少ない。
ボランティア会員に担ってもらうことと、職員が行わなければいけないものか役割を明確化しお願いしていかなくてはいけない。
ボランティア会員の持っている技能がいかに博物館・史跡公園運営に役だっているかを広く周知し、ボランティア活動への賛同者を増やす必要がある。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020208

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
年齢の若いボランティア会員を増加するためには、ボランティア活動のPRが重要である。 正規職員が理想としている博物館活動を説明し、共感してもらうためには、ボランティア活動時に職員がいる必要がある。 会員相互の交流を活発にするように業務を進め、仲間意識が醸成されるような機会を設ける必要がある。	史跡公園づくりに市民が参加する、パートナーシップによるまちづくりにつながる事業として重要である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
尖石縄文検定合格者へのボランティア活動の周知。 尖石縄文検定合格者とボランティア会員の直接交流の場を設定する。 ボランティア活動に、縄文を学ぶ学習会(尖石学習会)を加える。 職員の役割を検討し、ボランティア会員が担っていただける業務を明確にし、会員のやる気と充実感を引き出すようにする。 野外活動は天候に左右されるので、計画通りに進められるよう、予備日を設ける。	ボランティア活動の周知・広報を行うとともに、参加者が活動しやすい環境を作るための尖石サロン等で意見交換会を行う。

最終評価年月日	平成30年5月13日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	体育施設維持管理事業			事業期間	平成 15 ～ 年度	整理番号	08030107
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	上 条 直 之	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	12 総合体育館・運動公園の充実
			事務事業	01 施設維持管理運営事業

予算事業名	体育施設管理費　会計コード 001 款 10 項 06 目 02 事業 01
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	多くの市民、スポーツ団体に利用されている運動公園内スポーツ施設の維持管理、設備の保守点検、公園内清掃、公園内各スポーツ施設の改修工事等を行う。 ・消防設備点検・電気工作物保守点検・夜間照明設備保守点検・競技器具保守・グランド整備業務・総合体育館清掃管理業務・公園内トイレ清掃業務・公園内清掃業務・総合体育館受付業務の委託事業。また、老朽化した施設の小規模な補修・改修工事の実施。施設維持管理上必要な光熱水費、使用料、消耗品費等の支払い、整備用原材料の購入を行う。
現状と背景（どうして）	老朽化した設備の保守点検、清掃活動等の施設運営に必要な管理業務を行い、体育施設の機能維持を図る。
目的 対象 受益者（誰のために）	運動公園を利用する市民を含む全ての利用者
目的 対象 対象（直接働きかける）	同上
目的 意図（どんな状態にしたいか）	運動公園を利用する全ての市民が、スポーツをはじめ、それぞれの目的に応じて施設を利用する際に、快適かつ良好（安心・安全）な状態にしたい。
手段・方法（どうやって）	市民及びスポーツ団体からの要望受付および施設設備の保守点検を委託で実施し、不良個所・改善必要箇所を把握するとともに維持管理に必要な補修、改修工事を行い施設機能の保全を図る。

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
施設維持の調査実施	調査数	回	未対応部分の把握	52
施設維持の委託実施	委託数	件	委託内容の充実及び内容の確認	18

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
苦情を減らす	苦情非発生日率	%	（３６５－苦情発生日数/３６５日）×１００	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	84,160,000	76,085,898	79,705,303	80,990,363	82,281,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	19,673,000	21,133,842	20,134,622	24,284,049	22,040,000
	一般財源	円	64,487,000	54,952,056	59,570,681	56,706,314	60,241,000
職員数	正規職員	人	1.36	1.36	1.36	0.75	0.75
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人				0.60	0.60
	合計	人	1.36	1.36	1.36	1.35	1.35
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	1,499.00	1,359.00	1,429.00	1,459.00	1,607.00
活動指標 調査数	目標	回	52	52	52	52	52
	実績		45	45	45	45	45
	達成率	%	86.54	86.54	86.54	86.54	86.54
活動指標 委託数	目標	件	22	21	21	20	20
	実績		22	21	21	22	20
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	110.00	100.00
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標 苦情非発生日率	目標	%	100	100	100	100	100
	実績		65	69	66	67	70
	達成率	%	65.00	69.00	66.00	66.50	70.00
成果指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	体育施設維持管理事業			事業期間	平成 15 ～ 年度	整理番号	08030107
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	上 条 直 之	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	早期に委託契約を締結し施設の保守安全を確保するとともに、予定している補修・改修工事を早期に発注し利用者の安全を確保する。 施設受付業務を早期軌道に乗せる	予算計上工事の計画的な実施（弓道場安土整備、陸上競技場階段手摺設置、ｽｹｰﾄCトイレ改修）、老朽化・故障による緊急工事（階段踏板、柵、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ等）、計画的な委託実施（遊具点検、屋外施設照明器具、陸上競技場電子機器等）、日常的な定期点検実施	屋外夜間照明用ランプ製造中止によるLED化の要早期実施 日常的な定期点検等による施設の雨漏り・壁のヒビを多数確認
第2期	・陸上競技場の芝生管理を業者と協議し、大会等に支障のない範囲で養生する ・実施計画の作成	・予算計上工事の計画的な実施（誘導灯改修）、老朽化・故障による緊急工事（階段等）、計画的な委託実施（非常用発電機点検・消防設備点検等）	競技施設芝生が例年以上に伸びたが、芝刈の回数が契約上決まっているため芝が長い状態での使用となり、芝刈の時期や回数を再検討する必要あり
第3期	・日常点検結果に基づく実施計画、予算要求 ・陸上競技場・野球場の芝生養生期間の確保と芝刈の実施	9/19 実施計画提出 11/7 予算要求書提出	・新電力導入と上下水道料の減少による光熱水費削減 ・水銀に関する水俣条約締結に伴う、水銀灯等ランプの2020年までの製造停止による照明器具の交換
第4期	・公共施設等管理計画個別計画用資料作成 ・施設稼働率再算出 ・計画に基づく、委託等の執行	・公共施設等管理計画個別計画用資料作成 ・施設稼働率再算出 ・計画に基づく、委託等の執行	計画通りに工事等を実行できるよう、実施計画、予算要求に反映させていく。 上下水道料の使用料を抑えるため、減圧弁の定期的な管理が必要

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

運動公園環境整備の草刈・剪定業務の大分部分をシルバー人材センターに委託したが、契約により刈払機・剪定用バリカンの刃などの消耗品の購入が増加した。夜間照明用ランプの水俣条約による製造中止に伴い補充不可による、照明設備の早期LED化。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

各施設の計画的な更新・改修等
・弓道場安土整備、陸上競技場非常用アンプ更新、プール受電設備更新、ｽｹｰﾄｾﾝﾀｰ擁壁補修、庭球場・ﾊﾞｯﾃｨﾝｸﾞｾﾝﾀｰ・練成館トイレ洋式化改修、PCB処分等

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度	当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

運動公園施設は建設後40年が経過し、各施設とも老朽化する中で維持管理費は増加傾向にある。冬期の雪がない時に寒波が来たため、凍みによるタイルの割れが発生した。
限られた予算の中で改修工事の優先度・重要度のさらなる検討が必要。また、運動公園は森林緑化エリアも広大であり樹木が大きくなっているため近隣住居に支障が出ていることや、樹木も４０年以上になり根の腐り等で倒木の危険性が高い。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07040107

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
安全や競技にかかわるもの等の優先順位をつけ工事や点検を行っている。早期に発見・修繕するためにも定期的な点検は必要なものであり、突発的な故障や事故があるため柔軟に対応し、維持していくためにも重要な施策となっている。	安全や競技に関わるもの等の優先順位をつけ工事や点検を行っている。 早期に発見・修繕するためにも定期的な点検は必要なものであり、突発的な故障や事故があるため柔軟に対応し、維持していくためにも重要な施策となっている。
前年度改革・改善策の実施状況：－	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				レ
現状維持				
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
限られた財源の中で効果的な維持管理ができるよう、委託事業については業務内容の精査し発注する。改修工事については危険度・優先度・重要度の検討を行い、工事内容についても精査し発注することで、柔軟に対応する。	限られた財源の中で効果的な維持管理ができるよう、委託事業については業務内容を精査し発注する。改修工事については危険度・優先度・重要度の検討を行い、工事内容についても精査し発注することで、柔軟に対応する。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中 村 浩 明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	体育施設整備事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030110
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	小　林　亮　介	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	12 総合体育館・運動公園の充実
			事務事業	04 スポーツ施設整備事業

予算事業名	体育施設整備事業費	会計コード	001	款	10	項	06	目	02	事業	04

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）		多くの市民及びスポーツ団体に利用されている運動公園の施設の整備を実施計画に基づき計画的に実施する。
現状と背景（どうして）		スポーツ人口が増加しつつある中、運動公園施設は建設から40年が経過している。利用者のニーズや競技レベル維持のため、スポーツ施設の計画的な改修・整備を行う必要が生じている。
目的	対象 受益者（誰のために）	公園を利用する市民を含む全ての利用者
	対象 対象（直接働きかける）	同上
	意図（どんな状態にしたいか）	市民からのスポーツ施設・設備に関する要望や経年劣化による施設の改修に関する整備を行い、競技スポーツ・運動公園としての環境を整える。
手段・方法（どうやって）		スポーツ団体からの要望や公共施設等管理計画等を受け実施計画を作成し、大規模改修及び設備機能の向上を図り、利用ニーズにあった施設の整備を行う。

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
施設整備の実施	工事件数	件	整備工事の発注及び内容検査	1

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
施設環境を整える	実施計画の策定・対応件数	件	改修工事の実施	6

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	7,980,120	23,309,640	15,141,600	70,692,924	233,716,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					74,300,000
	その他特定財源	円		6,000,000		1,328,000	119,950,000
	一般財源	円	7,980,120	17,309,640	15,141,600	69,364,924	39,466,000
職員数	正規職員	人	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	142.00	416.00	271.00	1,273.00	4,227.00
活動指標 工事件数	目標	件	2	1	1	1	1
	実績		2	1	0	1	3
	達成率	%	100.00	100.00	0.00	100.00	300.00
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
活動指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標 実施計画の策定・対応件数	目標	件	5	5	5	6	6
	実績		5	5	5	7	6
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	116.67	100.00
成果指標 －	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	体育施設整備事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030110
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	小　林　亮　介	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	・予定している補修・改修工事を早期に発注し利用者の安全を確保、施設の機能回復を図る。 ・テニスコートの最適化についての研究	・陸上競技場器具庫設置実施設計、野球場防水等改修、スリットビデオ用PC更新、ピッチングマシン交換設置、ゴルフ練習場人工芝購入発注・竣工 ・ゴルフ練習場人工芝設置契約	・テニスコートの全天候化工事をtoto補助の対象とするには、クレーコート+オムニコートの全施設改修が必要なことが判明
第2期	・未発注工事・備品の早期発注 ・実施計画作成	・陸上競技場器具庫設置工事、プール深井戸ポンプ取替工事、スケートC冷凍機排気管交換工事契約 ・ゴルフ練習場人工芝設置竣工 ・実施計画作成9/19	・テニスコートが梅雨明け後、天候回復しても半日以上コンディションが回復しない状況が増 ・陸上競技場器具庫設置工事不落に伴う再入札による工期の遅れ ・台風5号によるスケートCウォームアップ施設屋根膜破れの対応
第3期	・実施計画と公共施設等管理計画による長寿命化工事との関連づけとH30予算要求 ・台風被害に伴うスケートセンターウォームアップ屋根膜補修工事補正予算要求	・ゴルフ練習場人工芝設置、プール深井戸ポンプ取替、陸上競技場器具庫設置、スケートC冷凍機排気管系統交換竣工 ・小学生ハードル購入 ・ウォームアップ施設屋根膜補修のための補正予算確保	予算要求事業のヒアリング及びH31以降工事等計画の見直し(テニスコートのクレーコートの全天候化、トレーニング室の機器類更新等)
第4期	H30予算理事者ヒアリングでの説明等 H30予算決定に伴う、早期発注工事の起工伺い準備 ウォームアップ施設屋根膜工事早期竣工	ウォームアップ施設屋根膜屋根膜補修工事3/27竣工	新年度工事の早期発注と工事の実施

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

・テニスコート全天候化は、クレー・オムニコートすべて改修しないと、totoの補助対象にならないことが判明。
・台風5号の強風によるゴルフ練習場打席棟テントからの大量の雨漏り対策の緊急実施

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

施設設備等の計画的な更新・修理等
・トレーニング機器更新・テニスコート大規模改修・野球場ダッグアウト補修・プールスライダー補修・スケートセンター冷凍機オーバーホール他

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度	当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

運動公園は建設後40年が経過し、大規模改修・大規模整備を必要としている施設ばかりとなった。
厳しい財政状況の中で必要性の高い施設、優先すべき事業の優先順位及び内容を常に検討する必要がある。
併せて施設利用人数や費用対効果を見据え、施設縮小・廃止も含めた施設の公共施設等総合管理計画の個別計画策定をしているが、施設の破損事故や故障等の発生により、翌年度には計画を修正しなければならない状況が発生している。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07040110

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
運動公園全体で大規模改修を必要としてる施設が多数ある中、施設の長期的な整備計画に基づく改修計画が必要であり、施工内容等について十分な打ち合わせをしながら計画をしていく必要がある。	運動公園全体で大規模改修を必要としている施設が多数ある中、施設の長期的な整備計画に基づく改修計画が必要であり、施工内容等について十分な打ち合わせをしながら計画をしていく必要がある。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				レ
現状維持				
縮小				
休廃止				

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
今後の方向性については、費用対効果を十分見据え、事業の優先度・重要度を見直し、施設の廃止・縮小も視野に入れ、効果的な整備計画を検討する。整備計画策定にあたっては、専門的な知識と経験が必要となるので、コンサルタントに業務委託するなど検討する余地がある。整備工事については優先度、重要度の検討や工事内容についても精査しながらスピード化を図ることにより、事業費の拡大をできる限り抑える。	今後の方向性については、費用対効果を充分見据え、事業の優先度・重要度を見直し、施設の廃止・縮小も視野に入れ、効果的な整備計画を検討する。整備計画策定にあたっては、専門的な知識と経験が必要となるので、コンサルタントに業務委託するなど検討する余地がある。整備工事については優先度、重要度の検討や工事内容についても精査しながらスピード化を図ることにより、事業日の拡大をできる限り抑える。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中　村　浩　明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	バッティングセンター管理運営事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030109
担当部署	教育委員会　生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	小　林　亮　介	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	12 総合体育館・運動公園の充実
			事務事業	01 施設維持管理運営事業

予算事業名	バッティングセンター管理運営費	会計コード	001	款	10	項	06	目	02	事業	03

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）		昭和５６年に開設したバッティングセンターは、屋内型の年間を通して使用できる施設であり、多くの利用者に利用していただいている。管理運営は、シルバー人材センターに業務を委託している。管理運営の内容としては、ピッチングマシンのバネの修理、部品の交換、高さの調整、施設内の清掃など管理運営に係る業務一式を委託している。 事業費としては、部品交換、ボール購入等の消耗品費、両替機の修繕料、マット、タオル、モップの使用料などを計上している。
現状と背景（どうして）		開設から３０年以上が経過し、ピッチングマシンや両替機など消耗してきており、部品の交換等の対応をしながら運営を行う必要がある。管理運営にあたっては、職員が常駐できないため、業務を委託している。
目的	対象　受益者（誰のために）	バッティングセンターを利用する全ての方
	対象　対象（直接働きかける）	管理運営業務委託業者（シルバー人材センター）
	意図（どんな状態にしたいか）	バッティングセンターを利用する人が、快適かつ安全に利用できるような状態を維持したい。
手段・方法（どうやって）		部品交換などを素早く行ってもらうよう指導し、マシンの消耗を少しでも減らしていくことで、利用者に不便をかけないようにしていく。 利用者に対し、不快な感情を与えない接遇を心がけるよう指導する。

評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	利用者からの要望に対応できるものは対応し、利便性の向上を図る	修理、調整対応回数	回	修理、調整対応回数	100
	委託業者からの派遣職員に対し、接遇指導を行う	接遇指導回数	回	３ヶ月（四半期）に１回	4
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	バッティングセンターの延べ利用回数の増加	利用回数	回	打席のカウンター数（３月～１１月は１/２、１２月～２月はそのままカウント）	60,000

実施状況（DO）

項目			単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)			円	7,150,189	6,517,773	6,250,700	6,332,121	6,920,000
財源内訳	国庫支出金		円					
	県支出金		円					
	地方債		円					
	その他特定財源		円	7,150,189	6,517,773	6,250,700	6,332,121	6,920,000
	一般財源		円					
職員数	正規職員		人	0.11	0.11	0.11	0.10	0.10
	嘱託職員		人					
	臨時職員		人					
	合計		人	0.11	0.11	0.11	0.10	0.10
対象（者）数								
延利用（者）数 (b)				64,494	68,398	64,584		
単位コスト (a)/(b)			円	111	95	97	－	－
受益者負担額			円	12,000,000				
市民一人当たりのコスト			円	127.00	116.00	112.00	114.00	139.00
活動指標	修理、調整対応回数	目標	回	100	100	100	100	100
		実績		105	110	105	120	100
		達成率	%	105.00	110.00	105.00	120.00	100.00
	接遇指導回数	目標	回	4	4	4	4	4
		実績		0	2	3	2	3
		達成率	%	0.00	50.00	75.00	50.00	75.00
	－	目標	－					
		実績						
		達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	利用回数	目標	回	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
		実績		64,494	68,398	64,584	72,158	65,000
		達成率	%	99.22	105.23	99.36	111.01	100.00
	－	目標	－					
		実績						
		達成率	%	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	バッティングセンター管理運営事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030109
担当部署	教育委員会　生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	小　林　亮　介	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	利用者からの要望(ポール位置の高さ調整やマシンのバネの交換など)に対し、即時対応するよう、指導、監督を行っていく。 ピッチングマシン入替工事の早期発注を進める。	・ピッチングマシンの交換設置5/23 ・ポール購入業者選定事務 ・バッティングセンター管理運営委託業務契約事務	利用回数が前年度同期に比べ、増加してきている。施設の大規模な改修やピッチングマシンの交換が望ましいが、財政的に厳しい状況である。
第2期	ポールを定期的に購入し、ポールの入替を行い、利用者の利便性を高める。	・ピッチングマシンの修理、調整 ・ポールの入替作業 ・ピッチングマシンの定期メンテナンス	・ピッチングマシンが古く細かい調整ができない状況である。更新の計画が必要。 ・新たに入れたカーブ対応マシンによるポールの摩耗が激しい。
第3期	冬期間の降雪に備え、除雪機の点検を早期に実施。 12月1日からの料金、営業時間の変更。	・ピッチングマシンの修理、調整 ・ポールの入替作業 ・料金の設定(12月1日～2月28日まで1ゲーム100円に設定) ・営業時間の変更(12月1日～2月28日まで午後9時)	前年が御柱年のためか利用者の減少したが、今のところ利用者が増加している。引き続きホームページなどを利用し、バッティングセンターをPRすることで、利用回数の増加につなげたい。
第4期	バッティングセンターは、通年営業施設であるため、降雪時に素早く除雪を行い、出来るだけ早く利用者が利用できる状態にする。	・ピッチングマシンの修理、調整 ・降雪時の除雪作業、・ポールの入替作業 ・料金の再設定(3月1日～11月30日まで1ゲーム200円に戻す) ・営業時間の変更(3月1日～11月30日まで午後10時) ・2月に凍結による上水道凍結解消工事実施	降雪時に素早く営業開始できるよう除雪に工夫が必要。 冬期間の上水道の凍結対策

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

バッティングマシン5番にカーブを投げられるマシンを導入。元々、5番は3変速で利用頻度が高かったが、利用頻度が高いままとなっている。カーブを投げるため、ポールの摩擦が増えたことで摩耗が早くなり、ポールの購入量が増加した。

新年度の実施計画・予算要求事項（改善・改善策）

バッティングマシンの継続的なメンテナンスに努め、計画的な更新を実施計画に計上していく。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	B
チェック			レ		3			レ		3			レ		3	

課題

施設が老朽化しているので、マシンの不調、両替機の故障、降雪時の球詰まりなど不具合が出ている。解消にあたり、大規模な修繕など長期的な計画に基づき実施するため、優先順位として利用者や施設周辺に危険がある部分、利用者に不都合な部分から着手していく必要がある。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	B
前年度評価シート整理番号	07040109

総合評価

細施策評価前

今年度導入したカーブが投げられるピッチングマシンの人気が高いので、今後、マシンの入替えの際にはカーブ対応のマシンへの変更を検討する必要がある。それぞれの施設に職員が常駐できないため、管理運営業務を引き続き外部へ委託する必要がある。
また、施設の建替は経費的に難しいため、引き続き修繕や部品の交換等で今ある施設を有効活用していく必要がある。

前年度改革・改善策の実施状況：ー

細施策評価後

今年度導入したカーブが投げられるピッチングマシンの人気が高いので、今後、マシンの入替えの際にはカーブ対応のマシンへの変更を検討する必要がある。それぞれの施設に職員が常駐できないため、管理運営業務を引き続き外部へ委託する必要がある。
また、施設の建替えは経費的に難しいため、引き続き修繕や部品の交換等で今ある施設を有効活用していく必要がある。

前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

ピッチングマシンが古く細かい調整ができなくなっている。利用者の安全面を考え計画的な更新が必要。

ピッチングマシンが古く細かい調整ができなくなっている。利用者の安全面を考えて計画的な更新は必要である。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中　村　浩　明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	スケートセンター・ゴルフ練習場・プール管理運営事業	事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030111
担当部署	教育委員会　生涯学習部　スポーツ健康課　スポーツ健康係	作成担当者名	小　林　亮　介	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	12 総合体育館・運動公園の充実
			事務事業	01 施設維持管理運営事業

予算事業名	スケートセンター・ゴルフ練習場・プール管理運営費　会計コード 001 款 10 項 06 目 02 事業 05
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	プールは昭和５２年から営業開始、国際スケートセンターは平成元年に営業開始、平成６年から春季から秋季までの施設有効利用ためゴルフ練習場として開設している。平成１８年度から、管理運営にあたり指定管理者制度を導入しており、指定管理者として㈱パティネレジャーが管理運営を請け負っている。また、平成２８年度からはプールも指定管理に追加した。事業経費として、指定管理者への指定管理料と茅野市減免規定による減免分の補助金等を計上し、指定管理者と連携をとりながらスケートセンター・ゴルフ練習場・プールの管理運営を行っている。
現状と背景（どうして）	スケートセンター・ゴルフ練習場・プールは、開設から20年以上が経過していること、また、屋外施設ということで経年劣化が早いこと、競技として専門性、安全面を考慮し、スケート場、プールの管理運営に長けている指定管理者の管理運営のもと、通年を通して管理運営していく必要があるため。
目的　対象　受益者（誰のために）	スケートセンター・ゴルフ練習場・プール利用者
目的　対象　対象（直接働きかける）	指定管理者（株式会社パティネレジャー）
目的　意図（どんな状態にしたいか）	スケートセンター・ゴルフ練習場・プールの円滑な施設管理運営を行い、利用者が安全かつ快適に利用できる環境を整える。
手段・方法（どうやって）	管理運営にあたり、利用者からの要望を精査し、指定管理者と連絡をとりながら事業を進めていく。施設の修繕等にあたっては、指定管理料の中で対応できるものと、市で対応すべきものを精査し、優先度の高いものから実施していく。 また、指定管理者のモニタリングを行い、運営状況や適正な管理運営が実施されているかをチェックし、指定管理料の適正な運用がなされているかを把握していく。

評価指標の作成

活動指標：行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
指定管理料内での運営がなされているか	最終収支率	%	指定管理料÷営業収支	100
指定管理者とのミーティングを行い、状況を把握し、指示等を行う	ミーティング回数	回	１回/月	12

成果指標：成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
利用者が利用しやすい環境を整え、利用人数を増加させる	スケートセンター・ゴルフ練習場利用者数	人		80,000
同上	プール利用者数	人		20,000

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)		円			51,938,910	52,017,680	51,842,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円			51,938,910	52,017,680	51,842,000
職員数	正規職員	人			0.10	0.05	0.05
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人			0.10	0.05	0.05
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	－	－	931.00	937.00	943.00
活動指標：最終収支率	目標	%			100	100	100
	実績				100	100	100
	達成率	%	－	－	100.00	100.00	100.00
活動指標：ミーティング回数	目標	回			12	12	12
	実績				12	12	12
	達成率	%	－	－	100.00	100.00	100.00
活動指標：－	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標：スケートセンター・ゴルフ練習場利用者数	目標	人			80,000	80,000	80,000
	実績				64,997	64,574	70,000
	達成率	%	－	－	81.25	80.72	87.50
成果指標：プール利用者数	目標	人			20,000	20,000	20,000
	実績				16,003	14,236	18,000
	達成率	%	－	－	80.02	71.18	90.00

備考

事務事業名	スケートセンター・ゴルフ練習場・プール管理運営事業			事業期間	平成 ～ 年度	整理番号	08030111
担当部署	教育委員会　生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	小　林　亮　介	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	指定管理業者と連絡を密に取り合い、ゴルフ練習場の人工芝の購入・敷設を早期に実施する。 プールオープンに必要な手続き等の準備	・ゴルフ練習場管理運営事業計画に基づく、料金及び開場期間の承認 ・人工芝購入契約6/12、納品6/23、設置開始 ・プール営業期間中の粟沢地区一方通行規制事務	ゴルフ練習場の人工芝を購入したが、設置途中なので早期に設置し、入場者増に貢献できるようにする。
第2期	練習場は人工芝設置工事、プールは営業期間中、事故や苦情がないよう委託業者との連絡を密にとる。ｽｹｰﾄｾﾝﾀｰはオープン前に工事が終わるよう発注する。	・ゴルフ練習場の人工芝敷設7/26完了 ・プールのオープン、クローズの準備・片付け ・ｽｹｰﾄｾﾝﾀｰ擁壁補修・冷凍機ﾕﾆｯﾄ排気管系統交換工事発注	利用者数向上につながるPR等、集客方法を検討する必要がある。
第3期	スケートセンター開場の準備を行い、利用者が快適に利用できる状態にする。	・ゴルフ練習場のクローズ ・ｽｹｰﾄC擁壁補修工事竣工11/2 ・ｽｹｰﾄC排気管系統交換工事竣工10/20 ・スケートセンターのオープン	10/22台風21号、10/29台風22号によるｽｹｰﾄｾﾝﾀｰｳｫｰﾑｱｯﾌﾟ場屋根膜破損の緊急対応
第4期	ｽｹｰﾄｾﾝﾀｰｳｫｰﾑｱｯﾌﾟ場屋根膜破損の補正予算及び工事実施 ゴルフ練習場開場の準備とオープン	・スケートセンタークローズ2/18 ・ｳｫｰﾑｱｯﾌﾟ施設屋根膜工事竣工3/27 ・ゴルフ練習場プレオープン3/30	練習場打席シート側面破れがひどくなってきている。 屋根膜工事中に発覚したテントハウス・機械棟の建築確認対応

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

ゴルフ練習場の人工芝購入により、見た目だけでなくボールに付着する汚れも減り、利用者からの評判が良くなった。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

スケートセンターｳｫｰﾑｱｯﾌﾟ場の屋根膜が劣化による亀裂から雨漏りをしているので、できるだけ早い時期に改修する必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度	当年度

視点	妥当性 1	2	3	4	判定	有効性 1	2	3	4	判定	効率性 1	2	3	4	判定	総合評価判定
評価の観点																A
チェック					4			レ		3		レ			2	

課題

スケートセンターの利用者数が減少してきているため、指定管理者として利用者が増加するよう周知・ＰＲや自主活動が必要と考える。茅野市出身の小平奈緒選手のオリンピックでの活躍に便乗する形で一般の利用者増加を望みたい。平成元年のオープンから29年が経過し、施設が老朽化してきている。施設全体の計画的な更新が必要。
ゴルフ練習場の利用者数は昨年に比べ持ち直したが、さらなる利用者の増加を増やすべく、指定管理者と一緒になり利用増への策を講じる必要がある。また、施設については、計画的に補修を行い気持ちよく利用いただけるよう整備を進める。
各プールが古くなっているため、計画的に修繕を進める。

記号の定義
- Ａ：計画どおり事業を進めることが適当
- Ｂ：事業の進め方に改善が必要
- Ｃ：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- Ｄ：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07040111

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
スケートセンター・ゴルフ練習場・プールの管理運営にあたり、専門的知識が必要な施設・設備なので、管理運営ノウハウ・専門知識のある業者による指定管理は、有効であると考えられる。スケート人口が減少している中、小平奈緒選手の偉業を伝える場として、スケートセンターの位置づけを再検討していく必要がある。	スケートセンター・ゴルフ練習場・プールの管理運営にあたり、専門知識が必要な施設・設備なので、管理運営のノウハウ・専門知識のある業者による指定管理は、有効であると考えられる。スケート人口が減少している中、小平奈緒選手の偉業を伝える場として、スケートセンターの位置付けを再検討して行く必要がある。
前年度改革・改善策の実施状況：ー	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
広報や市公式ＨＰにも情報を掲載し、ＰＲすることで、利用者数の増加を図っていく。 スケートセンター・ゴルフ練習場・プールを施設一体管理することで最大限の成果が出せるよう引き続き市と業者とで連携をとっていく。	広報や市公式ＨＰにも情報を掲載し、ＰＲすることで、利用者数の増加を図っていく。 スケートセンター・ゴルフ練習所・プールを施設一体管理することで最大限の効果が出せるよう引続き市と業者とで連携をとっていく。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中　村　浩　明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	市民１スポーツ推進事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030101
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	矢　島　友　喜	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	12 総合体育館・運動公園の充実
			事務事業	09 市民１スポーツ推進事業

予算事業名	市民1スポーツ推進事業	会計コード	001	款	10	項	06	目	01	事業	03

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	市民一人ひとりが豊かなスポーツライフと健康で明るく活力ある生活を実現するため、総合体育大会を開催する。 総合体育大会は、ＮＰＯ法人茅野市体育協会への委託事業とし競技スポーツの３０種目を年間を通じて計画的に実施、開催している。
現状と背景（どうして）	平成17年にＮＰＯ法人化された茅野市体育協会の下部組織には、各種目の３０協会で組織されている。３０協会は、各スポーツ競技規則を熟知していることから、各種目の体育大会を円滑・効率的に企画・開催・運営できるため競技人口の拡大（市民1スポーツ）につながる。
目的 対象 受益者（誰のために）	市内在住、在勤、在学者
目的 対象 対象（直接働きかける）	茅野市体育協会
目的 意図（どんな状態にしたいか）	競技スポーツに取り組んでいる市民を拡大したい。
手段・方法（どうやって）	総合体育大会開催をＮＰＯ法人茅野市体育協会に委託し、年齢・興味・関心・体力・技術・技能レベルに応じた競技大会を企画しもらい、各種目の３１協会との協働により大会運営への支援を行う。 また、広報、各協会報を通じて開催日時等を周知する。

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
大会開催実施	大会回数	回	年間の大会数	31

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
参加人数の増加	参加人数	人	年間参加人数	5,000

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	3,545,900	3,538,000	3,546,440	3,565,167	3,567,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	3,545,900	3,538,000	3,546,440	3,565,167	3,567,000
職員数	正規職員	人	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
対象（者）数			55,515	55,395	55,666	55,737	
延利用（者）数 (b)			3,449	3,849	3,534	3,563	
単位コスト (a)/(b)		円	1,028	919	1,004	1,001	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	63.00	63.00	64.00	64.00	66.00
活動指標	大会回数 目標	回	30	30	30	30	30
	大会回数 実績	回	30	30	30	29	30
	大会回数 達成率	%	100.00	100.00	100.00	96.67	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
	目標						
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	参加人数 目標	人	5,000	5,000	5,000	5,000	4,000
	参加人数 実績	人	3,449	3,849	3,534	3,563	3,800
	参加人数 達成率	%	68.98	76.98	70.68	71.26	95.00
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	市民１スポーツ推進事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030101
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	矢　島　友　喜	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目　標	実　績	課　題
第1期	・委託契約準備 ・8月開催市総体の広報掲載	5月1日委託契約完了 6月11日総合開会式748人　空手70人　マレットゴルフ104人　居合道26人　ゲートボール60人　弓道35人　ソフトボール130人　インディアカ103人 6月17日バドミントン84人　6月18日バレーボール90人 6月25日ウォーキング37人　6月28日ボウリング17名　柔道31人	各種目体育大会の問題点など細かく情報収集できるよう報告書の内容について検討を進める。
第2期	昨年以上の参加者拡大を目標とする	7月9日卓球70人　7月23日剣道56人　7月29日陸上競技561人 7月30日バスケットボール91人　サッカー計474人 8月20日水泳85人　山岳41人	参加者の減少が見られる競技は、周知の方法・開催日の検討が必要。
第3期	昨年以上の参加者拡大を目標とする	10月8日スロービッチ・ソフトボール35人　10月9日グラウンドゴルフ26人　10月15日合気道32名 11月3日硬式テニス47人	参加者の減少が見られる競技は、周知の方法・開催日の検討が必要。
第4期	昨年以上の参加者拡大を目標とする	2月11日カーリング30人 2月14日スケート258人 3月5日少林寺50人　参加	参加者の減少が見られる競技は、周知の方法・開催日の検討が必要。

事　中　評　価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

体育協会にハンドボール協会が新たに加入したこともあり、今後、総合体育大会に加えるか検討が必要。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

少子高齢化によって参加者が減少しているので、幼児期等からの運動習慣を身に着け今後の競技人口の拡大を目指す。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	B
チェック			レ		3			レ		3			レ		3	

課題

人口減や競技者の高齢化などにより競技人口も減少してきている。競技によっては、他大会と日程が重なる競技があり、慎重な計画が必要。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	B
前年度評価シート整理番号	07040101

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
総合体育大会は、競技スポーツに取り組んでいる市民の拡大のために開催しているが、競技人口の減少も進み、総合的な改革が必要である。	総合体育大会は、競技スポーツに取り組んでいる市民の拡大のため開催しているが、競技人口の減少も進み、総合的な改革が必要である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

成果の方向性	細施策評価前 皆減	縮小	現状維持	拡大	細施策評価後 皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦				
現状維持		③	⑥ レ	⑨			レ	
縮小		④	⑧	⑩				
休廃止	①							

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
限られた財源の中で効果的な大会開催ができるよう、業務については、財源を確保し内容をよく精査し、大会開催の内容を充分に検討し、市民１スポーツの拡大を図る。	限られた財源の中で効果的な大会開催ができるよう、業務については、財源を確保し内容をよく精査し、大会開催の内容を充分に検討し、市民１スポーツの拡大を図る。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中　村　浩　明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	スポーツ大会開催関連事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030102
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	矢　島　友　喜	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	12 総合体育館・運動公園の充実
			事務事業	06 スポーツ活動充実事業

予算事業名	スポーツ大会開催関連費	会計コード	001	款	10	項	06	目	01	事業 04

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	各種大会事業は、茅野市在住、在勤、在学者が参加する大会（諏訪地方ジュニア陸上大会、長野県中南信ジュニアスピードスケート大会、茅野市ふらば～る大会等）の他、ＮＰＯ法人茅野市体育協会の下部組織である、各協会が誘致した定期的大会（持ち回り）や県内外から選手・役員が参加する大規模大会を支援する。 また、地区大会から予選を勝ち抜いた選手またはチームが全国や国際大会等に出場が決定した時に支援する。
現状と背景（どうして）	各スポーツ競技の大会は、楽しみ志向の人から競技志向の人まで、年齢、興味、関心、体力、技術・技能レベルに応じた競技大会を開催しているが、各大会の主管団体では対応できない業務、また大規模大会などは選手役員で1,000人を超える大会もあるため、協働により大会運営を行うため。
目的 対象 受益者（誰のために）	市内在住、在勤、在学者のスポーツ大会参加者、大規模大会は県内外の選手役員
目的 対象 対象（直接働きかける）	主管団体（運営団体）
目的 意図（どんな状態にしたいか）	各競技スポーツへの意識や生涯スポーツの関心を高め、大会を盛り上げる。 各大会への参加者の拡大、競技レベルアップを図り、全国大会等への出場者を拡大する。
手段・方法（どうやって）	広報ちのやホームページなどに、大会情報の掲載 大規模等開催大会の各スポーツ規則にマッチした必要物品の準備 各主管団体で対応できない大会の事務の代行（諏訪地方ジュニア陸上大会、長野県中南信ジュニアスピードスケート大会、茅野市ふらば～る大会等）等

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
大会開催	大会回数	回	年間の大会数	8

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
参加人数の増加	参加人数	人	年間参加人数	5,000
激励金交付件数の増加	激励金交付件数	件	年間交付件数	80

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	3,640,056	3,554,035	3,562,928	3,824,860	3,754,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	1,920,000	1,920,000	1,920,000	1,920,000	1,920,000
	一般財源	円	1,720,056	1,634,035	1,642,928	1,904,860	1,834,000
職員数	正規職員	人	1.03	1.03	1.03	0.89	0.89
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人				0.17	0.17
	合計	人	1.03	1.03	1.03	1.06	1.06
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)		人	4,161	3,883	4,257	4,507	
単位コスト (a)/(b)		円	875	915	837	849	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	65.00	63.00	64.00	69.00	194.00
活動指標	大会回数 目標	回	8	8	8	8	7
	大会回数 実績	回	8	8	8	8	7
	大会回数 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	参加人数 目標	人	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	参加人数 実績	人	4,161	3,883	4,257	4,507	4,600
	参加人数 達成率	%	83.22	77.66	85.14	90.14	92.00
	激励金交付件数 目標	件	80	80	80	80	80
	激励金交付件数 実績	件	84	74	71	76	78
	激励金交付件数 達成率	%	105.00	92.50	88.75	95.00	97.50

備考

事務事業名	スポーツ大会開催関連事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030102
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	矢　島　友　喜	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	市町村対抗駅伝結団式、市町村駅伝・市町村小学生駅伝、ジュニア陸上等の準備・開催・参加	4/29 市町村対抗駅伝茅野市選手団:35人参加 一般7位　小学生21位 5/21　諏訪ｼﾞｭﾆｱ陸上:568人参加	人口減少に伴う選手人口の減少。 底辺の拡大が必要。 前年度より順位の低下、選手の高齢化。
第2期	大会参加により、選手の競技レベルアップを図る。 各大会への参加者の拡大。各競技スポーツへの意識や生涯スポーツへの関心を高め、大会を盛り上げる。	9/2　諏訪地方陸上:401人参加 9/10　縄文マラソン:1199人参加	マラソン大会の参加者が、増加したが今後この状態を維持できるように底辺拡大が必要。
第3期	昨年以上の参加者拡大を目標とする。 生涯スポーツへの関心を高め、大会を盛り上げる。	10/10　市民スポーツ祭:1800人参加 10/15　ふらば～る大会:84人参加	人口減少に伴う選手人口の減少。 底辺の拡大が必要。
第4期	昨年以上の参加者拡大を目標とする。 生涯スポーツへの関心を高め、大会を盛り上げる。	1/14　県ｼﾞｭﾆｱｽﾋﾟｰﾄﾞｽｹｰﾄ:215人参加 2/11　諏訪地方スケート:200人参加	人口減少に伴う選手人口の減少。 底辺の拡大が必要。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

想定していた1200名定員に達しそうになり、印刷物の数量が懸念された。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

印刷物発行部数を見直し、今後この様な状態が起こるようならば増刷を検討する。
また、参加者の底辺拡大を行い厚みのある大会を開催する。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック			レ		3			レ		3			レ		3	

課題

各スポーツ競技の規則の変更に伴い、大会開催の際に必要物品が増えてきている。
全ての競技について主管団体が大会運営ができるようにする。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07040102

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
諏訪地方ジュニア陸上大会・長野県ジュニアスケート大会は、諏訪郡内及び県内の競技スポーツを行う底辺の拡大を担っているため、継続が必要である。 市民１スポーツを推進るために、各種大会については、市民対象の大きな大会にするために発展させるように推進し、広報活動を行う。	諏訪地方ジュニア陸上大会・長野県ジュニアスケート大会は、諏訪郡内及び県内の競技スポーツを行う底辺の拡大を担っているため、継続が必要である。 市民１スポーツを推進するために、各種大会については、市民対象の大きな大会にするために発展させるように推進し、広報活動を行う。
前年度改革・改善策の実施状況：－	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
各競技スポーツへの意識や生涯スポーツの関心を高める場として必要であるため、大会回数を減らさないことが重要。 また、各大会への参加者の減少は、競技レベル及び競技者の意欲の低減につながるため、多くの参加者に参加を呼びかけ、主管団体、各協会との共催事業として継続していく。参加人数が減少した大会については、減少原因を突き止める必要がある。	各競技スポーツの意識や生涯スポーツの関心を高める場として必要であるため、大会回数を減らさないことが重要である。 また、各大会への参加者の減少は、競技レベル及び競技者の意欲の低下につながるため、多くの参加者に参加を呼びかけ、主管団体、各協会との共催事業として継続していく。参加人数が減少した大会については、減少原因を突き止める必要がある。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中　村　浩　明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	スポーツ団体支援事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030103
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	上　条　直　之	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	12 総合体育館・運動公園の充実
			事務事業	02 スポーツ育成団体支援事業

予算事業名	スポーツ団体育成費	会計コード	001	款	10	項	06	目	01	事業	05

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	・生涯スポーツの推進を図るために、市内のスポーツ活動の中心団体である特定非営利活動法人茅野市体育協会を支援し、スポーツを通して青少年健全育成を進める。 ・スポーツ少年団は、青少年にスポーツの歓びを理解させ、からだと心を育てる組織を社会に作ることを目的に発足しこれを支援する。
現状と背景（どうして）	競技スポーツの競技力向上、地域に根ざしたスポーツ活動の推進及び発展を目指す。
目的　対象　受益者（誰のために）	競技スポーツを行っている市民及びこれから各種スポーツを始める市民。
目的　対象　対象（直接働きかける）	同上
目的　意図（どんな状態にしたいか）	市民１スポーツを目指し、「生涯スポーツ」「競技スポーツ」の振興と充実
手段・方法（どうやって）	特定非営利活動法人茅野市体育協会・スポーツ少年団

評価指標の作成

活動指標：行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
スポーツ祭・大会の参加人数を増やす	大会参加人数	人	大会参加人数	40,000
教室の受講者を増やす	教室受講者数	人	教室受講者数	5,000
体育協会・スポーツ少年団の加盟者を増やす	加盟者数	人	加盟者数	5,000

成果指標：成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
大会参加人数の増加	前年比大会参加者増加率	%	（当年度参加者数－前年度参加者数）／前年度参加者数×１００	105
受講者数の増加	前年比教室受講者増加率	%	（当年度受講者数－前年度受講者数）／前年度受講者数×１００	105

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	3,780,000	3,780,000	3,780,000	3,780,000	3,780,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	3,780,000	3,780,000	3,780,000	3,780,000	3,780,000
職員数	正規職員	人	0.34	0.34	0.34	0.34	0.34
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.34	0.34	0.34	0.34	0.34
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	67.00	68.00	68.00	68.00	114.00
活動指標	大会参加人数 目標	人	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
	大会参加人数 実績	人	42,986	40,013	39,081	39,165	39,500
	大会参加人数 達成率	%	107.47	100.03	97.70	97.91	98.75
	教室受講者数 目標	人	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	教室受講者数 実績	人	4,931	4,807	4,720	4,739	4,800
	教室受講者数 達成率	%	98.62	96.14	94.40	94.78	96.00
	加盟者数 目標	人	5,000	5,000	5,000	4,800	4,100
	加盟者数 実績	人	4,975	4,262	4,191	4,065	4,100
	加盟者数 達成率	%	99.50	85.24	83.82	84.69	100.00
成果指標	前年比大会参加者増加率 目標	%	105	105	105	100	100
	前年比大会参加者増加率 実績	%	105	93	97	100.2	100
	前年比大会参加者増加率 達成率	%	100.00	88.57	92.38	100.21	100.00
	前年比教室受講者増加率 目標	%	105	105	105	100	100
	前年比教室受講者増加率 実績	%	105	86	98	100.4	100
	前年比教室受講者増加率 達成率	%	100.00	81.90	93.33	100.40	100.00

備考

事務事業名	スポーツ団体支援事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030103
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	上　条　直　之	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	体育協会・スポーツ少年団補助金交付準備及び交付 PDCAサイクルシート作成	平成29年5月10日交付 5/23体協分PDCAサイクルシート作成・提出	ランニング教室実施
第2期	ランニング教室	8/11ランニング教室実施	市民スポーツ祭実施
第3期	市民スポーツ祭の実施10/9	市民スポーツ祭の実施10/9 参加者1,700名（含関係者）	市民スポーツ祭への一般参加者の伸び悩み
第4期	各種大会・教室参加者とりまとめ	大会・教室参加者とりまとめ、総会資料へ記載	・体育協会会員・スポーツ少年団員の確保 ・スポーツ協会への名称変更

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

東海大学とのランニング教室の主催が観光協会から体育協会となり、計画や広報などの業務が増加した一方、総合体育館受付業務から撤退した。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

体育協会内で事業の見直しを行っており、結果が出るまでは現状のままとする。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

軽スポーツや一人でできるスポーツの人口が増える一方で、競技スポーツ離れなのか大会参加人数が減少しているので、底辺の拡大から考えて競技人口を増やす必要がある。また、日本体育協会が日本スポーツ協会へ名称を改めることから、都道府県や市町村単位の体育協会も名称変更をしていくことになり、変更した場合、体協旗・徽章・登記など各所に変更をする必要があり、費用が発生する。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07040103

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
市民のスポーツに対する関心は高くなっているため、初心者スポーツ、ニュースポーツ、競技力向上等は要望が多く、市民１スポーツを目指す当市においては、必要な事業となっている。	市民のスポーツに対する関心は高くなっているため、初心者スポーツ、ニュースポーツ、競技力向上等は要望が多く、市民１スポーツを目指す当市においては、必要な事業となっている。
前年度改革・改善策の実施状況：－	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
市民１スポーツを目指す当市においては必要な事業となっている。体育協会の充実を図ることにより「市民１スポーツ」を益々推進する。	市民１スポーツを目指す当市においては必要な事業となっている。体育協会の充実を図ることにより「市民１スポーツ」を益々推進する。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中　村　浩　明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	親子で運動推進事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030104
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	矢　島　友　喜	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	12 総合体育館・運動公園の充実
			事務事業	08 親子で運動推進事業

予算事業名	親子で運動推進事業費	会計コード	001	款	10	項	06	目	01	事業	06

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	幼児トリム教室、小学生エンジョイスポーツ教室は、スポーツ推進委員が担当している教室で、幼児、小学生を対象にスポーツを楽しむきっかけとなるようなスポーツ教室を開催実施し、障がい児童を対象にひよこ教室を開催している。
現状と背景（どうして）	体力の低下、屋内遊びの増加、運動量の減少、学校週５日制、子どものスポーツ離れなど、現在の現状に対応しスポーツ活動の習慣化を図るため。
目的　対象　受益者（誰のために）	障害児童、幼児、小学生とその保護者
目的　対象　対象（直接働きかける）	各教室の指導者
目的　意図（どんな状態にしたいか）	各教室に参加した幼児や小学生が、スポーツを好きになり、スポーツ活動の習慣化を図る。
手段・方法（どうやって）	・スポーツの効果と楽しさを認識できるような教室運営への参画 ・小学生対象：様々なスポーツ種目が体験できる小学生エンジョイスポーツ開催し、スポーツを楽しみ、スポーツを通じての仲間づくりの機会をつくる。 ・保育園年中、年長対象：幼児トリム教室の実施（運動遊びを通して基本的運動能力を身につけ、身体を動かすことの楽しさを知ってもらう） ・障がい児童対象：身体訓練の充実を図るひよこ教室を開催。

評価指標の作成

活動指標：行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
子供の体力向上、生涯スポーツの振興	教室開催数	回	実施回数	50

成果指標：成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
スポーツ活動の習慣化	教室への参加率	%	参加者数／対象者数（割合）	8

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	708,868	638,045	596,036	560,625	663,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	450,000	530,000	515,000	560,625	500,000
	一般財源	円	258,868	108,045	81,036		163,000
職員数	正規職員	人	0.16	0.16	0.16	0.10	0.10
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人				0.12	0.12
	合計	人	0.16	0.16	0.16	0.22	0.22
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)			108	120	132	148	
単位コスト (a)/(b)		円	6,564	5,317	4,515	3,788	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	13.00	11.00	11.00	10.00	30.00
活動指標	教室開催数 目標	回	50	50	50	50	50
	教室開催数 実績	回	69	69	69	69	50
	教室開催数 達成率	%	138.00	138.00	138.00	138.00	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績						
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
	－ 目標	－					
	－ 実績						
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	教室への参加率 目標	%	8	8	8	8	8
	教室への参加率 実績	%	8	8	8	8	8
	教室への参加率 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績						
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	親子で運動推進事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030104
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	矢　島　友　喜	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	・トリム教室、小学生エンジョイスポーツ教室、ひよこ教室の募集 ・各教室の開催準備、実施	トリム年長火曜:25人参加 トリム年長水曜:26人参加 トリム年中:27人参加 エンジョイ:40人参加 ひよこ:14人参加	講師の確保
第2期	スポーツ活動の習慣化を図る	トリム年長火曜:25人参加 トリム年長水曜:26人参加 トリム年中:27人参加 エンジョイ:40人参加 ひよこ:15人参加	講師の確保
第3期	スポーツ活動の習慣化を図る	トリム年長火曜:25人参加 トリム年長水曜:26人参加 トリム年中:27人参加 エンジョイ:40人参加 ひよこ:15人参加	講師の確保
第4期	スポーツ活動の習慣化を図る	トリム年長火曜:25人参加 トリム年長水曜:26人参加 トリム年中:27人参加 エンジョイ:40人参加 ひよこ:15人参加	講師の確保

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

講師の年齢層が上がってきているが、新たな講師の確保が困難である。
ひよこ教室は、今年度から学生ボランティアを迎え講師の充実を図った。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

各教室での学生ボランティアの活用を検討していく。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック				レ	3				レ	3			レ		3	

課題

応募人数が毎年変動するため、講師の人数・依頼が難しい。
幼児トリムに関しては、臨時保育士に依頼をするため、毎年同じ人に依頼するのが困難。
ひよこ教室での講師の確保。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07040104

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
現代の子どもに不足している屋外に出て、人に触れ運動をする機会の確保のために必要な教室である。トリム教室では参加定員を超えることが多くなり、人気が高くなっている。講師の人数を増やすことが必要。 継続実施していく。	現代の子どもに不足している屋外に出て、人に触れ運動をする機会の確保のために必要な教室である。トリム教室では参加定員を超えることが多くなり、人気が高くなっている。講師の人数を増やすことが必要である。 今後も継続して実施していく。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
応募定員が毎年定員に達するよう、広く広報活動をしていくことが必要である。 受講児童に目を行き届かせるため、講師増員が必須。	応募定員が毎年定員に達するよう、広く広報活動をしていくことが必要である。 受講児童に目を行き届かせるため、講師の増員が必要である。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中　村　浩　明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	健康増進・体力づくり推進事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030105
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	矢　島　友　喜	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	12 総合体育館・運動公園の充実
			事務事業	11 健康増進・体力づくり推進事業

予算事業名	健康増進・体力づくり推進事業費	会計コード	001	款	10	項	06	目	01	事業	06

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	健康で心豊かに生活できる活力ある茅野市健康づくりのため、各種スポーツ講座、健康づくり講座等を実施する生涯スポーツ講座を企画、開催する。
現状と背景（どうして）	車社会となり、日常生活運動量が減少し、生活習慣病が増加傾向にある。茅野市健康づくり計画では、運動習慣の目標値を定めており目標に向けて、一人ひとりが健康に必要な知識及び実践活動の方法を学ぶ必要がある。
目的　対象　受益者（誰のために）	高齢者、市民で生涯スポーツに興味のある人
目的　対象　対象（直接働きかける）	茅野市スポーツ推進委員会
目的　意図（どんな状態にしたいか）	生涯スポーツに取り組む市民を拡大したい。
手段・方法（どうやって）	・広報、学校等を通じて開催日時等を周知する。 ・健康づくり計画運動部会事業及び熱年体育大学との連携により推進する。 ・各種実施。

評価指標の作成

活動指標：行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
楽しみながら健康づくりができる	講座参加者数	人	参加者実数	200

成果指標：成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
運動する機会を提供する	開催回数	回	年間実施回数	6

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	114,880	117,713	159,220	132,660	149,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	114,880	117,713	159,220	132,660	149,000
職員数	正規職員	人	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人				0.06	0.06
	合計	人	0.03	0.03	0.03	0.08	0.08
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	2.00	2.00	3.00	2.00	7.00
活動指標	講座参加者数 目標	人	200	200	200	200	200
	講座参加者数 実績	人	151	150	175	174	180
	講座参加者数 達成率	%	75.50	75.00	87.50	87.00	90.00
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標	開催回数 目標	回	6	6	6	6	6
	開催回数 実績	回	11	9	11	8	6
	開催回数 達成率	%	183.33	150.00	183.33	133.33	100.00
	― 目標	―					
	― 実績	―					
	― 達成率	%	―	―	―	―	―

備考

事務事業名	健康増進・体力づくり推進事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030105
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	矢　島　友　喜	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	・生涯スポーツ健康講座の募集を広報・ホームページで行い、多くの参加者を募る。 ・各教室の開催に当たっては、事前準備をしっかり行い確実な運営を行う。		講座に偏りがあるので、広報の仕方を考える。
第2期	参加者拡大をする。	7月9日　体力測定　24人参加 7月19日　親子幼児運動教室　30人参加 7月24日　小学生運動教室　25人参加 9月13日　トレーニング室器具使用説明会　16人参加 9月27日　ヨガ教室　18人参加	50.60代以上の参加者割合が多い。20～40代の参加者を増やす。園児・小学生対象の教室は参加者が多いが、成人対象の教室は参加者が少ない。体力づくりに取り組む市民の拡大を目指すために実施内容、広報の仕方の見直しが必要。
第3期	参加者拡大をする。	10月11日　ヨガ教室　18人参加 10月23日　スロージョギング　15人参加 11月19日　親子でスポーツ教室　10人参加	成人対象の教室は参加者が少ない。体力づくりに取り組む市民の拡大を目指すために実施内容、広報の仕方の見直しが必要。
第4期	参加者拡大をする。		新年度の教室開催に向け、準備を行う。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

成人の参加者は少ないが、幼児及び小学生対象教室への参加は定員を設けなければあふれてしまいそうなほど参加者が多い。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

幼児及び小学生教室を増やし、生涯スポーツとしてつながるようにアプローチしていく。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤ レ	⑦
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック		レ			2			レ		3			レ		3	B

課題

運動講座の内容を充分検討することが必要である。
各講座の参加者が少ないため、広報方法の検討、実施内容を充分検討する必要がある。
年度初めてヨガ教室を開催したが、受講者が取り組みやすいため好評であった。
日中の講座には、仕事を引退した方が受講し体を動かす機会ができ好評だった。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	B
前年度評価シート整理番号	07040105

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
高齢者を対象とした運動講座への期待は大きいと考えられるので、今後も事業を継続していく。 その他の講座は内容が単発のため受講者が集まりにくい。実施内容・方法の検討が必要。	高齢者を対象とした運動講座への期待は大きいと考えられるので、今後も事業を継続していく。 その他の講座は内容が単発のため受講者が集まりにくい。実施内容・方法の検討が必要。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
現状（高齢化社会・子どもの運動離れ・運動する機会の減少）に対応する各教室の計画・実施が必要。 実施内容が継続する教室を実施し、運動の定着を図る。	現状（高齢化社会・子どもの運動離れ・運動する機会の減少）に対応する各教室の計画・実施が必要。 実施内容が継続する教室を実施し、運動の定着を図る。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中　村　浩　明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	自主活動応援事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030106
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	矢　島　友　喜	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06	第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	12	総合体育館・運動公園の充実
			事務事業	10	自主活動応援事業

予算事業名	自主活動応援事業費	会計コード	001	款	10	項	05	目	01	事業	14

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）		地域のニーズを活かし、スポーツリーダーが企画立案したコミュニティースポーツ教室実施に係わる経費を負担し、地域でニュースポーツを普及するため、支援する。 また、中学生の社会体育活動として地域指導者に対し支援していく。
現状と背景（どうして）		地域コミュニティーが崩壊し、地域教育力の低下、無関心層の増加、地域連携不足になっている。スポーツは、身近な運動施設を中心に趣味を同じくする自発的・自主的な活動を支援することで、コミュニティーを芽生えさせる要素を持っている。
目的	対象 受益者（誰のために）	市内の健康や仲間づくりのために運動をしたいと思っている人。 中学生の社会体育活動者。
	対象 対象（直接働きかける）	茅野市スポーツリーダーバンク 市内中学校の社会体育活動の指導者
	意図（どんな状態にしたいか）	身近な小中学校体育館などを会場に、各地区スポーツリーダーがコミュニティースポーツ教室を企画運営し、誰もが、自分の体力に応じて気軽にできるスポーツを楽しみ、コミュニティーを活性化し、健康で明るいまちづくりを目指す。 社会体育競技スポーツ力の向上を図る。
手段・方法（どうやって）		茅野市スポーツリーダーバンクに登録されているスポーツリーダーによる、コミュニティスポーツ教室の実施。 地域の指導者が市内中学校の社会体育活動を行っている者への支援。

評価指標の作成

活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	コミュニティー教室開催	延べ教室開催回数	回	年間実施回数	200
	社会体育活動の普及	述べ教室開催回数	回	年間実施回数	200

成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	スポーツリーダーの登録数	登録者数	人	前年登録者／当年登録者数	100
	コミュニティー教室参加者数	参加者数	人	前年参加者数／当年参加者数	5,500

実施状況（DO）

項目			単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)			円	1,460,020	1,512,852	1,363,068	1,406,120	1,520,000
財源内訳	国庫支出金		円					
	県支出金		円					
	地方債		円					
	その他特定財源		円					
	一般財源		円	1,460,020	1,512,852	1,363,068	1,406,120	1,520,000
職員数	正規職員		人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
	嘱託職員		人					
	臨時職員		人					
	合計		人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
対象（者）数			人					
延利用（者）数 (b)			人					
単位コスト (a)/(b)			円	－	－	－	－	－
受益者負担額			円					
市民一人当たりのコスト			円	26.00	27.00	24.00	25.00	41.00
活動指標	延べ教室開催回数	目標	回	200	200	200	200	200
		実績		271	261	283	266	200
		達成率	%	135.50	130.50	141.50	133.00	100.00
	述べ教室開催回数	目標	回	50	50	50	50	50
		実績		30	30	30	41	45
		達成率	%	60.00	60.00	60.00	82.00	90.00
	－	目標	－					
		実績						
		達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	登録者数	目標	人	60	60	60	60	60
		実績		57	55	54	48	50
		達成率	%	95.00	91.67	90.00	80.00	83.33
	参加者数	目標	人	5,500	5,500	5,500	5,000	5,000
		実績		4,596	3,612	4,379	3,508	4,000
		達成率	%	83.56	65.67	79.62	70.16	80.00

備考：市民プランの細施策において横断的な事務事業である。対象細施策の政策体系番号　03020306

事務事業名	自主活動応援事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030106
担当部署	教育委員会事務局	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	矢　島　友　喜	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目　標	実　績	課　題
第1期	・リーダーバンク総会の準備・開催 ・各教室の募集を行い参加者を増やす	コミュニティスポーツ教室開始	スポーツリーダーの高齢化・新規加入者の不足
第2期	参加者の募集・拡大	ジュニアポーツ教室開催	部活動と社会体育の違いが不明確のため、ジュニアスポーツ教室の実施が難しい。
第3期	参加者の募集・拡大	教室継続	コミュニティスポーツ教室は、参加者の固定化傾向がある。
第4期	参加者の募集・拡大	各教室終了	参加者の固定化

事　中　評　価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

スポーツリーダーの高齢化や少子高齢化の波を受け、コミュニティースポーツへの参加人数が減少傾向にある。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

スポーツリーダーの新規加盟者及び新たなコミュニティースポーツを開催していく。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度	当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック			レ		3				レ	3				レ	3	

課題

スポーツリーダーの人数が減少しているので、新規認定者を増やし組織を充実させ、より内容を充実させることが必要である。
参加者が毎年度固定化している教室がある。新規受講者が増加するよう、スポーツリーダー独自でも、事務局であるスポーツ健康課でも活動や教室の周知を行っていく必要がある。
スポーツリーダーバンクについては、今後の活動の方向性・内容を充分に検討する必要がある。
中学生対象の社会体育活動の競技力向上のために、支援していく必要があるが、実施内容について精査する必要がある。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07040106

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
各地区のスポーツリーダーが行なっているコミュニティスポーツ教室は、各地区の地域スポーツの推進に大きな役割を果たしていると考えられるが、新規受講者が少ない現状がある。今後は、公民館、コミュニティセンターと連携をとりながら事業を行うことで、参加者の増加が見込まれると考えられる。また、各地区での催し事の際に協力事業として招かれている例も多く見受けられる。 ジュニアスポーツ教室の実施により、外部講師を招き競技力向上のために大きな役割を果たしていると考えられるが、指導が伴わない練習（練習試合を含む）は、部活動と実施内容が変わりないため、今後内容を十分検討する。	各地区のスポーツリーダーが行なっているコミュニティスポーツ教室は、各地区の地域スポーツの推進に大きな役割を果たしていると考えられるが、新規受講者が少ない現状がある。今後は、公民館、コミュニティセンターと連携をとりながら事業を行うことで、参加者の増加が見込まれると考えられる。また、各地区での催し事の際に協力事業として招かれている例も多く見受けられる。 ジュニアスポーツ教室の実施により、外部講師を招き競技力向上のために大きな役割を果たしていると考えられるが、指導が伴わない練習（練習試合を含む）は、部活動と実施内容が変わりないため、今後内容を十分検討する。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前 成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後 成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
各地区スポーツリーダーの登録者数を拡大及び教室内容充実のため、スポーツリーダーのための講習会を積極的に参加・開催する（県主催講習会・リーダー主催講習会など）。 社会体育支援活動では、各種目の活動内容を把握しようとしたが、学校の協力が得られず難しい。 ジュニアスポーツ教室の実施は、部活動で実施できない内容（外部講師の指導者を招く等）を支援していく。	各地区スポーツリーダーの登録者数を拡大及び教室内容充実のため、スポーツリーダーのための講習会を積極的に参加・開催する（県主催講習会・リーダー主催講習会など。） 社会体育支援活動では、各種目の活動内容を把握しようとしたが、学校の協力が得られず難しい。 ジュニアスポーツ教室の実施は、部活動で実施できない内容（外部講師の指導者を招く等）を支援していく。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中　村　浩　明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	体育施設環境整備事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030108
担当部署	教育委員会　生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	小　林　亮　介	連絡先	72-8399

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策 06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策 12 総合体育館・運動公園の充実
			事務事業 01 施設維持管理運営事業
予算事業名	体育施設環境整備事業費		会計コード 001 款 10 項 06 目 02 事業 02
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	利用者が安全にかつ快適に利用できる公園になるよう、運動公園内の利用環境整備を行う事業。芝生管理など各種業務の委託を行っている。委託している業務としては、林内整備・草刈・緑化木刈込み、芝生管理、病虫害駆除（アメシロ消毒等）、テングス病及び枯枝伐採、支障木伐採、伐採木ウッドチップ化事業などがある。 希少動物が生息する貴重な公園であるので、それにマッチした環境整備を実施していく。		
現状と背景（どうして）	茅野市運動公園は自然の中にある公園であり、公園林内の木や芝生などに様々な支障が出てくる（アメシロの発生や倒木、芝生が枯れるなど）。放置すれば、安全面でも景観上でも利用者に対し、不利益を与えてしまう。そのため、定期的に公園内の整備を実施していく必要がある。		
目的 対象 受益者（誰のために）	公園を利用する全ての市民		
目的 対象 対象（直接働きかける）	委託業務請負業者		
目的 意図（どんな状態にしたいか）	公園内の利用環境整備を行い、利用者が安全かつ快適に利用できる環境を整える。		
手段・方法（どうやって）	整備にあたり、毎年度定期的に委託が必要な業務があるので、その委託業務の委託料を確保し、業務の早期発注を行う。それ以外の整備については、利用者からの要望を精査し、優先度が高いものから予算化していく。陸上競技場の公認改修工事に伴う芝生の張替と野球場外野に新規で植えた芝生について、平成２５年度から芝生管理委託を業務として追加。		

評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	委託業務件数	委託件数	件	委託業務の発注及び内容検査	15
活動指標					
活動指標					
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	利用者が利用しやすい環境整備を行い、利用人数を増加させる	運動公園内施設利用人数	人	近隣公園、体育練成館を除く運動公園内施設利用人数	320,000
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	15,565,170	15,365,715	14,216,022	13,294,697	14,523,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	15,565,170	15,365,715	14,216,022	13,294,697	14,523,000
職員数	正規職員	人	0.69	0.69	0.69	0.67	0.67
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.69	0.69	0.69	0.67	0.67
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)			289,975	313,145	280,644	308,575	
単位コスト (a)/(b)		円	54	49	51	43	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	277.00	274.00	255.00	239.00	353.00
活動指標	委託件数 目標	件	15	15	15	15	15
	委託件数 実績	件	16	13	18	18	15
	委託件数 達成率	%	106.67	86.67	120.00	120.00	100.00
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	運動公園内施設利用人数 目標	人	320,000	320,000	320,000	320,000	320,000
	運動公園内施設利用人数 実績	人	289,975	313,145	280,644	308,575	310,000
	運動公園内施設利用人数 達成率	%	90.62	97.86	87.70	96.43	96.88
	－ 目標	－					
	－ 実績	－					
	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
備考							

事務事業名	体育施設環境整備事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08030108
担当部署	教育委員会　生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係	作成担当者名	小　林　亮　介	連絡先	72-8399

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	委託業務については、早期発注に努め、利用者が利用しやすい環境を整備していく。	・草刈委託業務発注(ひまわり作業所) ・運動公園内芝生管理着手(長期契約H28～30) ・環境整備業務発注(シルバー人材) ・公園内清掃委託業務(シルバー人材)	今年度から環境整備業務を拡充し、公園内林内整備・草刈・緑化木刈込業務を廃止した。5～11月まで3人体制で業務に従事するため、入念な打ち合わせが必要。
第2期	業務が円滑に進むよう業者との打合せを緊密に行い事業を進める。 病虫害の駆除は、市民や利用者から要望がある前に実施する。	・運動公園内芝生管理(芝刈、施肥、殺菌剤散布等) ・環境整備業務は、草刈や剪定など柔軟に対応できている。 ・病虫害駆除(アメシロ)	・環境整備状況の確認・指示のため、引き続きパトロールが必要。 ・未剪定木の剪定着手 ・アメシロの大量発生
第3期	外部施設の冬期閉鎖に備え、公園内清掃委託業務、公園施設環境整備委託業務について請負業者と打ち合わせを行い、事業を進める。	・運動公園内芝生管理(作業完了) ・環境整備業務(草刈作業完了) ・テングス病処理委託業務発注準備 ・緊急支障木伐採	・環境整備業務の草刈は終了したが、未剪定木が多く、着手できないものが多数残っている。 ・剪定する樹木が増えたことで、剪定した枝葉が増えウッドチップ化する量が増大。
第4期	テングス病・枯枝伐採委託業務の発注を行い、環境整備に努める。 降雪による倒木や倒木の可能性がある危険個所の確認、伐採を行い、利用者の安全を確保する。	・テングス病・枯枝伐採処理委託業務 ・緊急支障木伐採 ・集積枝処理業務竣工	茅野市ニホンリスの会発足により公園内樹木の伐採確認の一本化できた。 剪定する量が増えたことによる、ウッドチップ化費用の増大。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

今年度から環境整備業務をシルバー人材センターに委託したことから、草刈だけでなく低木の剪定や中高木の剪定まで手が回るようになったが、公園内すべてにまでは手を付けられなかった。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

公園内芝生管理業務の長期契約満了に伴う設計額での予算計上のため、予算額の増額計上が必要となる。

今後の方向性

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

評価（CHECK）

評価年度　当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4			レ		3					4	

課題

草刈業務など、毎年度恒常的にかかる経費については、次年度以降も確保する必要がある。
支障木伐採は、運動公園内に危険と思われる樹木が散見されるため、事前にマーキングし、風雨による倒木が起こる前に対応するなど、限られた予算内で被害を拡大させない対応が必要。一方で予算に限りがあるため、事前伐採分の予算化が必要となってくると考えられる。また、高木化させないため、定期的な剪定や頭を止めるなどの作業が必要。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	B
前年度評価シート整理番号	07040108

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
運動公園は16施設あり、施設利用者数が施設全体で年間30万人を超えている。散歩やウォーキングなど統計数値には表れない潜在的な利用者もいるため、経常的な施設の環境整備の必要性、重要性は高いものである。 草刈・剪定業務を民間委託からシルバー人材センターに変更したことで、費用は若干安くなったにもかかわらず、フレキシブルに作業が依頼できるようになり、今まで手が入らなかった樹木の剪定までできるようになった。	運動公園は16施設あり、施設利用者数が施設全体で年間30万人をこえている。散歩やウォーキングなど統計数値には表れない潜在的な利用者もいるため、経済的な施設の環境整備の必要性、重要性は高いものである。 草刈・選定業務を民間委託からシルバー人材センターに変更したことで、費用は若干安くなったにも関わらず、フレキシブルに作業が依頼できるようになり、今まで手に入らなかった樹木の選定までできるようになった。
前年度改革・改善策の実施状況：実施済	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				レ
現状維持				
縮小				
休廃止				

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
限られた財源の中で、効率的、効果的な環境整備ができるよう、委託事業については業務内容の精査及び指示を行い、最少コストの投入で最大の効果が得られるように事業を進めていく。 整備の効果として、成果指標として設定している施設利用者人数が目標値である32万人を超えるよう環境整備を進めていく。	限られた財源の中で、効率的、効果的な環境整備ができるよう、委託事業については業務内容の精査及び指示を行い、最少コストの投入で最大の効果が得られるように事業を進めていく。 整備の効果として、成果指標として設定している施設利用者人数が目標値である32万人を超えるよう環境整備を進めていく。

最終評価年月日	平成30年5月17日	最終評価責任者	スポーツ健康課長	中　村　浩　明

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	団体負担金事務			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08010101
担当部署	教育委員会　生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	作成担当者名	伊　藤　研　一	連絡先	633

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策 06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策 14 芸術・文化の振興・保護・伝承
			事務事業 01 芸術・文化活動振興事業
予算事業名			会計コード 001 款 10 項 05 目 02 事業 19
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	諏訪地区社会教育委員連絡協議会、全国生涯学習市町村協議会、長野県社会保険協会の会費負担。また、文化芸術事業や諏訪美術展の茅野市教育委員会共催負担金。		
現状と背景（どうして）	諏訪地区社会教育委員連絡協議会、全国生涯学習市町村協議会、長野県社会保険協会の構成員であるため。また、茅野市教育委員会が文化芸術事業や諏訪美術展の共催となっているため。		
目的　対象　受益者（誰のために）	諏訪地区社会教育委員連絡協議会、全国生涯学習市町村協議会、共催事業の文化芸術事業・諏訪美術展		
目的　対象　対象（直接働きかける）	同上		
目的　意図（どんな状態にしたいか）	文化芸術事業の振興を図るために、共催負担金を増やす。		
手段・方法（どうやって）	共催事業を実施する。		

評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	共済事業を増やす	共催申請数	数	共催申請数	1
活動指標					
活動指標					
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	共済事業を増やす	事業件数	%	今年度共催数/前年度共催数	100
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	158,620	157,350	238,315	202,315	102,000
財源内訳	国庫支出金	円					
財源内訳	県支出金	円					
財源内訳	地方債	円					
財源内訳	その他特定財源	円					
財源内訳	一般財源	円	158,620	157,350	238,315	202,315	102,000
職員数	正規職員	人	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
職員数	嘱託職員	人					
職員数	臨時職員	人					
職員数	合計	人	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	3.00	3.00	4.00	4.00	3.00
活動指標	共催申請数 目標	数	1	1	1	1	1
活動指標	共催申請数 実績	数	1	1	1	1	1
活動指標	共催申請数 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
活動指標	－ 目標	－					
活動指標	－ 実績						
活動指標	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
活動指標	－ 目標	－					
活動指標	－ 実績						
活動指標	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標	事業件数 目標	%	100	100	100	100	100
成果指標	事業件数 実績	%	100	100	100	100	100
成果指標	事業件数 達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
成果指標	－ 目標	－					
成果指標	－ 実績						
成果指標	－ 達成率	%	－	－	－	－	－
備考							

事務事業名	団体負担金事務			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08010101
担当部署	教育委員会　生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	作成担当者名	伊　藤　研　一	連絡先	633

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	諏訪地区社会教育委員連絡協議会、全国生涯学習市町村協議会、共済事業の文化芸術事業・諏訪美術展等に負担金の交付を行う。	共催事業を実施する。	安易な共催依頼などもあり、全ての共催を受諾することは困難。また、共催申請のタイミングが遅く参加できないなどの課題もある。
第2期	諏訪地区社会教育委員連絡協議会、全国生涯学習市町村協議会、共済事業の文化芸術事業・諏訪美術展等に負担金の交付を行う。	共催事業を実施する。	安易な共催依頼などもあり、全ての共催を受諾することは困難。また、共催申請のタイミングが遅く参加できないなどの課題もある。
第3期	諏訪地区社会教育委員連絡協議会、全国生涯学習市町村協議会、共済事業の文化芸術事業・諏訪美術展等に負担金の交付を行う。	共催事業を実施する。	安易な共催依頼などもあり、全ての共催を受諾することは困難。また、共催申請のタイミングが遅く参加できないなどの課題もある。
第4期	諏訪地区社会教育委員連絡協議会、全国生涯学習市町村協議会、共済事業の文化芸術事業・諏訪美術展等に負担金の交付を行う。	共催事業を実施する。	安易な共催依頼などもあり、全ての共催を受諾することは困難。また、共催申請のタイミングが遅く参加できないなどの課題もある。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

安易な共催依頼などもあり、全ての共催を受諾することは困難。また、共催申請のタイミングが遅く参加できないなどの課題もある。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題：文化芸術振興のために実施される事業に対して共済負担金として支出している。安易な共催依頼などもあり、全て共催を受諾することは困難。また、共済申請のタイミングが遅く参加できないなどの課題もある。社会教育委員の県主催の社会教育関連の会議・研修・講演会等へ参加者数は、他市町村に比べ少ないことが課題となっている。当市の各種社会教育事業の資質向上等に寄与することから、多くの委員に参加していただくよう働きかける。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07010101

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
文化芸術振興のために実施される事業に対して共催負担金として支出しています。文化芸術事業は多岐にわたるため、該当事業がないか情報収集に努めます。また、群・県主催の研修・講演会への参加を促し、地域の社会教育の資質向上につなげることが重要重要性は理解されるが、参加者の増加に繋がっていない。	地域の文化芸術の振興のために、共催に関する相談に応じ適切な助言を行っている。また、社会教育委員に対し、県主催の研修・講演会への参加を促している。
前年度改革・改善策の実施状況：実施済	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

成果の方向性	細施策評価前 皆減	縮小	現状維持	拡大	細施策評価後 皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦				
現状維持		③	⑥ レ	⑨			レ	
縮小		④	⑧	⑩				
休廃止	①							

コスト投入の方向性

改革・改善策	細施策評価前	細施策評価後
	共催助成金として事業を応援します。また、研修・講演会の重要性を理解していただくよう、委員さんへの説明や広報物等の配布をする。	現状を維持しながら、事業の継続について支援していく。また、研修・講演会への積極的参加を社会教育委員に対し促す。

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	生涯学習課長	藤　森　隆

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	団体補助金事務			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08010102
担当部署	教育委員会　生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	作成担当者名	伊　藤　研　一	連絡先	633

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06	第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	14	芸術・文化の振興・保護・伝承
			事務事業	02	生涯学習のまちづくり推進事業

予算事業名	会計コード	001	款	10	項	05	目	01	事業	19

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	連合婦人会・美術協会・女性団体連絡協議会・ボーイスカウト・ガールスカウト、地域の伝統文化活動・文化財保護活動に対して補助を行う。
現状と背景（どうして）	市連合婦人会・市美術協会・市女性団体連絡協議会・ボーイスカウト・ガールスカウト等の活動は、市の生涯学習活動の一翼を担っていただいております。また、地域の伝統文化活動は、コミュニティの活性化・絆づくり等に役立っている補助金を交付することにより、会の活動が更に発展する。
目的　対象　受益者（誰のために）	連合婦人会・美術協会・女性団体連絡協議会・ボーイスカウト・ガールスカウト、区・自治会
目的　対象　対象（直接働きかける）	同上
目的　意図（どんな状態にしたいか）	社会教育の充実、伝統文化の継承・文化財の修復
手段・方法（どうやって）	社会教育登録団体に活動費の補助。区・自治会の伝統文化活動・文化財の修復費の補助。

評価指標の作成

活動指標：行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
社会教育の充実	活動件数	数	申請数	7
伝統文化の継承・文化財の修復	活動件数	数	申請数	2

成果指標：成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
社会教育の充実	活動件数	%	今年度共催数／前年度共催数	100
伝統文化の継承・文化財の修復	活動件数	%	今年度共催数／前年度共催数	100

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	350,000	350,000	650,000	950,000	1,732,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	350,000	350,000	650,000	950,000	1,732,000
職員数	正規職員	人	0.01		0.01	0.01	0.01
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.01		0.01	0.01	0.01
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	6.00	6.00	12.00	17.00	33.00
活動指標　活動件数	目標	数	6	6	6	8	12
	実績		6	6	6	8	11
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	91.67
活動指標　活動件数	目標	数					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
活動指標　－	目標	－					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標　活動件数	目標	%	100	100	100	100	100
	実績		100	100	100	100	92
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	91.67
成果指標　活動件数	目標	%					
	実績						
	達成率	%	－	－	－	－	－

備考	平成27年度から事務事業名等わかりやすい表現に変えた。

事務事業名	団体補助金事務			事業期間	平成　～　年度	整理番号	08010102
担当部署	教育委員会　生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	作成担当者名	伊　藤　研　一	連絡先	633

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	連合婦人会・美術協会・女性団体連絡協議会・ボーイスカウト・ガールスカウト、地域の伝統文化活動・文化財保護活動に対して補助を行う。	社会教育登録団体への補助金は、活動費の重要なウエイトを占めている。また、行政区が行う、伝統文化の継承・文化財保護活動への事業の補助は、コミュニティの絆づくりに役立っている。	社会教育登録団体の役員の高齢化が課題。各行政区へ補助金の認知度が低い。
第2期	連合婦人会・美術協会・女性団体連絡協議会・ボーイスカウト・ガールスカウト、地域の伝統文化活動・文化財保護活動に対して補助を行う。	社会教育登録団体への補助金は、活動費の重要なウエイトを占めている。また、行政区が行う、伝統文化の継承・文化財保護活動への事業の補助は、コミュニティの絆づくりに役立っている。	社会教育登録団体の役員の高齢化が課題。各行政区へ補助金の認知度が低い。
第3期	連合婦人会・美術協会・女性団体連絡協議会・ボーイスカウト・ガールスカウト、地域の伝統文化活動・文化財保護活動に対して補助を行う。	社会教育登録団体への補助金は、活動費の重要なウエイトを占めている。また、行政区が行う、伝統文化の継承・文化財保護活動への事業の補助は、コミュニティの絆づくりに役立っている。	社会教育登録団体の役員の高齢化が課題。各行政区へ補助金の認知度が低い。
第4期	連合婦人会・美術協会・女性団体連絡協議会・ボーイスカウト・ガールスカウト、地域の伝統文化活動・文化財保護活動に対して補助を行う。	社会教育登録団体への補助金は、活動費の重要なウエイトを占めている。また、行政区が行う、伝統文化の継承・文化財保護活動への事業の補助は、コミュニティの絆づくりに役立っている。	社会教育登録団体の役員の高齢化が課題。各行政区へ補助金の認知度が低い。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

社会教育登録団体の役員の高齢化が課題。各行政区へ補助金の認知度が低い。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07010102

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
各団体の役員の高齢化と活動のマンネリ化。 行政区が行う、伝統文化の継承・保護に有効に活用されている。	地域の文化芸術の振興のために、文化財の保存・伝統文化の継承に関する相談に応じ適切な助言を行っていく。
実施済	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

成果の方向性	細施策評価前 皆減	縮小	現状維持	拡大	細施策評価後 皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦				
現状維持		③	⑥ レ	⑨			レ	
縮小		④	⑧	⑩				
休廃止	①							

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
補助金を交付し事業を応援します。現状を維持しながら、事業の継続について支援していきます。	現状を維持しながら、事業の継続について支援していく。

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	生涯学習課長	藤　森　隆

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	文化芸術推進計画策定事業（一般経費）			事業期間	平成 27 ～ 年度	整理番号	08010202
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	北 澤 ゆ き 子	連絡先	632

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06	第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	14	芸術・文化の振興・保護・伝承
			事務事業	01	芸術・文化活動振興事業

予算事業名	会計コード	001	款	10	項	05	目	02	事業	01

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	茅野市は国宝「土偶」（縄文のビーナス・仮面の女神）に代表される世界に誇る縄文文化の歴史遺産を有している。また生涯学習の理念に基づいた市民が自主的に行う創作活動や学習活動が根付いている。これらの資産・環境を活かし育てていくために「文化芸術振興計画」を策定し、今後の茅野市の文化芸術を振興するうえでの目標とその実現に向けた取り組みの方向性を明らかにする。
現状と背景（どうして）	「文化芸術振興基本法（改正後：文化芸術基本法）」の制定を機に、茅野市の豊かで特徴のある文化や芸術活動を、市民や文化芸術に係る団体、文化の継承者等と協働・連携しながら支援し、地域の文化芸術資源の保護・継承・活用を行うことが求められている。
目的　対象　受益者（誰のために）	全市民
目的　対象　対象（直接働きかける）	市民、芸術文化に係る団体、地域の文化の継承者
目的　意図（どんな状態にしたいか）	茅野市の文化芸術の振興を推進していくにあたって、市民、学校、団体、行政等のそれぞれの役割と責務を明らかにし、市民一人ひとりが主役となり、生涯を通じて感性や創造性を育み、心豊かな市民生活を送ることを実現する。
手段・方法（どうやって）	・市民の文化芸術に関するニーズの把握と現状の分析を行い、素案を作成する。 ・市民、文化芸術団体、サポートＣ、地域文化創造と協働で検討委員会を開催し、意見集約→検討→まとめを行う。 ・計画案を市長に提言しパブリックコメントを実施する。 ・計画を決定する。 ・市議会へ報告し、計画の印刷と市民への周知を行う。

評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	策定委員会の開催	策定委員会開催数	回	策定委員会開催数	10
活動指標					
活動指標					
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	文化芸術推進計画策定	文化芸術推進計画策定率	%	文化芸術推進計画策定率	100
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円				136,080	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円				136,080	
職員数	正規職員	人				0.50	
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人				0.50	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	－	－	－	2.00	－
活動指標	策定委員会開催数	目標 回				10	
		実績				9	
		達成率 %	－	－	－	90.00	－
活動指標	－	目標 －					
		実績					
		達成率 %	－	－	－	－	－
活動指標	－	目標 －					
		実績					
		達成率 %	－	－	－	－	－
成果指標	文化芸術推進計画策定率	目標 %				100	
		実績				100	
		達成率 %	－	－	－	100.00	－
成果指標	－	目標 －					
		実績					
		達成率 %	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	文化芸術推進計画策定事業（一般経費）			事業期間	平成 27 ～ 年度	整理番号	08010202
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	北 澤 ゆ き 子	連絡先	632

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	市民館アンケート等の結果から現状と課題を整理し、計画の目指す姿と基本目標の案を作成する。 市民策定委員の就任依頼行う。	策定委員決定。 現状と課題の分析。	庁内検討会・策定委員会の開催。
第2期	月1回程度庁内打ち合わせと策定委員会を開催し、検討を進める。	7/18、8/3に庁内職員検討会開催。計画の概要、基本目標と施策の展開、今後の策定方法について検討。 8/25、9/26策定委員会開催。計画の体系、現状と課題の整理、基本目標について検討。	活動団体や鑑賞者の声を反映するためアンケートによる現状把握が必要である。
第3期	策定委員会を開催し、基本目標、成果指標、計画案を決定する。	11/2、11/24、12/19策定委員会開催。既存事業の確認と新規事業、基本目標ごとの内容整理、全体構成について検討。芸術祭等でのアンケートを実施。	1/31地域経営会議、2/5議会全員協議会への対応。
第4期	地域経営会議、議会全員協議会へ案を提出しパブリックコメントを実施。 策定委員会で最終確認後、計画を決定し印刷を行う。	1/31地域経営会議、2/5議会全員協議会を経てパブリックコメントを実施。3/19策定委員会で案を決定。計画の決定後印刷。	策定は本年度で終了。来年度から進行管理を行う。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

平成29年度で策定終了。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	① レ			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題：文化芸術推進計画（文化芸術振興計画から名称変更）は、平成30年度からの第5次茅野市総合計画の個別計画として、平成29年度中には策定を終えなくてはならないことから、具体的なスケジュールに沿って策定委員会を開催し、策定を進めなければならい。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	B
前年度評価シート整理番号	07010206

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
策定により市が市民や団体、事業者等と協働して行う様々な文化芸術に関する施策を推進していくための基本的な方向を明らかにするとともに、文化芸術活動の拠り所となる考え方を示すことができた。	策定により市が市民や団体、事業者等と協働して行う様々な文化芸術に関する施策を推進していくための基本的な方向を明らかにするとともに、文化芸術活動の拠り所となる考え方を示すことができた。
前年度改革・改善策の実施状況：	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	① レ			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持				
縮小				
休廃止	レ			

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
今後は計画に掲げる事業の推進と進行管理が重要となる。	今後は計画に掲げる事業の推進と進行管理が重要となる。 （本事務事業は、平成29年度で終了とする。）

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	生涯学習課長	藤 森 隆

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	市民館の管理運営事業			事業期間	平成 22 ～ 年度	整理番号	08010204
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	北 澤 ゆ き 子	連絡先	632

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	14 芸術・文化の振興・保護・伝承
			事務事業	01 芸術・文化活動振興事業

予算事業名	会計コード	001	款	10	項	05	目	02	事業	03

事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	茅野市民館は、市民の生涯学習及び地域文化創造の交流拠点として平成17年に開館した。構想から管理運営計画に至るまで市民と協働で策定し、ホール・美術館・図書室などさまざまな機能を持つ文化複合施設として指定管理者制度による管理運営を行っている。開館から12年が経過し、施設の知名度、利用率は向上している一方で、市民の文化芸術活動に関する興味、関心はまだ低いと考えられることから、市民館を核とした身近な文化・芸術活動の発信と充実を図るため、指定管理者と連携し、事業の充実と環境の整備を行っていく。
現状と背景（どうして）	市民館の管理運営は指定管理者制度により行っているため、頻繁な連絡調整を行い意思疎通を図ることが必要である。また、適正に管理運営がされているかについてモニタリングによる監視を行い指導・助言を行う。自主事業の評価・市民館全般に関する市民の意見・要望の把握は市民館協議会において実施する。
目的 対象 受益者（誰のために）	利用者、来館者
目的 対象 対象（直接働きかける）	指定管理者
目的 意図（どんな状態にしたいか）	茅野市の文化芸術活動の拠点として情報の発信を行うと共に、創造の実践や鑑賞の機会の充実を図り、心豊かな市民を育み、文化の香り高いまちづくりに寄与する。施設管理においては、駐車場の確保、計画的な修繕、設備の更新により、市民の満足度の高い環境を維持していく。
手段・方法（どうやって）	指定管理者との連絡調整を密に行い、きめ細かく施設の状況把握をする。また、全庁的に導入しているモニタリング形式にそってモニタリングを行う。 市民館協議会において、実施した自主事業に対する評価を行う。

評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	モニタリング数	モニタリング数	数	モニタリング数	12
活動指標					
活動指標					
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	市民館の入館者数	入館者数	人	入館者数	130,000
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	193,566,888	204,553,778	188,790,000	218,428,245	191,506,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円	2,250,000				
	地方債	円					
	その他特定財源	円	5,150,000	8,300,000	4,500,000	6,040,000	2,400,000
	一般財源	円	186,166,888	196,253,778	184,290,000	212,388,245	189,106,000
職員数	正規職員	人	0.26	0.55	1.35	0.64	0.64
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人	0.10	0.80			
	合計	人	0.36	1.35	1.35	0.64	0.64
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	3,447.00	3,654.00	3,385.00	3,935.00	3,544.00
活動指標	モニタリング数	目標 数	12	12	12	12	12
		実績 数	12	12	12	12	12
		達成率 %	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	－	目標 －					
		実績 －					
		達成率 %	－	－	－	－	－
	－	目標 －					
		実績 －					
		達成率 %	－	－	－	－	－
成果指標	入館者数	目標 人	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000
		実績 人	144,699	142,440	148,734	148,690	150,000
		達成率 %	111.31	109.57	114.41	114.38	115.38
	－	目標 －					
		実績 －					
		達成率 %	－	－	－	－	－

備考	市民プランの細施策において横断的な事務事業である。対象細施策の政策体系番号　03060702　06010409

事務事業名	市民館の管理運営事業			事業期間	平成 22 ～ 年度	整理番号	08010204
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	北 澤 ゆ き 子	連絡先	632

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	・次期指定管理者の公募手続き開始 ・非常用電源装置用蓄電池交換の実施 ・中長期改修計画・漏水調査業務の着手 ・市民館協議会の開催	・非常用電源装置用蓄電池交換入札と契約 ・中長期改修計画・漏水調査業務入札と契約 ・市民館協議会の開催 ・地域総合センター助成金補正予算計上	・漏水調査結果により今後の対応を検討する ・次期指定管理者選定手続きを進める ・第一駐車場で事故頻発。市長へのメールもあり対応が 必要
第2期	・非常用電源装置用蓄電池交換の実施 ・漏水調査業務の結果確認と今後の対応の協議 ・指定管理者選定審査会による候補者決定	・非常用電源装置用蓄電池交換終了 ・次期指定管理候補者の決定 ・漏水調査結果を受け、漏水対策及び天井張替工事費補正予算計上。ロールスクリーン修繕実施	・漏水対策及び天井張替工事入札、契約手続きを進める ・次期指定管理者との協定内容を検討する
第3期	・次期指定管理者との協定の検討 ・漏水対策及び天井張替工事の実施	・次期指定管理者との協定の検討 ・漏水対策及び天井張替工事の実施	・漏水対策及び天井張替工事工期延長と新たな漏水箇所への対応
第4期	・中長期改修計画のまとめ ・新たな漏水箇所への対応（増工） ・協定書・支払計画書準備	・中長期改修計画のまとめ ・漏水対策及び天井張替工事（増工）の実施 ・協定書・支払計画書準備	・漏水箇所への適切な対応の継続 ・中長期改修計画による施設維持管理、予防保全と長寿命化

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

漏水調査結果を受け、漏水対策及び天井張替工事を補正予算計上し、実施することとなった。施設・設備の経年劣化が進み、不具合が生じている。（ロールスクリーン修繕実施）第一駐車場入口で事故が頻発している。改善要望メールあり。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

開館から13年が経過し、施設・設備の経年劣化と耐用年数の経過がみられる。催事に影響を及ぼさないために、修繕、更新を実施する必要がある。第1駐車場の入口で事故が頻繁に発生している。また改善を求める市民の声もあることから拡幅工事を行う必要がある。

今後の方向性

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

評価年度	当年度

評価（CHECK）

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	B
チェック					4			レ		3					4	

課題

市民館の管理運営は指定管理者制度により行っているため、連絡調整が必要になる。また、適正に管理運営がされているかについてモニタリングによるチェックの必要性がある。
漏水箇所及び原因の特定ができたため、漏水対策及び天井張替工事を補正予算により実施したが、新たな漏水箇所の発見が続き難航している部分もある。
開館から13年が経過し、施設・設備の計画的な改修、更新が必要となるため、中長期改修計画を作成し、現状及び長期的な視野に立った状況の把握を行う。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	B
前年度評価シート整理番号	07010205

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
指定管理者による管理運営がなされているため、モニタリングをし、適正な状況が保たれているか、項目によるチェックが必要です。また、連絡調整を頻繁に行うことで、状況の把握ができることから、早期の問題発見につながると考えられる。	指定管理者による管理運営がなされているため、管理運営計画に沿った運営をしているかの確認が必要である。また、指定管理者、サポートCとの三者会議の開催や市民館協議会を開催し、市民に利用いただく施設を目指していく。
前年度改革・改善策の実施状況：実施済	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③ レ	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持		レ		
縮小				
休廃止				

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
市の公共施設等総合管理計画の個別計画として、茅野市民館中長期改修計画の策定を実施した。今後は計画にある必要な更新を実施するとともに予防保全による長寿命化を図っていくことが重要である。	中長期改修計画を基に適切な改修・更新が必要となる。 文化芸術活動の拠点として、多くの市民に利用されるためにも市民ニーズの把握や事業の評価方法について検討が必要となる。

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	生涯学習課長	藤 森 隆

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	考古館施設管理事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020201
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小 池 岳 史	連絡先	76-2270

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	11 尖石縄文考古館・青少年自然の森の充実
			事務事業	01 維持管理運営事業
予算事業名	考古館施設管理費			会計コード 001 款 10 項 05 目 10 事業 03
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	尖石縄文考古館は、特別史跡「尖石石器時代遺跡」を保存・管理すると共に、2つの国宝「土偶」をはじめ縄文時代の考古資料を収集・収蔵、調査・研究、展示し、子どもから大人まで楽しめる縄文体験学習などの教育普及活動をおこなう施設である。当事業は茅野市の「宝」である「縄文」をまもり、今にいかし、後世に継承するための中核的な役割を果たす尖石縄文考古館の維持と管理に係るものである。			
現状と背景（どうして）	茅野市の「宝」である「縄文」をまもり、今にいかし、後世に継承するため、また、「縄文」を意識したまちづくりと人づくり、「縄文」を活かした観光と地域の活性化を図ると共に、縄文文化の価値や魅力を国内外へ発信するため。			
目的 対象 受益者（誰のために）	茅野市の縄文文化や歴史に関心のある市民および一般愛好者。観光客。			
目的 対象 対象（直接働きかける）	考古館施設、史跡公園			
目的 意図（どんな状態にしたいか）	入館者と来場者に施設及び史跡公園を安全かつ快適に利用してもらえるよう適切な管理をおこなう。 縄文文化の価値や魅力を感じてもらえる環境を整え、入館者と来場者の増加を図る。			
手段・方法（どうやって）	職員による施設・史跡公園、展示・収蔵品の点検見回りを実施する他、①建物設備管理 ②環境衛生管理 ③運営管理 ④プロローグゾーン展示替えの各業務を業者へ委託する。 史跡公園、考古館周辺、及び青少年自然の森の草刈りを業者へ委託し、快適な環境を整える。 考古館及び史跡公園で開催されるさまざまなイベント情報を、マスコミや市報等を通じて広く発信する。			

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	施設内外の安全状況確認	施設内外点検実施回数	回	週１回×５２周	52
活動指標	報道関係者等への情報発信	情報発信件数	件	月３件×１２月	36
活動指標					
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	事故・クレーム件数の削減	事故・クレーム抑制率	%	１－事故・クレーム件数/来館者数	100
成果指標	入館者数の増	入館者数の増	%	H29年度/H28年度	102

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	54,044,876	42,989,000	41,225,208	43,387,919	55,118,000
財源内訳	国庫支出金	円					
財源内訳	県支出金	円					
財源内訳	地方債	円					
財源内訳	その他特定財源	円	8,474,000	9,872,000	14,275,028	11,133,786	
財源内訳	一般財源	円	45,570,876	33,117,000	26,950,180	32,254,133	55,118,000
職員数	正規職員	人	2.45	2.45	0.80	0.80	
職員数	嘱託職員	人					
職員数	臨時職員	人	0.53	0.53			
職員数	合計	人	2.98	2.98	0.80	0.80	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	963.00	768.00	739.00	782.00	995.00
活動指標 施設内外点検実施回数	目標	回	52	52	52	52	52
活動指標 施設内外点検実施回数	実績	回	52	52	52	52	52
活動指標 施設内外点検実施回数	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
活動指標 情報発信件数	目標	件	80	36	36	36	36
活動指標 情報発信件数	実績	件	70	36	47	61	45
活動指標 情報発信件数	達成率	%	87.50	100.00	130.56	169.44	125.00
活動指標 －	目標	－					
活動指標 －	実績	－					
活動指標 －	達成率	%	－	－	－	－	－
成果指標 事故・クレーム抑制率	目標	%	100	100	100	100	100
成果指標 事故・クレーム抑制率	実績	%	100	100	100	100	100
成果指標 事故・クレーム抑制率	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
成果指標 入館者数の増	目標	%	103	104	103	102	102
成果指標 入館者数の増	実績	%	135	83	97	111	102
成果指標 入館者数の増	達成率	%	131.07	79.81	93.99	108.82	100.00

備考

事務事業名	考古館施設管理事務			事業期間	平成 12 ～ 年度	整理番号	07020201
担当部署	教育委員会事務局	尖石縄文考古館	考古館係	作成担当者名	小池岳史	連絡先	76-2270

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	史跡公園管理委託業務(草刈)入札と業務開始 消防設備修繕(河西報知機)の計画的実施 施設の日常的な定期点検の実施 施設内外の安全状況確認(日常管理点検) 報道等への情報提供	史跡公園管理委託業務開始 消防設備修繕(火災報知器)の計画的実施 施設の日常的な定期点検の実施 施設内外の安全状況確認(日常管理点検) 報道等への情報提供	施設の日常的な定期点検により判明した異常個所が、表面的あるいは構造に関わるものなかなど、わからないものが少なくない。
第2期	史跡公園管理委託業務実施 施設内外の安全状況確認(日常管理点検) 考古館キャノピー雨樋設置工事の入札と発注 報道等への情報提供	史跡公園管理委託業務実施 施設内外の安全状況確認(日常管理点検) 考古館キャノピー雨樋設置工事の入札と発注 報道等への情報提供	
第3期	史跡公園管理委託業務実施 施設内外の安全状況確認(日常管理点検) 消防設備修繕(避難誘導灯)の計画的実施 考古館キャノピー雨樋設置工事の実施 報道等への情報提供	史跡公園管理委託業務実施 施設内外の安全状況確認(日常管理点検) 消防設備修繕(避難誘導灯)の計画的実施 考古館キャノピー雨樋設置工事の実施 報道等への情報提供	
第4期	施設内外の安全状況確認(日常管理点検) 消防設備修繕(煙感知器の交換)の計画的実施 考古館テラス手摺交換工事の発注と実施 報道等への情報提供	施設内外の安全状況確認(日常管理点検) 消防設備修繕(煙感知器の交換)の計画的実施 考古館テラス手摺交換工事の発注と実施 報道等への情報提供	建設時の仕様通りに木製の手摺としたが、耐久性を優先するならば、木以外の素材が適当かもしれない。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

冬期を除き増加する来館者の利便性を図るため、喫茶の営業期間を7か月から9.5か月に延長することとした。
史跡公園、考古館周辺、青少年自然の森の箇所別草刈り回数を一部見直した。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥	⑨ レ
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度	当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

考古館は建設から18年が経過しており、設備や内外装等に経年劣化による不具合が多く見られる。特にテラス及びベランダのコンクリート基礎に生じたヒビ割れに対する修繕が必要と思われる。
史跡公園、考古館周辺、及び青少年自然の森の草刈りの仕様が現状に整合しない箇所がある。仕様と箇所別草刈り回数を見直す必要がある。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020201

総合評価

細施策評価前

文化財保護法によると、国宝「土偶」（縄文のビーナス・仮面の女神）、特別史跡「尖石石器時代遺跡」の所有者である茅野市は、これらを「管理をしなければならない」とされている。これらの価値が損なわれることのないよう、現状の把握と見直しをおこない、課題を明確にして、引き続き適切な保存・管理に努める。同時に整備された環境を舞台におこなわれるさまざまなイベント情報の発信を通じ、まちづくり、人づくりにつなげていく。

前年度改革・改善策の実施状況

細施策評価後

茅野市の「宝」である縄文を適切な環境の下で保存・管理し、確実に後世に継承するとともに、縄文文化の価値や魅力を広く発信して、まちづくりや人づくり、観光や地域活性化に活かしていくための重要な施策である。

前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③ レ	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持		レ		
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

国宝をはじめ収蔵・展示する遺物、特別史跡とその周辺の自然環境を確実に次世代に継承するため、また、入館者と来場者に施設と史跡公園を安全かつ快適に利用してもらうため、前年度の管理委託業務を単に踏襲することなく、状況に応じて内容の見直しをおこなう。
考古館の長寿命化を図るため、委託業者と管理課と連携を強化し、異常の箇所や程度を明らかにして、計画的に修繕・改修をおこなう。

施設と史跡公園が担うべき役割を果たせるように、前例を踏襲することなく、現状に即した適切な管理をおこなう。

最終評価年月日	平成30年5月12日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	一般事業費（第70回記念諏訪展支援事業）			事業期間	平成 29 ～ 29 年度	整理番号	08010203
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	北 澤 ゆ き 子	連絡先	632

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	無	政策体系	政策	03	第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06	第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	14	芸術・文化の振興・保護・伝承
			事務事業	01	芸術・文化活動振興事業

予算事業名	一般事業費（第70回記念諏訪展支援事業）　会計コード 001 款 10 項 05 目 02 事業 03
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	平成29年に創立70周年を迎える諏訪美術会は昭和23年から毎年「諏訪展」を開催し、地域の文化芸術活動の振興に寄与してきた。また10年ごとに開催する周年記念展では、一般公募作品展示、物故会員展示、中高生による次世代作家展示等の大規模な展示を計画し、より多くの市民や地域の方々が美術作品に親しむ機会の提供を図っている。第70回記念展の開催年である平成29年は茅野市が開催地となることから、市では会場の施設利用料を負担し開催の支援を行う。
現状と背景（どうして）	会場費は例年周年事業の会場となる市・町が負担していることから支援の要望があった。市民憲章の「文化の香り高いまち」を目指すためにも、鑑賞の機会の充実は必要である。
目的 対象 受益者（誰のために）	市民、諏訪地域の住民、美術に関心のある方
目的 対象 対象（直接働きかける）	同上
目的 意図（どんな状態にしたいか）	多くの市民等に美術作品に親しみ、関心を持ってもらう機会とする。
手段・方法（どうやって）	立地、施設、設備ともに作品展示にふさわしい会場で記念展を開催することにより、多くの方々に来館してもらい、創作活動への関心を高める。

評価指標の作成

活動指標 行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
第70回諏訪展の開催	開催数	回		1

成果指標 成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
入館者数	入館者数	人		1,500

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円				514,600	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円				514,600	
職員数	正規職員	人				0.01	
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人				0.01	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	－	－	－	－	－
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	－	－	－	9.00	－
活動指標	開催数	目標 回				1	
		実績 回				1	
		達成率 %	－	－	－	100.00	－
	－	目標 －					
		実績 －					
		達成率 %	－	－	－	－	－
	－	目標 －					
		実績 －					
		達成率 %	－	－	－	－	－
成果指標	入館者数	目標 人				1,500	
		実績 人				1,200	
		達成率 %	－	－	－	80.00	－
	－	目標 －					
		実績 －					
		達成率 %	－	－	－	－	－

備考

事務事業名	一般事業費（第70回記念諏訪展支援事業）			事業期間	平成 29 ～ 29 年度	整理番号	08010203
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	作成担当者名	北 澤 ゆ き 子	連絡先	632

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	諏訪美術会共催申請の受付	使用会場の確定	記念式典等への理事者出席日程調整
第2期	諏訪美術会共催申請の受付と承諾 第70回諏訪展の開催に伴う会場使用料の負担 周知の協力	諏訪美術会共催申請の受付と承諾 9/10～9/17第70回諏訪展の開催 会場使用料の負担 周知の協力	実績の確認
第3期	実績報告書の受領	実績報告書の受領	周年事業のあり方について諏訪美術会と確認
第4期	終了		

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

今年度で終了。
周年事業の会場は毎年の美術展開催の周り順とは別に、4市町での開催となるよう要望した。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	① レ			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性				判定	有効性				判定	効率性				判定	総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		A
チェック					4					4					4	

課題：会場費は例年周年事業の会場となる市・町が負担していることから支援の要望があり会場使用料の負担を実施する。一般公募作品展だけでなく、高校生世代のジュニア展、児童生徒作品展、ワークショップ、会員作品頒布会、記念式典、記念誌発行等の幅広い事業を実施することにより、地域文化の向上に寄与することが期待される。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定：新規事業
前年度評価シート整理番号：

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
高校生世代のジュニア展、児童生徒絵画作品展、親子を対象としたワークショップ等の事業により次世代との交流を深めるとともに多くの来場者により諏訪地域の文化向上に貢献し、広く鑑賞の機会を提供することができた。	高校生世代のジュニア展、児童生徒絵画作品展、親子を対象としたワークショップ等の事業により次世代との交流を深めるとともに多くの来場者により諏訪地域の文化向上に貢献し、広く鑑賞の機会を提供することができた。
前年度改革・改善策の実施状況：－	前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	① レ			

コスト投入の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持				
縮小				
休廃止	レ			

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
周年事業は財政的な負担が大きいこと、開催期間中は施設の他の利用が制限されることから、特定の市が開催地とならないよう、4市町での周り順となるよう要望する。	周年事業は財政的な負担が大きいこと、開催期間中は施設の他の利用が制限されることから、特定の市が開催地とならないよう、4市町での周り順となるよう要望する。 （本事務事業は、平成29年度で終了する。）

最終評価年月日	平成30年5月18日	最終評価責任者	生涯学習課長	藤 森 隆

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	博物館運営事業			事業期間	平成 29 ～ 年度	整理番号	08020309
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	両 角 英 彦	連絡先	73-0300

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03	第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06	第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	10	八ヶ岳総合博物館の充実
			事務事業		ー
予算事業名	博物館運営費			会計コード	001 款 10 項 05 目 08 事業 02
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	博物館は、「収集保存」「調査研究」「展示教育」の３つの機能を統合して行う施設である。貴重な資料を収集し、良好な状態で保存し、世代を超えて引き継いでいくことが使命である。そして、この資料が生まれた背景を分析し、その価値を見出し、調査研究した成果を展示して、教育にいかすことが求められられる。 博物館の運営について、茅野市博物館協議会に諮って、意見を聞き、取り入れ、実施する。				
現状と背景（どうして）	博物館の運営は、博物館協議会で検討され、実施している。学識経験者、教育関係者・博物館関係者から構成される組織で、館長からの諮問に応じる機関である。				
目的 対象 受益者（誰のために）	博物館利用者				
目的 対象 対象（直接働きかける）	博物館協議会委員				
目的 意図（どんな状態にしたいか）	博物館活動の推進のため、事業及び企画について、活発な審議が行われるようにする。				
手段・方法（どうやって）	博物館の実施する事業について、活発な審議が行われるようにする。博物館活動についての議論がスムーズに行われことにつなげるため、事前に、会議資料を委員に届け、内容を確認してもらい、会議に出席していただいている。				

評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	協議会の開催	開催回数	回	年間目標実施回数	2
活動指標					
活動指標					
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	協議会委員出席者数	会議出席率	%	延出席委員数÷委員数×開催数	80
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円			7,871,392	7,996,460	8,565,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円			7,871,392	7,996,460	8,565,000
職員数	正規職員	人			0.05	0.05	0.05
	嘱託職員	人			0.05	0.05	0.05
	臨時職員	人					
	合計	人			0.10	0.10	0.10
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)		人			13,455		
単位コスト (a)/(b)		円	ー	ー	585	ー	ー
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	ー	ー	141.00	144.00	164.00
活動指標 開催回数	目標	回			2	2	2
	実績				2	2	2
	達成率	%	ー	ー	100.00	100.00	100.00
活動指標 ー	目標	ー					
	実績						
	達成率	%	ー	ー	ー	ー	ー
活動指標 ー	目標	ー					
	実績						
	達成率	%	ー	ー	ー	ー	ー
成果指標 会議出席率	目標	%			80	80	80
	実績				68	73	80
	達成率	%	ー	ー	85.23	90.91	100.00
成果指標 ー	目標	ー					
	実績						
	達成率	%	ー	ー	ー	ー	ー

備考：平成29年度から、新たに事務事業評価する。

事務事業名	博物館運営事業			事業期間	平成 29 ～ 年度	整理番号	08020309
担当部署	生涯学習部	文化財課	博物館係	作成担当者名	両角英彦	連絡先	73-0300

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	今年度の事業実施などのため、博物館協議会を開催する。	・6/28、博物館協議会に、事業計画について説明し、意見を聞き、了承を得た。 o（仮称）社会教育推進計画策定のため、博物館の個別計画の「博物館の充実（素案）」を説明し、意見を聞いた。	
第2期	o「博物館の充実（案）」についての意見などを整理し、（仮称）社会教育推進計画（案）に、反映するかを検討する。	o「博物館の充実について（案）」についての企画運営会議と博物館協議会からの意見を踏まえ、「博物館の充実（案）」に反映する内容を整理した。	
第3期	o「博物館の充実（案）」を社会教育策定委員会に提出する。 社会教育計画策定員会で出された意見について、検討する。	o10/24、社会教育委員会に、「博物館の充実（案）」を提出し、検討が始まった。 博物館運営の指標に、企画運営会議提案数を位置付けた。	o進行管理の面から、より適切な指標は何かの検討が必要である。 *予算要求した「滝之湯汐・大河原汐案内マップ」は、内容を充実し、平成31年度作成の方向とする。
第4期	o「博物館の充実について」を博物館協議会に報告する。 ・今年度の実施事業について、博物館協議会に報告する。	o1/11、社会教育委員会で、社会教育推進計画の検討が終了した。3/28、博物館協議会に報告した。（策定は3/30） ・3/28、博物館協議会に、今年度の実施事業について説明し、意見を聞き、了承を得た。	・博物館協議会で出された意見を踏まえ、来年度の事業を進めていく。 +他の部署から連携の提案があった。

事中評価

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

・観察会「大河原せぎﾊﾞｽﾊｲｸ」が好評で、職員が手作りで何版も内容を充実させているが、紙面の制約もあり、専門の業者によるマップ作りが必要になっている。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

・新年度の実施計画 … 茅野市滝之湯汐・大河原汐案内マップ作成

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度：当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題：博物館協議会からは、博物館の運営に関し、様々な意見、提案をいただくが、様々な制約から、実現できるものは、限定的なのが現状である。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	06010601

総合評価

細施策評価前

博物館は、資料の収集を行い、調査と研究を実施し、展示公開して、教育普及活動を行う施設である。こうした活動を、パートーシップの理念に基づき、市民、学校、関係団体、企業などと連携し、進めていく。
博物館協議会の意見などを取り入れ、来年度の開館30周年事業を実施していく。

前年度改革・改善策の実施状況：その他

細施策評価後

・博物館は、資料の収集を行い、調査と研究を実施し、展示公開して、教育普及活動を行う施設である。こうした活動を、パートーシップの理念に基づき、市民、学校、関係団体、企業などと連携し、進めていく。
博物館協議会の意見などを取り入れ、来年度の開館30周年事業を実施していく。

前年度細施策評価における今後の方向性：

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦ レ
現状維持		③	⑥	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				レ
現状維持				
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前

・博物館協議会では、委員全員から意見をいただいた。
各種事業の実施においては、協議会の意見を念頭に、実施していく。
今後も、協議会から活発な意見をいただくよう、資料などの事前配布や、分かりやすい資料作りをする。
・平成30年度の館パンフレット作成により減額となるが、平成31年度に堰の問合せ等に対応するようマップを作成するため、拡大・拡充とする。

細施策評価後

・博物館協議会では、委員全員から意見をいただいている。
各種事業の実施においては、協議会の意見を念頭に、実施していく。
今後も、協議会から活発な意見をいただくよう、資料などの事前配布や、分かりやすい資料作りをする。
・平成30年度は、館パンフレット作成（隔年度）により 館パンフレットの予算は減額となるが、堰の問合せ等に対応するよう平成31年度にマップを作成するため、拡大・拡充とする。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元

平成２９年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	一般事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	07020101
担当部署	教育委員会	文化財課	文化財係	作成担当者名	小　林　健　治	連絡先	76-2386

計画（PLAN）

市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	03 第３章　生涯を通じて楽しく学び続ける、元気で心豊かな市民を育む
			施策	06 第６節　生涯を通じ学び続けることのできる学習機会の充実と場の提供
			細施策	08 文化財の充実
			事務事業	05 一般事業
予算事業名	一般事業費			会計コード 001 款 10 項 05 目 11 事業 01
事務事業の概要（簡潔にわかりやすく）	平成29年度現在、茅野市には、国指定文化財9件、県指定文化財18件、市指定文化財75件、合計102件の指定文化財がある。これらの指定文化財を良好な状態に維持し、保存し、活用して、後世へ引き継いで行かねばならない。まだ未指定の貴重な文化財を見出し、その価値を検証し、指定文化財とすることも責務である。こうした施策を、文化財審議委員会で協議していく。また、「茅野市ミヤマシロチョウの会」と協働し、ミヤマシロチョウを始め、貴重な動植物の保護に努める。			
現状と背景（どうして）	近年、経済の低迷、文化財所有者の高齢化、都市化・地球温暖化等による自然環境の変化により、文化財を取り巻く環境は悪化している。			
目的 対象 受益者（誰のために）	①文化財によりまちづくりを進める市民②文化財を求めて訪れる観光客			
目的 対象 対象（直接働きかける）	茅野市内の文化財			
目的 意図（どんな状態にしたいか）	文化財は、郷土のアイデンティティを形成する重要な遺産である。文化財によって、郷土への理解、愛情が深まり、まちづくりが行われる。この文化財を保護・活用することが、事業の目的である。			
手段・方法（どうやって）	①文化財審議委員会の開催 ②「茅野ミヤマシロチョウの会」への保護管理委託 ③指定文化財説明板の設置			

評価指標の作成

	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
活動指標	必要に応じた文化財審議委員会の開催	文化財審議委員会開催率	%	開催数/必要開催計画数	100
活動指標					
活動指標					
	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
成果指標	保護・保全の状態	文化財保護率	%	保護件数／指定文化財件数	100
成果指標					

実施状況（DO）

項目		単位	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度（予算又は決算額）	平成３０年度事業計画（予算）
事業費等 (a)		円	1,722,385	492,262	616,006	676,210	843,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	1,722,385	492,262	616,006	676,210	843,000
職員数	正規職員	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)		円	―	―	―	―	―
受益者負担額		円					
市民一人当たりのコスト		円	31.00	9.00	11.00	12.00	29.00
活動指標	文化財審議委員会開催率 目標	%	2	2	2	2	3
	実績	%	2	1	1	2	3
	達成率	%	100.00	50.00	50.00	100.00	100.00
活動指標	― 目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―
活動指標	― 目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―
成果指標	文化財保護率 目標	%	100	100	100	100	100
	実績	%	100	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
成果指標	― 目標	―					
	実績						
	達成率	%	―	―	―	―	―

備考：前年度事務事業評価シート名「未指定文化財の指定事務事業」（07020104）をこの事務事業評価シートに変更

事務事業名	一般事業			事業期間	平成　～　年度	整理番号	07020101
担当部署	教育委員会	文化財課	文化財係	作成担当者名	小林　健治	連絡先	76-2386

四半期ごとの管理

期	目標	実績	課題
第1期	①第1回文化財審議委員会開催 ②茅野ミヤマシロチョウの会委託契約締結 ③樹木診断	①第1回文化財審議委員会　5/11開催 ②茅野ミヤマシロチョウの会委託契約　4/20締結 ③市天然記念物「笹原のシダレヤナギ」樹木診断・報告	市天然記念物「笹原のシダレヤナギ」の樹木診断の結果を地元に報告し、今後の管理計画の方向性を確認することができた。行政の財政的支援の有無が課題である。
第2期	①縄文文化講座開催	①縄文文化講座　8/27開催	縄文文化講座は今年度で第22回目となる。今年の講座は大変好評で、会場に用意した席が埋まった。今後も、市民ニーズにあったテーマの選定が課題である。
第3期	①「高島藩主諏訪家墓所」国史跡指定記念事業開催 ②茅野市指定文化財説明板設置	①「高島藩主諏訪家墓所」国史跡指定記念事業記念講演・「大名墓研究会」10/29開催 ②市無形民俗文化財「上古田の火とぼし」説明板設置11月完了	「高島藩主諏訪家墓所」国史跡指定記念事業を諏訪市教育委員会・大名墓研究会と共催で実施することができた。今後も、諏訪市教育委員会と連携し、同史跡の整備・活用していく方策の検討が課題である。
第4期	①第2回文化財審議委員会開催	①第2回文化財審議委員会　3/6開催	下菅沢祖霊桜の市天然記念物指定への提案がなされた。来年度、引き続き指定の検討、及び所有者の意向確認が必要である。

当年度開始後、約６ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化

平成30年度、市天然記念物指定の審議を進めるために必要となる文化財審議委員会開催の経費が不足している。

新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）

文化財審議委員会開催経費は、新規の審議案件の発生に備え、予算計上すべきである。

今後の方向性

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

コスト投入の方向性

評価（CHECK）

評価年度　当年度

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	A
チェック					4					4					4	

課題

文化財審議委員会を形骸化させないために、常に審議案件の掘り起しに留意すべきである。

記号の定義
- A：計画どおり事業を進めることが適当
- B：事業の進め方に改善が必要
- C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

前年度総合評価判定	A
前年度評価シート整理番号	07020104

総合評価

細施策評価前	細施策評価後
文化財審議委員会の内容は、事業計画と事業報告が中心であり、文化財保護に占める意義が低調であった。	市天然記念物の指定について、文化財審議委員会で審議が開始されたことにより、本来の機能を果たしつつある。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改革・改善の方向性（ACTION）

今後の方向性

細施策評価前

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充		②	⑤	⑦
現状維持		③	⑥ レ	⑨
縮小		④	⑧	⑩
休廃止	①			

細施策評価後

成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			レ	
縮小				
休廃止				

コスト投入の方向性

改革・改善策

細施策評価前	細施策評価後
『縄文の里史跡整備・活用基本計画』策定により、平成30年度以降は、同計画に基づき事業を展開していかなければならない。	市内の文化的貴重な財産の掘り起こすと共に、審議委員会で検討し、保護・保全に努める。『縄文の里史跡整備・活用基本計画』策定により、平成30年度以降は、同計画に基づき事業を展開し、文化財の保護活用によるまちづくりを進める。

最終評価年月日	平成30年5月10日	最終評価責任者	文化財課長	両角勝元